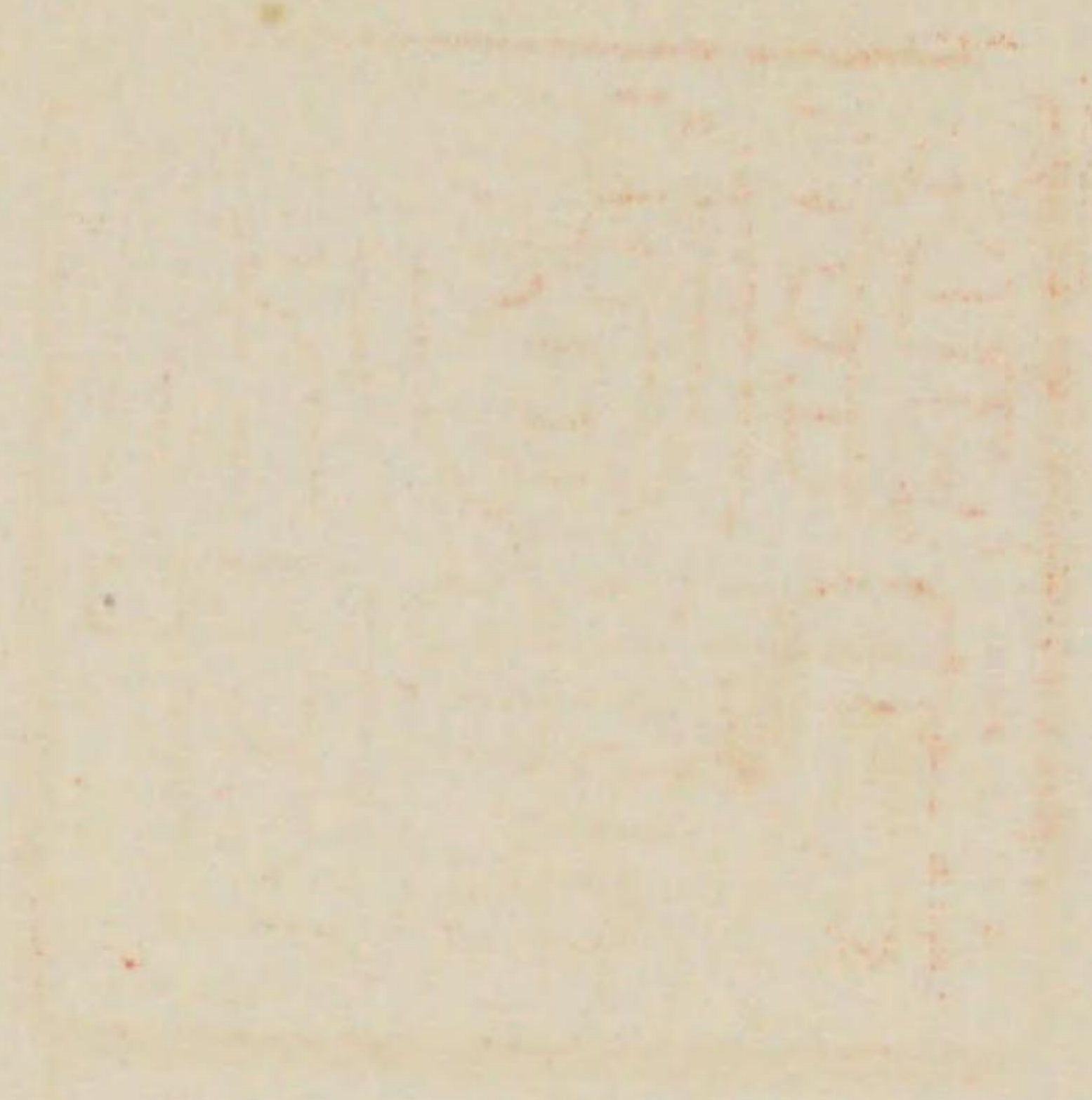


63



大阪教育大学
計画第二期下水送事業誌



727
83

序

近代都市は何れもその發展途上に於て幾多の社會性を含む都市問題を克服し完全なる文化都市の建設へと精進し來つたのであるが、我國に於ける保健施設としての下水道設備たるや、歐米諸國に比し著しき遜色を示し今尙その發達過程を辿りつゝある現状にあり。

本市は明治四十四年度より大正十一年度に至る十ヶ年繼續事業として、舊市を圍る新市區約二方に亘る地域に對し改良工事を實施したるも、當時計畫區域外たりし北區西野田、善源寺、東野田、西區市岡町、泉尾三軒家、四貫島春日出方面は急激なる都市的發展を遂げ、市民の保健衛生上下水道改良工事の緊急實施を必要ならしむるに至れり。下水道改良事業の緊迫性に拘らず、財源の涸渴に禍され、本市下水道設備の完成も著しくその進度を阻まれたるの感なきにあらず。

第一回下水道改良事業實施に際し體驗せし事業の財源問題の如きも未だ法制的解決を見ざりしも、第二回下水道改良事業が都市計畫法の適用に依り都市計畫第一期下水道事業として、大正十一年度以降三ヶ年間の繼續を以て北區西野田、西區市岡町及泉尾三軒

家方面に實施さるゝに當り事業財源への憂慮は一部解消さるゝに至れり。第一期事業の完了に續き、西區四貫島春日出方面竝に北區善源寺、東野田及西野田北部方面も大正十三年度以降三ヶ年の繼續事業として都市計畫第二期事業の實施を見たり。

下水道法の根本的改正はもとより緊急なる先決問題なるも、法規の改正たるや急速に實現を期し難き事情あり。されど下水道設備の問題に至りては保健行政上の重要問題にして、之が實行徒に遷延せんか由々しき都市衛生及社會問題の惹起なきを保し難し。本市に於ける下水道改良事業が都市計畫法に依る事業として之が實現を見たるは、本邦下水道發展史に一光彩を添へしものと言ふを得可く、本事業關係各位の先見と努力に對し衷心敬意を表せざるを得ず。

今回此意義ある都市計畫第一期及第二期下水道事業遂行の經過を記録せる一卷を編輯するに當り所感の一端を記して序とす。

昭和十二年二月

水道部長 島 崎 孝 彦

大阪都市計畫^{第一期}第二期下水道事業誌

目 次

第一章 沿革	一
第二章 大阪都市計畫第一期下水道事業	二
第一節 工事計畫	二
(一) 都市計畫事業としての手續	二
(二) 下水道法による手續	二〇
(三) 第一回計畫變更	二六
(四) 下水道法による變更手續	三六
(五) 第二回計畫變更	四六
第二節 工事の實施	四〇
(一) 着手及竣工	四〇

(二)	工 事 概 要	二
(三)	用 地 の 取 得	三
(四)	主 要 材 料	七
(五)	主 要 請 負 工 事	三
第三節 資金の調達		
(一)	國 庫 補 助 金	六
(二)	受 益 者 負 擔 金	六
(三)	公 債	七
第四節 豫算及決算		
(一)	豫 算	一〇一
(二)	決 算	一一

第三章 大阪都市計畫第二期下水道事業

第一節 工事計畫	一七
----------	----

(一)	都市計畫事業としての手續	一七
(二)	下水道法による手續	二五
(三)	第一回計畫變更	一九
第二節 工事の實施		
(一)	着手及竣工	一五
(二)	工事概要	一六
(三)	用地の取得	一八
(四)	主要材料	二五
(五)	主要請負工事	二五
第三節 資金の調達		
(一)	國庫補助金	一六
(二)	受益者負擔金	一六
(三)	公 債	一七

第四節 豫算及決算……………一五三

(一) 豫算……………一五四

(二) 決算……………二〇八

第四章 施工機關……………二三三

(一) 事業當事者……………二三三

(二) 事業關係者……………三三九

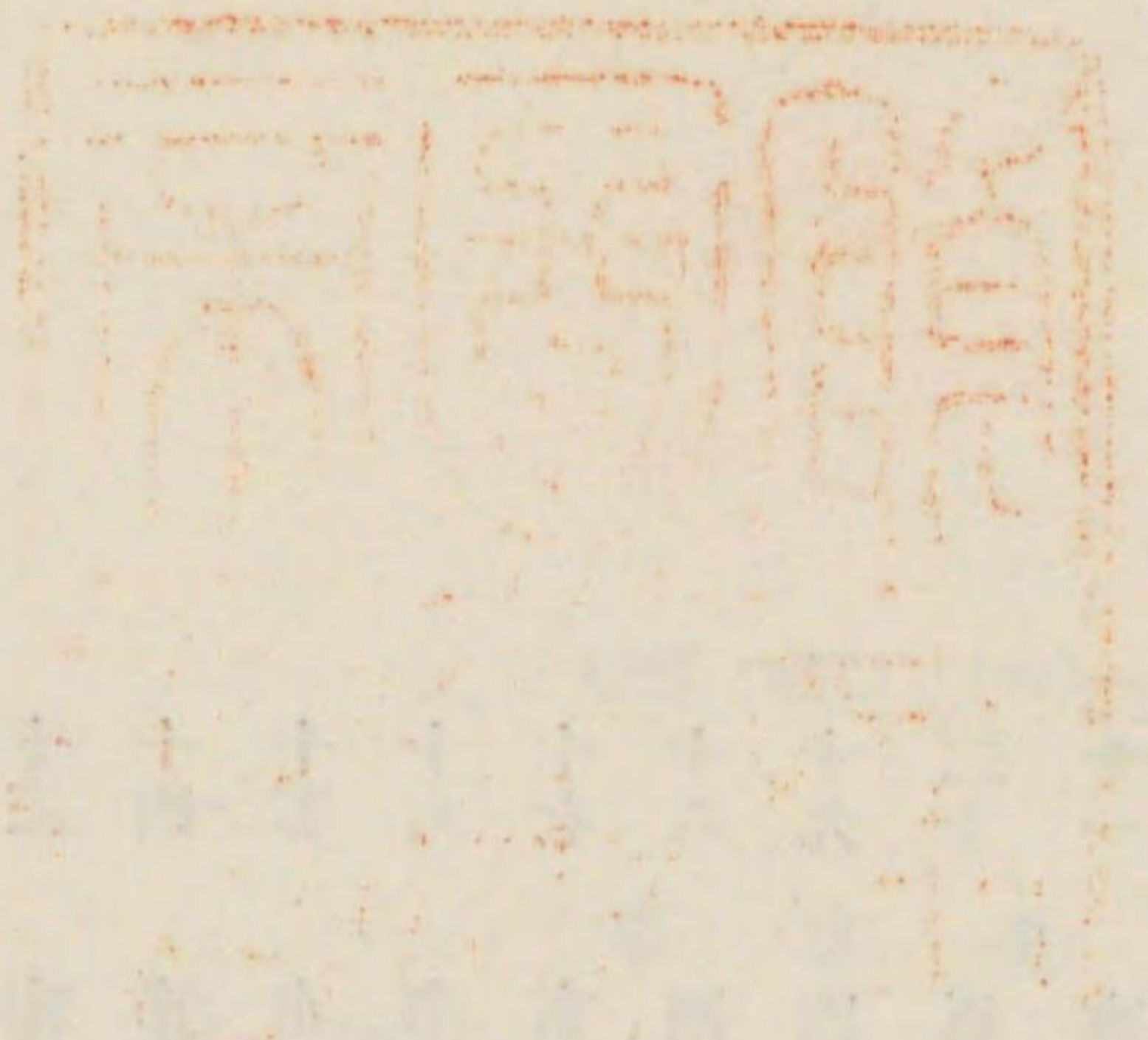
(三) 事務章程……………三三八

圖 面 目 録

- 一 大阪都市計畫第二期下水道事業排水區平面圖
- 二 水管敷設定規圖 其ノ一
- 三 水管敷設定規圖 其ノ二
- 四 泉尾三軒家排水區平面圖及下水道幹線縱斷圖
- 五 泉尾三軒家幹枝線伏越竣功圖
- 六 小林抽水所竣功圖 (一般平面圖)
- 七 市岡排水區平面圖及下水道幹線縱斷圖

- 八 市岡抽水所竣功圖 (一般平面圖)
- 九 市岡抽水所竣功圖 (唧筒室及砂溜井平面圖)
- 十 市岡抽水所竣功圖 (唧筒井、砂溜井斷面圖)
- 十一 市岡抽水所竣功圖 (砂溜井、避溢溝、避溢溝門扉及吐口井之圖)
- 十二 市岡抽水所淨化裝置竣功圖 (促進汚泥法下水處理場平面圖)
- 十三 市岡抽水所淨化裝置竣功圖 (機關室、汚泥槽之圖)
- 十四 市岡抽水所淨化裝置竣功圖 (下水唧筒室、屎尿槽之圖)
- 十五 市岡抽水所淨化裝置竣功圖 (沈澱槽、汚泥槽之圖)
- 十六 市岡抽水所淨化裝置竣功圖 (淨化槽其ノ他斷面圖)
- 十七 市岡抽水所淨化裝置竣功圖 (真空濾過機及基礎之圖)
- 十八 西野田排水區平面圖及下水道幹線縱斷圖
- 十九 四貫島春日出排水區平面圖及下水道幹線縱斷圖
- 二十 恩貴島抽水所竣功圖 (一般平面圖及抽水所砂溜井取入口ヨリ放流河川ニ至ル構造物高低關係圖)
- 二十一 東野田善源寺排水區平面圖及下水道幹線縱斷圖
- 二十二 東野田抽水所竣功圖 (一般平面圖及抽水所取入口ヨリ放流河川ニ至ル構造物高低關係圖)
- 二十三 東野田抽水所竣功圖 (砂溜井唧筒井及唧筒室之圖)
- 二十四 東野田抽水所竣功圖 (唧筒井、唧筒室及吐口井平面圖)
- 二十五 東野田抽水所竣功圖 (唧筒井、唧筒室及吐口井斷面圖)
- 二十六 東野田抽水所竣功圖 (唧筒井、唧筒室下部及砂溜井之圖)

- 二十七 東野田抽水所竣功圖 (吐口井、避溢溝之圖)
- 二十八 東野田抽水所竣功圖 (閘門部、橋梁及洗堰之圖)
- 二十九 東野田抽水所竣功圖 (水路附替暗渠、水管橋、吐口及下水吐溝之圖)
- 三十 西野田排水區平面圖及下水道幹線縱斷圖



大阪都市計畫 第一期 下水道事業誌

第一章 沿革

近代都市は於ける人口の膨脹及び街衢の商工業化の傾向は、必然的に經濟都市大阪の排泄下水量の激増を招來し之が解決方策の緊急樹立を絶對的必要ならしむるに至れり。

本市は水の都の名に背かず地勢概ね平坦にして諸川に富むを以て排泄汚水の河川水質に及ぼす影響甚大にして、本市に於ける保健行政上、下水道施設の問題は都市政策の一大課題たりしのみならず又本市理事者の施政の一重點に屬したり。

同題するに、明治十九年及明治二十三年の兩年度に起りたる虎疫の流行は痛く市民の耳目を衝動せしめ、是を機縁として下水道改良の案成り明治二十六年十月其の具體案を議に上し幾多の曲折を経たる後、明治二十七年以降五ヶ年の繼續事業として工事に着手し逐年工を進めたるも、偶々明治三十年四月接續町村を市部に編入するに及びて其の一部に於ける改良を併せ行ひ、明治三十四年十二月當時に於ける市の中央部殆ど全部に亘る下水道設備を整へたり。

然るに前記編入區域は其後の發展顯著にて耕地は變じて市街住宅地となり、軒檐遽かに櫛比し人口は激増して爰に尨孕たる大都市化を顯現したるも、下水道施設に至りては舊態依然として保健衛生上等閑に附し得ざるものありしか

ば、本市は明治三十九年六月全市に亘る下水道改良計畫の調査に着手し同四十年十月之が方針を確立したるも、明治四十二年度及び明治四十三年度に於ては財政の關係上先づ其の一小部分の施設をなしたるに過ぎず、明治四十四年根本的に財政計畫を樹立し第一回下水道改良事業として拾ヶ年の繼續を以て工事の進捗に努力したりしが、大正三年國庫補助の確定に伴ひ一部財政計畫の變更と共に施行年度を延長し大正十一年度を以て其の完成を見るに至れり。

當時前記改良區域より除外せる市の外廓部に於ては、歐洲大戰以來其の發展頓に著しく下水道施設を緊要とするに至りたるを以て財政上の關係を考慮し是を二分し、大正十一年度より大正十三年度に至る第一期都市計畫事業として西野田、市岡及び泉尾三軒家の三方面に對し、又大正十三年度より昭和二年度に至る第二期都市計畫事業として四貫島春日出、善源寺東野田及び西野田北部の三方面に對し下水道工事を施行する事に至れり。

第二章

大阪都市計畫第一期下水道事業

(大阪第二回下水道改良工事)

第一節 工事計畫

一 都市計畫事業としての手續

下水道の事業の下水道法に基きて之を執行し得ることは、都市計畫法の制定により何等の影響を來たさざるものなるも、事業財源の潤澤を缺く爲めその實施の遅延を餘儀なからしめ、現に本市に於ても痛切に之を體驗し既往十數年

間に亘りて漸く周圍部の工事を施行したるに過ぎざる事實は雄辯に這般の消息を語るものなり。

然るに之を都市計畫事業として執行するとせば、都市計畫法の規定による都市計畫特別税を財源に充つるを得るのみならず更に受益者負擔金を賦課することを得、事業の實施を促進し速かに其の効果を奏し得べき關係あるに鑑み、左記計畫説明書の示す如き工事計畫を樹立したり。

大阪市下水道改良計畫説明書

本市ハ曩キニ明治四十四年度ヨリ大正十一年度ニ至ル繼續事業トシテ下水改良ノ計畫ヲ樹テ國庫補助金ノ下付ヲ受ケ爾後引續キ工事ヲ施行中偶々歐州戰役ニ會シ物價變動ノ爲メ事業進行上ニ多大ノ影響ヲ蒙リ財政計畫ヲ變更スルノ止ムヲ得サルニ立到リタルモ略ホ豫定ノ通り竣功ヲ見ントスルニ到レリ然ルニ計畫當時排水區中ヨリ除外セル外廓部ニ於ケル市街地ニシテ其ノ後發展著シキモノアリ公衆衛生上一日モ現狀ニ委シ難キヲ以テ更ニ引續キ大正十一年度以降二ヶ年半ノ繼續事業トシテ最モ其ノ發展ノ顯著ナル北區西野田、西區市岡町並ニ同區泉尾三軒家方面ノ地域ニ於ケル改良工事ヲ施行シ併セテ左記理由ニ依リ既設抽水所ノ排水能力ヲ増進セシムル計畫ヲ樹テタリ以下(一)北區西野田(二)西區市岡町(三)同區泉尾三軒家方面ノ各幹枝線及抽水所築造工事並ニ(四)既設各抽水所唧筒増設工事ノ順序ニ從ヒテ少シク其ノ内容ヲ説明セントス

一 西野田幹枝線及抽水所築造工事

本排水區ハ舊西成鐵道線路以北南中島水利組合管理水路(俗稱聖天川)及阪神電氣鐵道線路ニ限ラレタル約四十二「ヘクタール」ノ梯形地域ニシテ本計畫ニ於テハ豫定設計ニ從ヒ既設西野田抽水所ニ達スル必要ナル幹枝線ヲ築造シ併セテ之ニ對スル約六十馬力ノ電動唧筒機械ヲ増設スルモノトス

一 市岡幹枝線及抽水所築造工事

本排水區ハ尻無川、安治川及境川運河ニ依リ限ラレタル約九十二「ヘクタール」ノ地域ニシテ現今既ニ整然タル住宅地ヲ形成セルヲ以テ幹枝線ハ主トシテ街路ニ配定セリ而シテ幹線ハ南北ノ方向ヲ取り既設電氣鐵道及計畫臨港鐵道線路ヲ横斷シテ尻無川沿岸ニ到リ西折シテ抽水所ニ達ス

抽水所ハ西區福崎町甚兵衛渡ノ下流ニ建設シ總計約三百十五馬力ノ電動唧筒機械ヲ設備シ尻無川ニ汲揚スルノ計畫ニシテ之ヲ市岡抽水所ト稱ス

三 泉尾三軒家幹枝線及抽水所築造工事

本排水區ハ東ハ木津川西ハ尻無川南ハ西區千島町豫定運河ニ圍マル、三角形地域ノ一部分ニシテ其ノ面積約百二十「ヘクタール」トス 本地域中新炭屋町、千島町及北恩加島町ノ大部分竝ニ泉尾町及小林町ノ一部分ハ現在工場地、貯木場或ハ耕作地ノ形態ニアルヲ以テ之ヲ控除シ又三軒家下之町ノ西方ニ南流スル水路ハ今猶ホ小林町方面ニ於ケル耕作地ノ灌溉用水路ニ供シ居ルヲ以テ之カ改良ハ將來二期スルコト、シ唯其際實施ニ當リテ障礙ヲ生セサル様管徑ヲ探定スルニ止メタリ幹線ハ主トシテ南北ノ方向ヲ取り電氣鐵道線路ニ沿ヒ抽水所ニ達ス 抽水所ハ西區小林町ニ建設シ總計約三百四十馬力ノ電動唧筒機械ヲ設備シ雨水ハ千島町運河ニ汲揚シ汚水ハ汲揚後一條ノ排水路ヲ經テ落合上渡ノ下流ニ於テ木津川ニ排出スル計畫ニシテ之ヲ小林抽水所ト稱ス

本計畫ハ目下實施中ノ計畫設計ニ全然準據セリト雖モ抽水所唧筒ニ對シテハ自記雨量計ニ據ル其ノ後ノ雨量觀測竝ニ既設抽水所ニ於ケル經驗ニ鑑ミ抽水量ノ標準ヲ毎時十四耗半ヨリ同二十耗ニ増加スルヲ以テ適當ト認メ之ニ依リ汲揚力ヲ算出セリ

四 既設各抽水所唧筒増設工事

本工事ハ西野田、上福島、北野、櫻川、難波及西濱既設各抽水所ニ新ニ採用セル前記ノ雨量標準ニ基キ唧筒ヲ増設スルモノトス 此等ノ既設各抽水所ニ於テハ其ノ所屬全排水面積ヨリ雨水ノ流集スルニ要スル時間ハ約五十五分トス 然ルニ明治四十四年ヨリ大

正九年ニ至ル最近十ケ年間ニ於ケル大阪府立測候所自記雨量計ノ記録ニ依レハ繼續時間一時間ニシテ強度毎時二十耗以上ノ降雨ハ二十五回アリト雖モ其ノ内毎時二十五耗以上ノモノハ七回ニ止マリ且ツ其ノ繼續時間一時間以上ニ亘ル場合ハ降雨強度ハ漸次減少スル傾向ヲ示シ降雨時間一時間半ニ達スレハ多クハ毎時二十耗以下トナリソレ以上ノモノハ極メテ僅少ニ過キス。一方短時間ニ起ル豪雨ハ潮位ノ關係アリト雖モ先ツ大體ニ於テ避溢溝ノ備ヘニ依リ急ニ應シ得ベキヲ以テ唧筒ハ降雨強度毎時二十耗ノ雨水力抽水所ニ湊流スル場合ニ於テ之カ排除ニ當リ相當ノ餘力ヲ有スルコトヲ目途トシ前記二十耗ヲ以テ標準抽水量ト定メタリ

各抽水所既設唧筒機械ト増設實施ノ結果ニ於ケル唧筒馬力數及臺數等左表ノ如シ

抽水所名	現在唧筒機械		増設實施後唧筒機械		摘要
	唧筒馬力數	臺數	唧筒馬力數	臺數	
西野田	二六、〇	一	二六、〇	一	在來ノ儘
計	七五、〇	一	七五、〇	一	同
上福島	一六、五	一	一六、五	一	在來ノ儘
計	三四、〇	一	三四、〇	一	同
北野	七、〇	一	七、〇	一	在來ノ儘
計	一〇、〇	一	一〇、〇	一	同
野	四、〇	一	四、〇	一	在來ノ儘
計	四、〇	一	四、〇	一	同
計	一〇、〇	一	一〇、〇	一	同

毎秒立方尺

備考 本表ハ大阪測候所自記雨量計ニヨリテ調査シ明治四十四年ヨリ大正九年ニ至ル拾ケ年間ニ於テ降雨時間六十分以上強度毎時二十耗以上ノモノヲ抄録セシモノナリ

五 設 計 ノ 要 領

下水排除ノ方法 下水排除ノ方式ハ總テ合流法ニ依レリ蓋シ新市ハ道路狹隘ナルノミナラス近來地下利用ノ盛ナル爲メ之レニ雨水汚水ノ二溝ヲ併設スルハ事實上殆ント不可能ニ屬シ且ツ上町方面ノ高燥地ヲ除ケハ他ハ總テ低地ニシテ周圍ハ潮汐干満ノ影響ヲ受ケ雨水モ容易ニ放流スルノ途ナキヲ以テ分離法ヲ用フレハ雨水汚水各別ニ其ノ處分ヲ要シ徒ラニ錯雜ヲ招キ且ツ却テ不經濟ニ陥ルノ結果ヲ生スヘキヲ以テ本計畫ニ於テハ全然合流法ヲ採用セリ

下水最後ノ處分 近年文運ノ發達ニ伴ヒ都市ノ下水處分法ハ最重要ナル問題トナルニ到レリ本市ノ如ク河川ヲ主要ナル交通機關ニ使用セル場合ハ特ニ慎重ナル調査ヲ要スヘキハ論ヲ俟タスト雖モ絕對ニ汚水ヲ河川ニ排出セサルカ如キ理想的ノ施設ハ本市ノ經濟今直ニ之レヲ許サス且ツ既設下水道ハ現ニ悉ク河川ニ放流セラレ新市全部ノ下水道ハ未タ改良セラレサル今日ニ於テ深ク本問題ニ立入り理想的ノ計畫ヲ樹ツルモ到底實行ノ餘地ナキヲ以テ先ツ現在ノ民度ニ鑑ミ實施シ得ヘキ程度ニ止メ比較的不急ナル處分問題ハ將來ニ之レヲ譲レリ然レトモ北野、西野田、西九條方面ノ如ク地勢上、下水道ノ流向ヲ何レニ撰擇スルモ損益ナク且ツ其ノ關係スル河川ニシテ港内ニ流入スルモノ、如キハ最後處分ヲ要スヘキ時代ノ到來ヲ考ヘ例令今日多少ノ困難ヲ惹起スヘキ虞アルモ之レヲ河川ニ放流スルコトヲ避ケタリ又後述溢流ノ程度等モ將來ニ到リ既設下水道ヲ變更スル如キ虞ナカランコトヲ期シ其ノ他ノ施設ニ對シテモ常ニ此ノ事項ヲ念頭ニ措キ現今附近惡水路ニ排出スルモノト雖モ將來當該地方ノ發展ニ伴ヒ擴張ノ機運ニ際スレハ更ニ線路ヲ延長シテ排水シ得ルノ餘地ヲ存セリ

雨量 別紙附屬圖表ニ示セル如ク當府立一等測候所ノ觀測ニ據レハ明治二十二年同所ニ於テ毎時觀測ヲ開始セル以來ノ最大降雨ハ明治二十九年八月三十日午後九時ヨリ同十時ニ到ル間ニ起リ其ノ一時間ノ降雨量實ニ六十二耗弱ヲ算セリ蓋シ此ノ如キ降雨ハ二十二年間唯一回ニ過キスト雖モ將來ニ起ルヘキ大雨ハ到底之レヲ豫知スル能ハサルヲ以テ萬全ヲ期シ記録ニ存スル前記最大降雨量ノ最近數六十耗ヲ以テ本計畫ノ標準トセリ。

雨量ノ最近數六十耗ヲ以テ本計畫ノ標準トセリ。

雨量算式ハ從來種々ノ様式アリテ一定セス要スルニ地上ニ降下セル雨水カ下水道ニ達スル割合ヲ算定スルニハ滲透及蒸發ノ多少并ニ降雨強度ノ不均一其ノ他ノ事情ヲ勘考スルヲ要ス降雨ノ強度ハ流域面積ノ増加スルニ從ヒ漸次遞減スヘキハ事實ノ證明スル所ナリ其ノ外流量ノ多少ハ其ノ土地ノ勾配ニ關スルモノナリト雖モ算式中勾配ヲ包含スルハ頗ル煩雜ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ高地低地ニ區別シ現行公式中最モ適當ト信スルモノヲ撰定セリ即チ第七排水區第八排水區ノ如ク勾配比較的急ナル地ニハ「ブリックス」氏公式ヲ其ノ他ノ地勢平坦ニシテ勾配緩ナル低地排水區ニハ「ビュルクリ」氏公式ヲ又排水面積一「ヘクタール」未滿ノ場合ハ遞減率ヲ用ヒサル特種様式ヲ使用セリ

汚水量 本計畫ニ於テ一日一人ノ汚水量ハ七立方尺トシ人口密度ハ歐米諸市ノ實例等ヲモ參照シ「ヘクタール」ノ人口極度ヲ六百人トシ將來發展ノ曉ニ於テモ萬違算ナキヲ期セリ現在人口密度ハ別紙附屬圖表記載ノ如クナルモ是レ固ヨリ各區ノ平均ニ過キサルヲ以テ之レヲ小區域ニ細分スレハ其ノ間ニ或ハ多少ノ相違アルヘシト雖モ合流法ニ於ケル下水道所要ノ斷面積ハ事實上雨量ニ依リテ決定セラレ汚水量ハ殆ント低水位ニ於ケル流速及溢流度ヲ考量スルノ參考タルニ過キス

勾配及流速 本計畫ニ於ケル幹線下水道ノ勾配ハ百二十分ノ一ヨリ千分ノ一ニ到ル範圍内ニ於テ滿流ノ際毎秒時三尺以上ノ流速ヲ保タシムヘキヲ期セリ本市ニ於テハ瀉水裝置ヲ設備セサルヲ以テ可成自洗速度ヲ大ナラシメ以テ汚物ノ沈澱ヲ防クコト必要ナリト雖モ一方ニ於テ道路頗ル狹隘ナル爲メ勾配ヲ急ナラシムルトキハ堀鑿ノ深ヲ増シ沿道家屋ニ及ホス損害尠カラス且ツ終點ニ於テ唧筒ノ揚程ヲ増大スル不利アリ又合流法ニ於テハ分離法ト異リ降雨ノ際自ラ自掃作用ヲ發生スヘキヲ以テ前記ノ標準流速ヲ格守スレハ敢テ違算ナカルヘシ又同一ノ理由ニヨリ管徑ヲ變スル場合ニ於テハ管底ヲ同一ナラシメ各部上流ニ於テ多少ノ餘裕ヲ存セシムルコト、ナセリ第七排水區及第八排水區ニ於テハ高低起伏多ク時々阪路ニ遭遇スルヲ以テ普通ノ標準ニ由リ水量ノ増加スルニ從ヒ漸次管徑ヲ増加シ勾配ヲ緩和スルノ方法ヲ採ル能ハス動モスレハ流速過大トナル虞アルヲ以テ人孔ニ於テ落差ヲ付シ以テ過度ノ勾配ヲ緩和シ流速ハ多クトモ毎秒時八尺ヲ超過セシメサルコト、ナセリ下水道ノ斷面積ヲ定ムルニハ「ガンギエー」クツテル」兩氏

ノ公式ヲ基礎トシテ調製シタル別紙流速及流量表ニ依リ所要ノ管徑ヲ定メ特種断面形ヲ要スル場合ハ同一ノ勾配ニ於テ圓管ト同流量ヲ生スヘキ寸尺ヲ別紙附屬圖表記載ノ圖式法ニ依リ求メタリ

下水道ノ形狀及構造 現今市内ノ下水道ハ不完全ナル開渠ニシテ自ラ塵芥ヲ投棄ヲ促シ疏通ヲ妨ケ惡臭ヲ發生シ體裁井ニ衛生上不利益尠カラサルヲ以テ本計畫ニ於テハ總テ暗渠式ヲ採用シ其ノ排水量ノ多少ニ應ジテ陶管、膠泥管及混凝土暗溝ノ三種ニ分チ口徑五寸以上一尺五寸迄ヲ陶管、一尺八寸以上二尺七寸五分迄ヲ膠泥管三尺以上ヲ暗溝トナセリ又断面形ハ暗溝ニ限リ特ニ馬蹄形トナセリ、該断面形ハ米國「プロビデンス」市技師「アレン」氏ノ發案ニ係ルモノニシテ卵形管ニ比シ低水位ニ於ケル流速ニ乏シキ不利アリト雖モ管高ヲ節約シ得ルヲ以テ本市ノ如キ低地域ニ最モ適當セル形狀ト認メ之レヲ採用セリ陶管ハ常滑燒若クハ伊部燒ヲ使用シ繼手ニハ「オーカム」又ハ「ヤーン」ノ類ヲ填充シ膠泥ヲ以テ其ノ外部ヲ包裝ス、膠泥管ハ管長三尺厚一寸六分乃至二寸トシ螺旋狀鐵條ヲ挿入シ其ノ繼手ハ陶管ニ準スルカ然ラサレハ別ニ合環ヲ用ヒテ接續スルモノトス、暗溝ハ現場ニ於テ築造シ窰窿部ニハ鐵筋ヲ挿入シ又溝底ニハ一ツニハ磨滅ヲ防キ一ツニハ築造後直ニ使用ニ堪エシムル爲メ敷煉瓦ヲナシ尙ホ干流時ニ備フルタメ中央ニ直徑八寸乃至一尺ノ半圓膠泥管ヲ使用セリ

下水管ノ耐力 膠泥管及暗溝窰窿部ノ鐵筋ハ覆土及市營電車ノ重量ヨリ來ル合壓力ヲ安全ニ負擔シ得ヘキヲ期セリ蓋シ動荷重トシテ電車ヲ標準トスルハ一見不經濟ナル如キモ下水管ニ及ホス壓力ハ精確ニ測知スル能ハサルノミナラス工事ノ進捗上或ハ豫定ノ硬化時期ヲ待ツ能ハサル場合アリ或ハ交通上埋戻ヲ急ク場合等ヲ生スヘキヲ以テ充分ノ強度ヲ備ヘシムルハ萬全ノ策ナリトス又陶管ハ前記ノ標準耐荷力ヲ有スヘキ寸法ヲ定メ製造スルノ方針ナリト雖モ鐵道線路ト交叉スル箇所ニ於テハ特ニ安全ヲ保スル爲メ混凝土ヲ以テ之レヲ包圍スルコト、ナセリ

下水道ノ基礎 本市ノ地質ハ概ネ所謂沖積層ニ屬シ細微ナル土砂ノ密集シタルモノニシテ稀ニ粘土ノ點綴ヲ見ルコトアリト雖モ砂利層ノ如キハ絶無ト云フモ不可ナク且ツ概シテ濕潤ニシテ完全ナル基礎ト稱スルヲ得サルモ陶管及膠泥管ノ如キハ既ニ長年月踏固メタル道路上ニ敷設シ得ヘキヲ以テ單ニ敷砂利ニ止メ暗溝ハ幅員大ニシテ一部若クハ全部ヲ現今ノ惡水路敷ニ築造スル場合多キ

ヲ以テ一般ニ杭打ヲ施スコト、シ尙ホ掘鑿後ニ於ケル實地ノ狀況ニ應ジ地杭ノ員數并ニ砂利ノ厚サヲ加減スルモノトス

線路撰定 叙上ノ計畫ニ於ケル下水道線路ハ各戸接續ヲシテ最モ容易ナラシムル爲メ概ネ在來ノ下水渠ヲ撰定セリ此等ノ下水渠ハ總テ耕作地時代ノ用惡水路ニシテ當時市内ノ河川ニ聯絡シ物資運搬ノ便アリタルヲ以テ人家工場等ハ先ツ其ノ兩岸ニ建設セラレ年ヲ逐フテ漸次ニ膨脹シ遂ニ今日ノ市區ヲ形成スルニ到リタルモノニシテ現ニ各部ノ排水ハ總テ之レニ依レリ故ニ下水道ヲ別途ニ撰定スルトキハ其ノ延長著シク増加シ且ツ各戸接續全部ノ變更ヲ要シ著シク工費ヲ増加スヘキヲ以テ多少ノ不便及困難ヲ忍ビ主トシテ在來線路ヲ撰定スルコトトナセリ

人孔及燈火孔 人孔ハ下水道ノ屈折点合流点其ノ他直線内ニ在リテハ四十間以内ノ間隔ニ之レヲ設ケ掃除點檢ヲ容易ナラシメ兼ネテ通風ヲ促サシム孔徑ハ道路面ニ於テ二尺ノ圓形トシ下方ニ降ルニ從ヒ漸次之レヲ擴大シテ三尺以上トナシ孔内ノ作業ニ便ナラシメ又下水中ニ含有スル固形物ヲ沈澱セシムル爲メ接續下水道ノ管底ヨリ六寸以下ニ其ノ底ヲ置ケリ燈火孔ハ人孔ノ中間又屈折頻繁ナル部分ニ於テ人孔ト交互ニ之レヲ設ケ專ラ工費ノ節約ヲ期セリ人孔ノ孔筒ハ混凝土ヲ以テ又燈火孔ハ陶管若クハ混凝土ヲ以テ築造シ何レモ道路面ニ於テ鐵蓋ヲ設ケ

集水口及接續 下水道ニ流入スル雨水及汚水ハ多少ノ土砂其ノ他ノ固形物ヲ伴隨スルヲ以テ其ノ流入ヲ阻止スルタメ雨水溝並ニ各戸ノ汚水管ヲ本管ニ接續スルニ當リテハ必ス集水口ヲ經由セシムルモノトス

集水口ノ寸法ハ略ホ雨水溝ニ則リテ該溝内ニ築設シ雨水及汚水ヲ集メテ本管ニ流入セシムルモノトス私設下水ハ一戸各別ニ管渠ヲ設ケタルアリ又ハ數戸同一ノ管渠ヲ共用セルアリ其ノ構造材質等亦タ一定セスト雖モ暫ク之レヲ現狀ニ止メ各自ノ撰擇ニ任スコトトナセリ

集水口ハ方形ニシテ長一尺幅八寸トシ側壁ハ煉瓦ヲ以テ築造シ雨水溝底ト同高ニ鐵蓋ヲ備ヘ下部ニハ泥溜ヲ設ケ本管トノ接續ニハ五寸土管ヲ使用ス雨水溝ハ其ノ断面積極メテ小ナルヲ以テ相當ノ排水設備ヲ要スヘシト雖モ之レカ完成ニハ莫大ノ工費ヲ要スルト比較的不急ナルトニ依リ本計畫中ニ包含セシムルヲ得サリシト雖モ各幹線ハ事情ノ許ス限り覆土ノ深サヲ大ナラシメ將來ノ接續ニ

支障ナカラシメンコトヲ期セリ

吐 **口** 下水道ノ河川ニ放流スル吐口ニシテ其ノ河川ノ満潮面以下ニ在ル場合ハ自働閉弁ヲ備ヘ外部ヨリノ水壓ヲ利用シテ逆水ヲ防止シ平時ハ自己ノ水勢ニ依リ弁ヲ排シテ流出スルヲ得セシムルモノトス又吐口ハ裝飾ヲ施サスト雖モ混泥土ヲ以テ縁框ヲ築造シ護岸ヲ有セサルモノハ同時ニ之レヲ築造スルモノトス

溢 **流** **溝** 下水最後ノ處分ニ關スル意見ハ前述ノ如ク河川ニ下水ノ放流ヲ許ササル時代ハ早晚到着スルモノト認メ溢流量ヲ定メタリ蓋シ溢流量ヲ定ムルニハ汚水カ其ノ幾倍ノ雨水ヲ以テ稀釋セラレヘキカノ率ヲ以テスルヲ常トス此ノ稀釋度ハ河川ノ模様其ノ他地方的狀況ニヨリ定ムヘキモノニシテ歐米諸都市ノ實例ヲ見ルニ著シキ懸隔アリト雖モ倍率九ヲ超過セルモノハ頗ル稀ナリ故ニ本計畫ニ於テハ安全上該率數ヲ採用セリ然ルトキハ汚水量ノ十倍ニ相當スル下水水量ハ常ニ下流ノ下水道ニ殘留シ殘餘ハ溢流溝ニ依リ流去セラルヘシ即チ吐口ニ於テ溢流溝ノ閘底ハ其ノ上流ニ於ケル下水管カ汚水量ノ十倍ニ相當スル水量ヲ通スヘキ水位ト同高ニ設ケ降雨ニ際シ管内ノ水位昇騰スレハ總テ此ノ閘底ヲ越ヘ溢流溝ニ流出セシムルモノトス

又高地ノ下水管カ低地ノ下水管ト交叉シ附近ニ溢流ヲ許スヘキ河川アルトキハ前述ノ如ク高地管内ノ汚水及其ノ九倍ノ雨水ハ直立管ノ作用ニヨリ低地管ニ取入レ降雨ニ際シ水量増加スルトキハ之レニ伴ヒテ増加スヘキ流速ヲ利用シ定量以外ノ下水ハ直立管ノ取入口ヲ超越シテ溢流溝ニ流出スヘキ裝置トナセリ此ノ場合ニ於テ溢流溝ハ高地管ノ最大水量ヲ排流シ得ヘキ斷面積ヲ與フルモノトス

溢流溝ハ總テ附近河川ノ平均滿潮位以上ニ排出シ得ル場合ニ限り築設スルモノトス

急 **勾** **配** **ニ** **於** **ケ** **ル** **施** **設** 下水道ニ於ケル流速ハ管底ノ磨損ヲ防クタメ一定ノ限度ヲ超過セシムヘカラス此ノ事項ハ自ラ下水道ノ勾配ヲ制限スルヲ以テ第六排水區及第七排水區ノ如キ急勾配ヲ有スル地ニ在リテハ特別ノ施設ヲ要ス本計畫ニ於テハ人孔ニ於テ落差ヲ付シ下水ハ直立管若クハ階段ニ沿フテ落下スルノ設備トナセリ又前記階段ハ道路面ノ勾配非常ニ急峻ナル場合ニ於テハ比較的距離ニ設備スルヲ要シ然ラサレハ多大ノ土工費ヲ要スルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ階段ノ勾配ヲ緩ニシ其ノ急勾配ノ全長ニ對シ

テ石堰ヲ設ク階段及石堰堤ハ何レモ水流ノ磨削作用ヲ防ク爲メ特ニ切石ヲ以テ疊積スルモノトス流速ノ最大限度ハ本計畫ニ於テハ毎秒時八尺トナセリ此ノ限度ハ稍ヤ高キニ過クルノ觀アリト雖モ急勾配ノ地ハ普通土管及膠泥管ニシテ場所詰混泥土ニ比スレハ何レモ優秀ノ耐磨力ヲ有シ且ツ此ノ如キ部分ハ其ノ延長ニ於テ殆ント謂フニ足ラサルヲ以テ實施ノ結果若シ果シテ磨損ヲ生スルコトアラハ隨時必要ニ應シテ修築シ或ハ他ノ材料ヲ代用スルモ甚シキ不經濟ニアラサルヘシ

抽 **水** **所** 本計畫ニ於ケル排水區中第五及第七ノ兩排水區ヲ除ケハ他ハ凡テ低地域ニシテ自然流下ニヨリ處理スル能ハサルヲ以テ抽水所ヲ設置シ唧筒ヲ用ヒテ下水ヲ汲揚シテ排流スルモノトス

唧筒機ノ所要馬力數ヲ算定スルニ當リテ先ツ定ムヘキ重要ノ事項ハ抽水量及揚程ノ二トス排水量ハ絕對的安全ノ点ヨリ論スレハ下水管ノ斷面積ヲ定ムルニ用ヒタル最大降雨量即チ毎時間六十耗ヲ採ラサルヘカラスト雖モ尠カラサル經常費ヲ要スヘキ唧筒機ヲシテ甚タ稀ニ襲來スル降雨ニ備ヘシメンコトハ經濟上策ノ得タルモノニアラサルヲ以テ降雨量ノ統計ニ就キ最モ頻繁ニ起ル毎時平均最大雨量ニ適應スルノ程度ニ止メタリ今當府立一等測候所ニ於ケル明治二十二年以後同四十二年ニ至ル各月ノ每時最大雨量ヨリ六耗以下ノモノヲ除キ其ノ平均ヲ採レハ總雨量二千七百耗其ノ回数百八十三回ニシテ毎回平均十四耗半トナル仍チ之レヲ以テ唧筒機抽水ノ標準トナセリ揚程ハ吸水管端ヨリ河川平均滿潮位以上三尺ノ高サニ汲揚スルモノトセハ摩擦水頭ヲ包括スルモ不足ナルヘシ然ルトキハ直ニ所要馬力數ヲ計算シ得ヘク唧筒機ノ能率ヲ六割ト假定セハ之レヲ以テ前記計算馬力數ヲ除シ有效馬力ヲ得ヘシ此ノ全有效馬力數ニ對シ唧筒機ノ大サ及數ヲ定ムルハ最モ考慮ヲ要スヘキコトトス即チ常時ニ於ケル抽水量ハ極メテ僅少ナルヲ以テ之レヲ汲揚スルニ大ナル唧筒機ヲ使用スルハ不經濟ナリト雖モ又小ニ過クルトキハ能率其ノ他ニ於テ甚シク不得策ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ所要有效馬力ニ對シ大小二種ノ唧筒機ヲ備ヘ其ノ汲揚力ハ一ト二トノ比率トナセリ然ルトキハ大形唧筒ハ平時動作セサルモ小形ノ分ハ頻繁ニ使用シ從ツテ其ノ磨損著シカルヘキヲ以テ之レト同形ノモノ一臺ヲ豫備トシテ増設シ非常降雨ニ際シテハ避溢溝ヲ以テ餘水ヲ排除スルモノトス

唧筒機ハ共通軸ニヨリ回轉スル二箇以上ノ回轉扇ヲ有スル離心動唧筒トシ動力ハ電氣ヲ使用ス蓋シ電力ハ本市經營ノ發電所ニ於テ

充分供給ノ餘力ヲ有シ最モ經濟的ナリト思料シタルヲ以テナリ其ノ連結法ハ電動機ヲ各唧筒ニ直結シ抽水量ノ多少ニ應シテ一臺乃至三臺ノ唧筒ヲ運轉セシムヘキ電氣裝置ヲ設ケ抽水所建家ハ煉瓦造若クハ其ノ他永久的構造トシ別ニ運轉手詰所竝ニ物置ヲ併設スルモノトス

抽水所内各構造物配置

砂溜及塵除 下水中ニ混入セル塵芥土砂ハ集水口、人孔等ノ設備ニヨリ多少之レヲ除去シ得ヘシト雖モ猶ホ其ノ幾分ハ下水ト共ニ流下スルヲ免レサルヲ以テ直ニ之レヲ唧筒井ニ導クヲ不利トシ其ノ前方ニ於テ砂溜及塵除ヲ設置ス
砂溜ハ二重ノ圓井ヨリ成リ外井ハ直徑二十尺以上内井ハ直徑四尺以上トシ兩井ノ間ニ傾斜セル鐵籠ヲ挿入シ浮游物ヲ鈎制ス又土砂ハ下水ト共ニ外井ニ入ルヤ流速ヲ失ヒテ沈澱シ更ニ四十五度ノ傾斜ヲ有スル底面ヨリ内井壁ニ穿テル小孔ヲ通シテ内井ニ流落ス内井筒中ニハ鐵函ヲ裝置シ時々之レカ掃除ヲナスモノトス

外井ノ大サハ左記ノ標準ニ依リ之レヲ定メタリ即チ小井内ニ沈堆セル土砂ヲ攪拌セサル爲メニハ常ニ一定ノ水深ヲ要スルハ勿論更ニ此ノ水面以上ニ於テ砂溜ニ流入スル下水管ノ管底迄相當ノ高サヲ要ス然ラサレハ下水管ノ完全ナル疏通ヲ圖ル爲メ唧筒機ヲ間斷ナク運轉セシメサルヘカラサルノ不利益ヲ生スヘシ又唧筒機ノ操縦上一臺ノ小形唧筒ヲ以テ下水管底以下ノ瀦溜量ヲ汲揚スルニハ少クトモ五分時間ノ運轉繼續ヲ必要ナリト定メタリ勿論前記瀦溜量ハ唧筒井内ノ水量ヲ包含スルモノトス

唧筒井 唧筒井ハ吸水管ノ取付上其ノ内幅ヲ八尺トシ其ノ長サハ唧筒機ノ配置上ヨリ定ムルモノトス砂溜ト唧筒井トノ連絡ハ暗溝ヲ以テシ吸水管ハ井底ヨリ五寸ノ高サニ設クルモノトス

吸水管及排出管 吸水管及排出管ハ流速毎秒時五尺ヲ超過セサルヲ程度トシ其ノ大サヲ定メ排出管ハ唧筒室ヲ出テタル後凡テヲ合シテ一管トナシ量水井ニ導クモノトス

量水井 唧筒機ノ抽水量ヲ知ルハ最モ必要ナル事項ニ屬スルヲ以テ排出管ハ量水井ヲ通過セシメ量水井ニハ堰板及自動水位計ヲ設備ス

避溢溝 非常降雨ニ際シ唧筒汲揚力不足ヲ告クル場合ニ於テハ過剩ノ水量ハ避溢溝ヲ通シテ砂溜ヨリ附近河川ニ溢流スルモノトス避溢溝ハ其ノ溝底ヲ河川平均干潮位ニ天端ハ平均滿潮位以上二尺ノ高サニ置キ滿潮時ニ於テモ前記過剩ノ水量ヲ放出シ得ヘキ斷面積ヲ與ヘ砂溜ヨリノ吐口ハ漏斗狀トナシ下水ノ溢出ヲ容易ナラシメ吐口ニ近ク水門ヲ設ケ鐵扉ヲ備ヘテ外方水位ノ昇降ニ應ジ溢流量ヲ調節スルノ用ニ供ス避溢溝ハ特ニ低地ニ適合セシムル爲メ其ノ斷面ヲ長方形トナシ天蓋トシテ鐵筋混凝土ヲ使用スルモノトス又避溢溝竝ニ排出管カ河川ニ吐出スル所ニ於テハ張石ヲ施シ以テ河床ノ穿鑿ヲ防キ併セテ護岸ヲ修築スルモノトス

上述の経過を以つて本市は全國諸都市に率先して之を都市計畫事業として執行するに決し、大正十年九月左の如く内務大臣に上申せり。

大正十年九月十二日
都甲第八〇號

大 阪 市 長

内 務 大 臣 宛

大阪市都市計畫事業竝ニ年度割決定方上申

本市下水道敷設工事ハ從來通常ノ土木事業トシテ實施致シ來候處既設工事ノ完成ト共ニ今後ハ都市計畫事業トシテ執行致度候ニ付差シ當リ別紙ノ通り事業竝年度割決定相成度關係圖書添付此段上申候也

添 付 圖 書

一 財政計畫書

(一) 本事業ノ執行ニ要スル費用ハ公債ニ依リ之ヲ支辨ス

(二) 本公債ノ元利償還ノ財源及其ノ年次ハ別冊ノ通りトス

二 圖 面

第一號下水道築造工事平面圖以下第二十五號迄
三 議案添付圖 (四枚) 二 通

書 類

- 一 大阪市下水道改良計畫說明書
- 二 大阪市下水道改良計畫書附屬圖表
- 三 大阪市下水道雨水量、汚水量流速度及流量表
- 四 下水道管理規則
- 五 工費計算書
- 六 一位代價表
- 七 歲出豫算書
- 八 財政計畫書

主務省に於ては慎重なる審議を終へ、大正十一年四月五日案を具し都市計畫大阪地方委員會に附議せられ、同年四月二十九日地方委員會に於て滿場一致可決し内務大臣に報告せられ、大正十一年六月三日事業並に其の事業年度割を左記の通り内閣總理大臣より公示ありたり。

都 市 計 畫 公 告

左記下水道ニ關スル大阪都市計畫事業并ニ其ノ事業年度割ノ件認可ス(圖面省略)

記

大阪都市計畫事業下水道ノ部

第一 下水ノ排除ハ總テ合流法ニ依リ雨水及汚水ヲ同一ノ管渠ニ導キ特設ノ抽水所ニ集水シ電動唧筒機械ヲ用ヒテ汲揚シ之ヲ河川又ハ運河ニ排流ス

第二 汚水量ハ千坪ノ人口極度ヲ貳百人(一平方哩ニ付約拾五萬五千人)ト假定シ一人一日ノ汚水量ヲ七立方尺トシテ雨水量ハ一時間ノ最大雨量ヲ六拾耗(約二吋四)トス

第三 下水道ノ各排水區域、各區域内ニ於ケル幹枝線ノ配置及延長并ニ抽水所設置ノ位置及設備左ノ如シ

一 西野田排水區

區 域 舊西成鐵道線路以北ニ於テ聖天川及阪神電氣鐵道線路ニ依リ限ラレタル別紙圖面ノ地域

面 積 約拾貳萬七千坪

幹枝線ノ配置 別紙圖面ニ依ル

下水道延長 四千九拾五間

下水管種類 土管及鉄筋入膠泥管

下水管内徑 八寸以上二尺七寸五分以下

抽水所 既設西野田抽水所ニ電動唧筒機械一臺約六十馬力ヲ設備ス其ノ排水容量ハ每秒時三十立方尺トス

二 市岡排水區

區 域 尻無川、安治川及境川運河ニ依リ限ラレタル別紙圖面ノ地域

面 積 約貳拾七萬八千參百坪

幹枝線ノ配置 別紙圖面ニ依ル

下水道延長 九千八百八間

下水管種類 土管鐵筋入膠泥管及暗溝

下水管内徑 八寸以上五尺七寸五分以下

抽水所

西區福崎町甚兵衛渡ノ附近ニ建設シ電動唧筒機械三臺約參百五拾馬力ヲ設備シ尻無川ニ排出ス其ノ排水容量ハ每秒時百立方尺トス

三 泉尾三軒家排水區

區域

木津川、尻無川及西區千島町豫定運河敷地ニ圍マルル別紙圖面ノ地域

面積

約參拾六萬參千坪

幹枝線ノ配置

別紙圖面ニ依ル

下水道延長

壹萬參千參百間

下水管種類

土管、鐵筋入膠泥管及暗溝

下水管内徑

八寸以上七尺以下

抽水所

西區小林町ニ建設シ電動唧筒機械三臺約三百四十馬力ヲ設備シ雨水ハ千島町運河ニ排出シ汚水ハ波揚後一條ノ排水路ヲ經テ落合上渡ノ下流ニ於テ木津川ニ排出ス本抽水所ノ電動唧筒機械ノ排水容量每秒時百一立方尺トス

第四 排水量ノ増加ヲ圖ル爲既設抽水所ニ唧筒機械ヲ増設スルコト左ノ如シ

一 西野田抽水所

現在ノ唧筒機械三臺百七十六馬力其排水容量每秒時六十八立方尺ヲ唧筒機械四臺二百三十六馬力其ノ排水容量每秒時九十八立方尺ニ變更ス但シ新設下水道幹枝線ノ築造ニ伴フ設備ヲ包含セス

二 上福島抽水所

現在ノ唧筒機械三臺六十七馬力其ノ排水容量每秒時二十六立方尺ヲ唧筒機械四臺百五十三馬力其ノ排水容量每秒時七十二

立方尺ニ變更ス

三 北野抽水所

現在ノ唧筒機械三臺百貳拾馬力其ノ排水容量每秒時七十二立方尺ヲ唧筒機械四臺百八十馬力其ノ排水容量每秒時百貳立方尺ニ變更ス

四 櫻川抽水所

現在ノ唧筒機械二臺四十馬力其ノ排水容量每秒時二十六立方尺ヲ唧筒機械三臺七十四馬力其ノ排水容量每秒時四十四立方尺ニ變更ス

五 難波抽水所現在ノ唧筒機械三臺八十馬力其ノ排水容量每秒時三十四立方尺ヲ唧筒機械三臺四十馬力其ノ排水容量每秒時六十八立方尺ニ變更ス

六 西濱抽水所

現在ノ唧筒機械三臺九十馬力其ノ排水容量每秒時五十四立方尺ヲ唧筒機械四臺百三十馬力其ノ排水容量每秒時七十二立方尺ニ變更ス

第五 第三第四ニ掲クル事業ノ實施ニ方リ計畫ニ些少ノ異動ヲ生スル場合ハ都市計畫大阪地方委員會ノ議決ニ依リ變更シタルモノヲ以テ本事業ノ計畫ト看做ス

第六 施行年度割左之通り定ム

大正十一年度	約四割
大正十二年度	約四割
大正十三年度	約二割

右公告ス

大正十一年六月三日

内閣總理大臣 子爵 高橋 是清

二〇

二 下水道法による手續

本事業が國の事業たる都市計畫事業として事業認定を得しは、主として事業財源上の便宜に出でしものにして理論上並に法制上の必然性に基くものに非ず。

加之都市計畫法には下水道施設に對して詳細なる規定なく、又公の營造物の性質を有する下水道は施設の完了と共にその管理權は公共團體たる本市に移掌せらるべきものにして、従つて其の管理方法も亦下水道法に依據せざるべからず。

之等の理由により本事業は更に下水道法による工事施行認可申請の必要あるを以て、大正十年十二月二十三日市會の決議を経て左の如く内務大臣宛下水道改良工事施行認可申請を提出せしが、都市計畫事業として國の執行する事業に對し更に公共團體たる大阪市の事業として認可することの當否に付き意見あり遂に下水道法に依る認可は別に發せざるべしなり。

大正十年十二月二十四日
土甲第四一四九號

内務大臣 宛

市長

下水道改良工事施行認可申請

曩ニ本市下水道改良計畫排水區ヨリ除外セル地域中其ノ後最モ顯著ナル發展ヲ爲セル北區西野田、西區市岡町及同區泉尾三軒家方面ハ公衆衛生上忽諸ニ附スヘカラサル状態ニアルヲ以テ大正十一年度以降二ヶ年半ノ繼續事業トシテ下水道改良工事ヲ施行スルト共ニ既設抽水所ノ排水能力増進ヲ要スルモノニ就キ唧筒機械ノ増設ヲ致度候條御認可相成度左記書類及圖面相添ヘ此段申請候也

記

目録	書類	通
第一號	大阪府大阪市下水道改良計畫説明書	壹通
第二號	大阪市下水道改良計畫書附屬圖表	壹通
第三號	大阪市下水道雨水量汚水量流速度及流量表	壹通
第四號	下水道改良事業施行ニ關スル件	壹通
第五號	自大正十一年度大阪府大阪市第二回下水改良費繼續年期及支出方法至同十三年度	壹通
第六號	工費計算書	壹通
第七號	一位代價表	壹通
第八號	下水道管理規則	壹通
第一號	大阪府大阪市下水道築造工事平面圖	壹葉
第二號	大阪府大阪市下水道築造工事西野田幹枝線實測平面圖	壹葉

第三號	大阪府大阪市下水道築造工事同	縱斷面圖	壹	葉
第四號	大阪府大阪市下水道築造工事市岡幹枝線實測平面圖		壹	葉
第五號	大阪府大阪市下水道築造工事同	縱斷面圖	壹	葉
第六號	大阪府大阪市下水道築造工事市岡抽水所設計圖	其一	壹	葉
第七號	大阪府大阪市下水道築造工事同	其二	壹	葉
第八號	大阪府大阪市下水道築造工事同	其三	壹	葉
第九號	大阪府大阪市下水道築造工事泉尾三軒家幹枝線實測平面圖		壹	葉
第十號	大阪府大阪市下水道築造工事同	縱斷面圖	壹	葉
第十一號	大阪府大阪市下水道築造工事小林抽水所設計圖	其一	壹	葉
第十二號	大阪府大阪市下水道築造工事同	其二	壹	葉
第十三號	大阪府大阪市下水道築造工事同	其三	壹	葉
第十四號	大阪府大阪市下水道築造工事西野田抽水所擴張工事設計圖		壹	葉
第十五號	大阪府大阪市下水道築造工事項上福島抽水所擴張工事設計圖	其一	壹	葉
第十六號	大阪府大阪市下水道築造工事同	其二	壹	葉
第十七號	大阪府大阪市下水道築造工事北野抽水所擴張工事設計圖		壹	葉
第十八號	大阪府大阪市下水道築造工事櫻川抽水所擴張工事設計圖		壹	葉
第十九號	大阪府大阪市下水道築造工事難波抽水所擴張工事設計圖	其	壹	葉
第二十號	大阪府大阪市下水道築造工事同	其二	壹	葉
第二十一號	大阪府大阪市下水道築造工事西濱抽水所擴張工事設計圖		壹	葉

第二十二號 馬蹄形暗溝膠泥管及土管敷設定規圖
 第二十三號 土管之圖
 第二十四號 人孔及集水口鐵蓋之圖
 第二十五號 集水口各戶接續及人孔定規圖

壹 壹 壹 壹
 葉 葉 葉 葉

議案第二百七十六號 (大正十年十二月二十三日) 市會議決

第二回下水道改良事業施行ニ關スル件

左記要項ニ依リ第二回下水道改良事業ヲ施行スルモノトス

大正十年十一月十九日提出

大阪市長 池 上 四 郎

要 項

第一 下水ノ排除
 總テ合流法ニ依リ雨水及汚水ヲ同一ノ管渠ニ導キ特設ノ抽水所ニ集水シ電動唧筒機械ヲ用ヒテ波揚シ之ヲ河川若ハ運河ニ排流ス

第二 汚 水 量
 千坪ノ人口極度ヲ二百人(一平方哩ニ付約十五萬五千人)ト假定シ一人一日ノ汚水量ヲ平均七立方尺トシ雨水量ハ一時間ノ最大雨量ヲ六十耗(約二吋四)トス

第三 新設下水道幹枝線ノ排水區域及抽水所設置ノ位置並設備左ノ如シ

- 一 西野田排水區
- 區 域 舊西成鐵道線路以北ニ於テ聖天川、阪神電氣鐵道線路及木津川ニ依リ限ラレタル地域

面積 約十二萬七千坪
 下水道延長 四千九十五間
 下水管種類 土管及鐵筋入膠泥管
 下水管内徑 八寸以上二尺七寸五分以下
 抽水所 既設西野田抽水所ニ電動唧筒機械一臺約六十馬力ヲ設備ス其ノ排水容量ハ每秒時三十立方尺トス

二市岡排水區

區域 尻無川、安治川、境川運河及四間堀川ニ依リ限ラレタル地域
 面積 約二十七萬八千參百坪
 下水道延長 九千八百八間
 下水管種類 土管鐵筋入膠泥管及暗溝
 下水管内徑 八寸以上五尺七寸五分以下
 抽水所 西區福崎町甚兵衛渡ノ附近ニ建設シ電動唧筒機械三臺約三百十五馬力ヲ設備シ尻無川ニ排出ス其ノ排水容量ハ每秒時百立方尺トス

三泉尾三軒家排水區

區域 木津川、尻無川、及西區千島町豫定運河敷地ニ圍マルル地域ノ一部
 面積 約三十六萬三千坪
 下水道延長 一萬三千三百間
 下水管種類 土管、鐵筋入膠泥管及暗溝
 下水管内徑 八寸以上七尺以下

抽水所

西區小林町ニ建設シ電動唧筒機械三臺約三百四十馬力ヲ設備シ雨水ハ千島町運河ニ排出シ汚水ハ汲揚後一條ノ排水路ヲ經テ落合上渡ノ下流ニ於テ木津川ニ排出ス其排水容量ハ每秒時百一立方尺トス

第四 排水量ノ増加ヲ圖ル爲既設抽水所ニ唧筒機械ヲ増設スルコト左ノ如シ

一 西野田抽水所

現在ノ唧筒機械三臺百七十六馬力其ノ排水容量每秒時六十八立方尺ヲ唧筒機械四臺二百三十六馬力其ノ排水容量每秒時九十九立方尺ニ變更ス但シ新設下水道幹枝線ノ築造ニ伴フ設備ヲ包含セス

二 上福島抽水所

現在ノ唧筒機械三臺六十七馬力其ノ排水容量每秒時二十六立方尺ヲ唧筒機械四臺百五十三馬力其ノ排水容量每秒時七十二立方尺ニ變更ス

三 北野抽水所

現在ノ唧筒機械三臺百二十馬力其ノ排水容量每秒時七十二立方尺ヲ唧筒機械四臺百八十馬力其ノ排水容量每秒時百二立方尺ニ變更ス

四 櫻川抽水所

現在ノ唧筒機械二臺四十馬力其ノ排水容量每秒時二十六立方尺ヲ唧筒機械三臺七十四馬力其ノ排水容量每秒時四十立方尺ニ變更ス

五 難波抽水所

現在ノ唧筒機械三臺八十馬力其ノ排水容量每秒時三十四立方尺ヲ唧筒機械三臺百四十馬力其ノ排水容量每秒時六十八立方尺ニ變更ス

六 西濱抽水所

現在ノ唧筒機械三臺九十馬力其ノ排水容量毎秒時五十四立方尺ヲ唧筒機械四臺百三十馬力其ノ排水容量毎秒時七十二立方尺ニ變更ス

第五事 業 費

金四百六十萬圓

第六 起工竣功期限

起 工 大正十一年四月

竣 功 大正十三年九月

說 明

曩ニ本市下水道改良計畫排水區ヨリ除外セル地域中其ノ後最モ顯著ナル發展ヲ爲セル北區西野田、西區市岡町及同區泉尾三軒家方面ハ公衆衛生上忽諸ニ附スヘカラサル状態ニアルヲ以テ大正十一年度以降二ケ年半ノ繼續事業トシテ下水道改良工事ヲ施行スルト共ニ既設抽水所ノ排水能力増進ヲ要スルモノニ就キ唧筒機械ノ増設ヲ爲サムトス是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ
市參事會ノ意見

原案ニ異議ナキモノトス

三 第一回計畫變更

その後工事の實施に際し其の發展の現況に鑑み、左記變更計畫説明書の示す如く下水道幹枝線の延長、抽水所設備の變更及び既設抽水所に於ける排水能力増大の爲め唧筒機械の増設をなす必要を生じたり。

大阪府大阪市下水道改良計畫變更説明書

本市第一期都市計畫事業タル、第二回下水道改良工事ハ其ノ實施ニ際シ發展ノ狀況ニ鑑ミ、各幹枝線及抽水所築造工事ニ於テ、

一部計畫ノ變更ヲナサムトスルモノニシテ、其ノ概要ヲ述ブレバ左ノ如シ。

(一) 西野田排水區

幹枝線築造工事ハ其後ノ發展ニ伴ヒ一部路線ノ變更ヲナサントス、其ノ廢止線ハ地形ノ變化ニヨリ必要ナキニ至レルモノニシテ、追加線ハ主トシテ計畫ノ當初不用井路トシテ整理スベキ豫定ナリシモノヲ排水ノ完全ヲ期スル爲メ、下水道幹枝線ヲ敷設セシメントスルモノナリ、其ノ結果下水道ノ延長ニ於テ増加ヲ來セリ。

(二) 市岡排水區

本排水區ニ於ケル幹枝線ハ安治川沿岸ニ發シ南方ニ流下シテ、既設電氣鐵道及臨港鐵道豫定線路ヲ横斷シ、尻無川右岸ニ到リ西折シテ、堤防ニ沿フテ下リ豫定安治川運河ヲ横斷シテ、抽水所ニ達スル計畫ナリシガ、路線中道路ノ幅員狭小ナル部分アルト幹線ヲ尻無川堤防ニ沿ヒ敷設スルコトハ將來幹線トシテノ利用上不得策ナルヲ以テ電氣鐵道線路以南ノ部分ニ於テハ排水區ノ中樞地ニ當ル既設道路ニ敷設スルコト、シ之ニ伴フ幹枝線一部ノ配置ヲ變更セムトス。

抽水所ハ甚兵衛渡ノ下流ニ設置スル計畫ナリシモ、本地點ハ都市計畫道路ト豫定安治川運河ノ間ニ介在シ、是等竣成ノ曉ニハ極メテ有用ノ地タルベキト共ニ幹線變更ノ結果ハ原計畫ノ敷地ガ却テ下水ノ流集上不便タルヲ免レザルガ故ニ其ノ敷地ヲ甚兵衛渡ノ上流ニ變更セムトス、又抽水所ノ設備トシテハ電動唧筒機械三臺ニテハ餘力ナキヲ以テ豫備トシテ七十二馬力其ノ排水容量毎秒時四十立方尺ノモノ一臺ヲ増設シ以テ不時ノ故障ニ備ヘントス。

尙ホ本抽水所ハ舟楫ノ便最モ多キ尻無川沿岸ニ位シ排水區ノ發展ニ伴フ人口ノ増加ト工場ノ激増ハ下水ノ放流ニ依リ、今後益々河川ヲ汚染スルニ至ルベク、衛生上寒心ニ堪ヘザルモノアルヲ以テ、同抽水所構内へ下水淨化装置ヲ施スコト、シ促進汚泥法ニヨリ毎秒時最大二・五立方尺ノ汚水ヲ處理スベキ設備ヲナサントス。

(三) 泉尾三軒家排水區

幹枝線築造工事中變更ノ主ナルモノハ、計畫當時猶ホ灌溉用水路ニ供セラレタルガ爲メ、之ガ改良ヲ將來ニ譲リタル三軒家上

之町及泉尾町ノ境界ヲ南流セル水路アリシガ、其ノ後下流小林町方面ノ急激ナル發展ニ伴ヒ最早用水路トシテ存置ノ必要ナキニ至ルト共ニ不潔ナル下水路ト化シ、其儘放置ヲ許サザル狀況ニアルヲ以テ、之レヲ增加施シセムトスルモノト新設道路ノ築造及ビ臨港鐵道線路工事ノ進捗ニ伴ヒテ一部下水線變更ノ必要ヲ生ジタルモノ其ノ他千鳥運河底ノ變更ニヨリ幹線ノ勾配及内徑ヲ變更シタルモノ等ナリトス

抽水所ノ設備トシテハ市岡抽水所ト同ジク豫備トシテ、電動唧筒機械八十馬力其ノ排水容量毎秒時四十六立方尺ノモノ一臺ヲ追加シ以テ不時ノ故障ニ備ヘントス。

(四) 既設各抽水所唧筒増設工事

原計畫ニアリテハ抽水所ノ排水唧筒ハ降雨強度毎時二十耗ノ雨量ヲ標準トシ之レニ應ズル設備トナス豫定ナルモ排水能力ノ餘裕存セザルガ爲メ、機械一部ノ故障ニ際シテモ雨水ノ汎濫ヲ見ルコトナキニアラズ仍テ其後實地ノ經驗ニ鑑ミ、大體一時間六十耗ノ雨量ヲ標準トシ之ニ區域ノ面積、地形、排水ノ實況等ヲ考量ニ置キ相當ノ豫備唧筒ヲ備ヘントス、即チ北野ニハ難波ヨリ西濱ニ移轉スベキ豫定ノ十八立方尺ノモノ一臺ヲ、難波ニハ二十立方尺ノモノ一臺ヲ、西濱ニハ叙上十八立方尺ノモノニ代フルニ三十立方尺ノモノ一臺ヲ又今宮及境川ニハ各三十立方尺ノモノ一臺ヲ夫々増設スルモノトス。

大阪市下水道 市岡抽水所 促進汚泥法下水處理裝置說明書

一 緒言

本市ノ發展ニ伴フ人口ノ増加ト工場ノ激増ハ市内河川ヲ汚染スル傾向著シキヲ以テ之カ改善ヲ講スルト共ニ屎尿處分ノ難問題ヲ解決スヘク下水最後ノ處理ハ今ヤ捨テ置キ難キ當面ノ重要問題トナルニ至レリ本市ニ於ケル新編入町村ヲ含ム下水處理ノ計畫ニ關シテハ既ニ其大要ヲ發表セルモノアリト雖モ之カ實施ヲ策スルニ當リテハ更ニ慎重ナル調査ト細密ナル實驗トニ俟タサル可カラサルハ言ヲ要セサル所ニシテ殊ニ同計畫中一部ニ施行セラルヘキ促進汚泥法ニ關シテハ既ニ歐米諸都市ニアリテ大規模ノ計畫

畫ノ實施サレツ、アル現狀ナリト雖モ之ヲ本市ニ採用スルニ當リテハ下水ノ成分竝ニ清淨度ノ如何ニ應シ構造上竝ニ作業上ノ諸點ニ就キテ充分ナル調査ト實驗ヲ遂ケ大規模ノ施設ニ際シ萬違算ナキヲ期セサル可カラス是本處理裝置ヲ設ケタル所以ニシテ其設置箇所ハ實驗的設備トシテノ所要敷地面積處理汚水量竝ニ放流河川ノ汚染度等ノ諸點ヲ考慮ノ上尻無川右岸市岡抽水所構内ニ撰定シ大正十三年度ニ於テ第二回下水道改良事業ノ一部トシテ施工セルモノナリ

二 處理ノ法式ト其理論

下水處理ノ方法ハ種々アリト雖モ現今最モ普通ニ行ハレ而モ清淨度ノ高キ法式ハ濾過法ト促進汚泥法ナリ此兩方式ハ共ニ細菌的清淨法ニシテ下水中ニ溶存セル有機性體ヲ空氣ノ存在ノ下ニ好氣性細菌ノ活動ニヨリ酸化清淨スルモノニシテ其淨化ノ程度高キヲ以テ下水ノ放流ニ依ル河川ノ汚染ヲ許サ、ル所ニ適スルモノナリ而シテ尻無川ニ於ケル水運ノ狀況竝ニ汚染度等ヲ考慮スルトキハ相當高度ノ淨化ヲ期シ得ヘキ處理法タルヲ要スルヲ以テ促進汚泥法ヲ採用セリ蓋シ本法ハ現今歐米諸都市ニ於テ下水處理ノ方法トシ將ニ絶對的權威ヲ有スルニ至ルヘキ趨勢ニアルモノニシテ他ノ處理法ニ比シ卓越セル點ハ

- 一 流出水ノ清淨ト設備ノ單純ナルコト
- 二 所要面積ノ僅少ナルコト
- 三 處理場附近ニ於テ臭氣ノ發散少ナキコト
- 四 損失落差比較的少ナキコト

等ナリサレト其欠點トスル所ハ處理ニ依リ生スル汚泥量カ他法ニ比シ最モ多量ニシテ其ノ處置ニ困難ヲ感スル點ナリト雖モ本處理場ニテハ後述ノ如ク剩餘汚泥ハ水運ノ便ヲ利用シテ比較的簡單ニ處分シ得ルモノナリ

今此處理法ノ原理トスル所ヲ概言スレハ豫メ下水中ニ空氣ヲ送入シ熱化セシメテ得タル所謂促進作用ヲ有スル汚泥ノ適量ヲ下水ニ混和シ之ヲ送氣攪拌シテ下水ノ硝化及分解作用ヲ好氣性細菌ノ活動ニ依リ行ハシムルモノニシテ其結果下水中ノ浮游物及溶解有機物ハ略完全ニ酸化セラレ生産セル汚泥ヲ沈澱セシメタル後ノ流出水ハ透明ニシテ高度ニ硝化セラレ且下水中ニ含有セシ細

菌ノ大部分ハ除去セラル、ヲ以テ下水淨化ノ目的ヲ達成シ得ルモノナリ而シテ沈澱セル汚泥ハ水分多ク腐敗性ナレ共窒素含有量多キカ故ニ肥料トシテ價値アルモノタルナリ

三 處理區域ト處理量

處理區域ハ現在市岡排水區全部ニ亙ルモノニシテ東ハ境川運河北ハ安治川南ハ尻無川西ハ俗稱四間堀川ニ至ル面積約九十二町步(二十七萬八千三百坪)ノ地域トス而シテ同地域現在人口二萬六千人ニ對シ一人一日ノ平均下水水量ヲ六・六立方尺トセハ晴天時下水量ハ一日約拾七萬壹千六百立方尺(二萬六千四百石)ナルヲ以テ本設備ハ其平均量ナル毎秒二立方尺ノ割合ニテ連續的ニ處理シ得ルモノニシテ尙降雨時ノ稀釋下水ニ對シテハ此割合ヲ増加シテ毎秒三立方尺トナシ得ルモノナリ

四 設備ノ概要

(イ) 沈 砂 池

既設砂溜井ヲ以テ之ニ當テ流入下水中ノ土砂其他ノ固形物ヲ沈澱セシメ且荒目及細目ノ兩簀ニヨリテ浮流物ヲ除去ス

(ロ) 下 水 混 和 槽

本法ノ要諦タル下水ニ加フヘキ促進汚泥量ハ處理下水量ノ約二割五分(含水量九十八「パーセント」ニテ)ヲ以テ標準量トナシ之ヲ汚泥再曝槽ヨリ空氣揚水唧筒ニヨリ本槽ニ注入シ沈砂池ヨリ汲揚セル下水ト充分混和セシメタル上曝氣槽内ニ流入セシムルモノニシテ槽ハ水深五尺巾四尺長三十五尺ヲ有シ底部ニハ上記汚泥ト下水ノ混和ニ便ナラシムルタメ曝氣槽ニ於ケルト同様撒氣版ヲ配置セリ

尙將來水洗式便所普及シ其排水ヲ直接下水管ニ受クル場合ノ處理ニ必要ナル實驗ヲ行フ爲別ニ設ケタル屎尿槽ヨリ稀釋屎尿ノ適量ヲ本槽ニ導キ汲揚下水ニ混和シ得ヘキ裝置ヲ有ス

(ハ) 曝 氣 槽

本槽ハ水深十三尺五寸幅二十六尺長九十尺ニシテ之ヲ二列ノ縱壁ニヨリ區畫シ幅員八尺全延長二百七十尺ノ循環水路ヲ形成

ス底ハ水流ニ直角ニ畝溝式トシ谷部ニ撒氣版七枚宛ヲ配置ス該撒氣版ハ一呎角厚サ一時半ノ多孔質人造石版ニシテ其總面積ハ槽水面積ノ約六分ノ一ニ當ル

槽ノ容量ハ約二萬八千立方尺(四千三百石)ヲ有シ流入下水ハ本槽内ヲ連續的ニ流下シツ、上記ノ撒氣版ヲ通シ送入サル、空氣ニヨリ曝氣作用ヲ受クルモノニシテ晴天時ニ於テハ曝氣時間約三時間其空氣量ハ下水一立方尺ニ對シ九立方尺ノ割合トシ壓力ハ撒氣版ニ於テ七封度トス而シテ降雨時ノ稀釋下水ニアリテハ毎秒三立方尺ノ割合ニテ流入セシメ曝氣時間ヲ二時間ニ短縮スルモノトス

(ニ) 沈 澱 槽

本槽ハ幅十三尺長三十二尺ノ矩形槽二個ヨリ成リ各槽下部ハ水平面ニ對シ約六十五度ニ傾斜セル二個ノ倒錐形ヲナシ各底部ニ徑四吋ノ汚泥汲揚管ヲ設置ス其最深部ノ水深ハ二十尺五寸一槽ノ容量約五千二百立方尺(八百石)ニシテ曝氣槽ニ於テ所定時間曝氣サレタル下水ハ「ノツチ」ヲ通ジテ本槽ニ流入シ之ニ晴天時平均約一時間十五分降雨時約五十分間ノ沈澱時間ヲ與フ而シテ下水中ニ生成セル汚泥ハ此沈澱時間内ニ槽下部ニ悉ク沈澱シ上澄水ハ同ジク「ノツチ」ヲ通ジ槽外ニ流出シ尻無川ニ放流サル、モノナリ

槽ニハ入口ニ近ク水流ニ直角ノ阻流板ヲ配置シ流入ニ際シテ汚泥ノ沈澱ニ便ナラシム

(ホ) 汚 泥 槽

沈澱槽内ニ沈澱セル汚泥ハ汚泥唧筒ニヨリ一旦本槽ニ汲揚シ更ニ沈澱セシメタル後底部ノ濃厚ナル部分ヨリ促進汚泥トシテ必要ナル量ヲ六吋鐵管ニヨリ汚泥再曝槽ニ返送シ他ハ過剩汚泥トシテ處分スルモノナリ槽ハ内徑十八尺ノ圓形ニシテ底ハ水平面ニ對シ三十度ニ傾斜セル漏斗形ヲナシ水深ハ周圍部ニ於テ六尺中央部ニ於テ十一尺其容積約一千九百五十立方尺(三百石)ヲ有ス

生産サルヘキ汚泥量ハ目下測定中ニ屬スルモ返送汚泥ヲ除キ處理下水量ノ約一「パーセント」(含水量九十八「パーセント」ニ

於テ)ト見做セハ一日約一千七百立方尺(二百六十石)ナリ

(ハ) 汚泥再曝槽

本槽ハ促進汚泥トシテ下水ニ加フヘキ汚泥ノ熟化ヲ行フモノニシテ曝氣槽ニ隣接シテ設置セラレ幅八尺長九十尺水深十三尺五寸ヲ有シ底部ニ撒氣版ヲ配置スルコト曝氣槽ニ於ケルト同様ナリ其再曝時間ハ三時間ヲ以テ標準トシ本槽内ヲ流下スル汚泥ニ均一ナル曝氣作用ヲ與フル爲長サ十尺毎ニ高サ約六尺ノ木板阻壁ヲ上下交互ニ配置シ水流ヲシテ上下波狀ヲ畫カシム而シテ所定時間曝氣サレタル汚泥ハ槽ノ終端ニ設置セル徑五吋ノ空氣揚水唧筒ニ基ヲ通ジ混和槽ニ注入サルモノナリ

(ト) 尿 尿 槽

本槽ハ深サ九尺巾十尺長三十尺ノ矩形槽ニシテ其有効水深ヲ五尺ト見做シ容量約千五百立方尺(二百三十一石)ヲ有ス前記人口二萬六千人ニ相當スル一日分尿尿量ハ約七百三十三立方尺(百十三石)ニシテ之ヲ逐次本槽内ニ搬入シ水ヲ以テ約十倍ニ稀釋シ一分間約五立方尺ノ割合ニテ自然流下ニヨリ下水混和槽内ニ流入セシム

尿尿ハ本槽ニ隣接シテ設ケタル幅三尺長六尺ノ「トラップ」式投入口ヨリ注入シ紙片襪襪等ハ其上部ニ設ケタル簀ニヨリ除去スルモノナリ

(チ) 唧筒及 壓氣機

下水唧筒ハ十馬力電動機直結離心動唧筒二臺ニシテ内一臺ヲ豫備トシ沈砂池内ノ下水ヲ毎秒平均二立方尺降雨時最大三立方尺ノ割合ニテ下水混和槽ニ汲揚ス

汚泥唧筒ハ三馬力半電動機直結離心動唧筒二臺ニシテ内一臺ヲ豫備トシ沈澱槽内ノ汚泥ヲ汚泥槽ニ汲揚ス

壓氣機ハ四十九馬力電動機直結迴轉式壓氣機二臺ニシテ下水汚泥ヘノ送氣其他ニ用フ本機ノ能力ハ最大壓力十封度ニ於テ送氣量一臺毎分七百五十立方尺ヲ有シ送氣中ニ塵芥及油類等ノ混入シテ撒氣版ノ氣孔ヲ閉塞セサル様空氣濾過器及分油裝置ヲ附備ス

(リ) 送 氣 管

送氣本管ハ内徑八吋及六吋ノ鑄鐵管ヲ用ヒ枝管ハ徑四吋半瓦斯管トシ槽壁上端ニ配置ス其槽底撒氣版ニ至ルモノハ徑一吋半亞鉛引瓦斯管ニシテ四吋半枝管ヨリ分岐シテ水中ニ入ル各分岐點ニハ制氣弁ヲ附シ送氣ノ調節ヲ計ル

(ヌ) 唧筒室及 機關室

唧筒室ハ木造平家建々坪十一坪餘ニシテ前記下水唧筒二臺ヲ設置ス
機關室ハ木骨平家建々坪約二十坪ニシテ前記壓氣機二臺及汚泥唧筒二臺ノ外ニ後記汚泥處分用五馬力電動機付眞空唧筒一臺ヲ設置ス

(ル) 汚 泥 分

本處理ニヨリ生産サル、過剩汚泥量ハ前記ノ如ク一日約千七百立方尺(六坪九合)ニシテ肥料トシテ價値アルモノナレ共含水量多ク取扱困難ナル爲之カ脱水ヲ行ハサル可カラズ其脱水方法ハ種々アレトモ本設備ニ於テハ試驗的ニ眞空ヲ應用セル迴轉式脱水機ヲ使用シ水分約六十「パーセント」ヲ有スル汚泥約八十五立方尺(三合九勺)ニ減シ處分スルモノトシ前記機關室ニ隣接セル木造平家建約五坪六合内ニ裝置ス

外ニ汚泥運搬用設備トシテ汚泥槽ヨリ内徑八吋鑄鐵管ヲ以テ汚泥ヲ尻無川沿岸土運船ニ導キ附近ノ埋立ニ使用スルカ又ハ遠ク海中ニ投棄スルモノトス

五 建 設 費

本處理場ニ要セシ建設費ハ總額約十一萬一千餘圓ニシテ之ヲ處理人口二萬六千人ニ割當ツレハ一人當約四圓二十三錢ニ相當スヘシ但シ之ニ要セル敷地約五百坪ノ代金ハ控除セルモノトス

六 維 持 費

本處理場ニ要スル一ヶ年維持費ハ三百三十日運轉ト見做シ約二萬圓ノ豫定ニシテ一日平均約五十五圓處理人口一人當リ一ヶ年

約七十七錢ヲ要スル見込ナリ

仍つて理事者は内務省告示(大正十一年七月廿一日)第百七十六號)都市計畫委員會官制第四條ノ二但書による知事又は市長に發案權委任の規定に依り、市長より都市計畫大阪地方委員會に附議の爲め、同規程第三號に依りて内務大臣の認可を受くべく大正十三年九月二十四日左記の通り稟請したるも、當局に於て審議の結果内務大臣より提案せらるることとなり、大正十四年二月七日都市計畫大阪地方委員會に附議せられ、同年三月二日議決報告の上同月十一日内閣總理大臣より事業變更認可公告せられたり。

其全文左の如し。

水甲第一三五〇號

大正十三年九月廿四日

内務大臣宛

市長

都市計畫事業下水道設計一部變更ニ付稟請

大阪都市計畫事業下水道ノ部設計中ノ一部別紙ノ通變更ノ義都市計畫大阪地方委員會へ附議致度候條御認可相成度此段稟請候也

左記下水道ニ關スル大阪都市計畫事業中變更ノ件認可ス(圖面省略)

記

大阪都市計畫事業下水道ノ部

第三 一、西野田排水區

下水道延長 五千四百三十九間

二、市岡排水區

下水道延長 九千二百二十七間

抽水所

西區福崎町甚兵衛渡ノ附近ニ建設シ電動唧筒機械四臺約二百五十三馬力ヲ設備シ尻無川ニ排出ス其ノ排水容量ハ毎秒時百四十四立方尺トス

尙下水淨化裝置ヲ施スモノトス

三、泉尾三軒家排水區

下水道延長 一萬四千八百九十六間

下水管内徑 八寸以上六尺五寸以下

抽水所

西區小林町ニ建設シ電動唧筒機械四臺約二百八十馬力ヲ設備シ雨水ハ千島町運河ニ排出シ汚水ハ汲揚後一條ノ排水路ヲ經テ落合上渡ノ下流ニ於テ木津川ニ排出ス其ノ排水容量ハ毎秒時百五十八立方尺トス

第四 三、北野抽水所

現在ノ唧筒機械三臺百二十馬力其ノ排水容量毎秒時七十二立方尺ヲ唧筒機械五臺二百二十馬力其ノ排水容量毎秒時百二十立方尺ニ變更ス

五、難波抽水所

現在ノ唧筒機械三臺八十馬力其ノ排水容量毎秒時三十四立方尺ヲ唧筒機械四臺百五十馬力其ノ排水容量毎秒時八十八立方尺ニ變更ス



六、西濱抽水所

現在ノ唧筒機械三臺九十馬力其ノ排水容量毎秒時五十四立方尺ヲ唧筒機械四臺三百三十七馬力半其ノ排水容量毎秒時八十四立方尺ニ變更ス

七、今宮抽水所

現在ノ唧筒機械三臺百五十五馬力其ノ排水容量毎秒時六十八立方尺ヲ唧筒機械四臺二百十五馬力其ノ排水容量毎秒時九十八立方尺ニ變更ス

八、境川抽水所

現在ノ唧筒機械五臺百八十五馬力其ノ排水容量毎秒時百二立方尺ヲ唧筒機械六臺二百四十五馬力其ノ排水容量毎秒時百三十二立方尺ニ變更ス

右公告ス

大正十四年三月十一日

内閣總理大臣 子爵 加藤 高明

四 下水道法による變更手續

尙ほ左の如く市會に提案大正十三年九月二十六日議決を経たるも本計畫當時下水道法による認可なかりし爲め變更手續を省略せり。

議案第二百二十二號

第二回下水道改良事業變更ニ關スル件

第二回下水道改良事業施行ニ關スル件(大正十年十二月廿三日市會議決)要項中左記ノ通變更スルモノトス
大正十三年九月二十二日提出

大阪市長

説明

本市既定計畫下水道改良工事ハ實施ニ際シ其ノ發展ノ現況ニ鑑ミ下水道ノ延長並ニ抽水所設備ニ變更ヲ要スルト既設抽水所ニ於テ排水能力増進ノタメ唧筒機械ノ増設ヲナサムトス是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

要項

第三 一、西野田排水區

下水道延長 五千四百參拾九間ニ改ム

二、市岡排水區

下水道延長 九千貳百貳拾七間ニ改ム

抽水所

「西區福崎町甚兵衛渡ノ附近ニ建設シ」ノ下電動唧筒機械四臺約二百五十三馬力ヲ設備シ尻無川ニ排出ス其ノ排水容量ハ毎秒時百四十四立方尺トス
尙下水淨化裝置ヲ施スモノトスニ改ム

三、泉尾三軒家排水區

下水道延長 一萬四千八百九十六間ニ改ム

下水管内徑

六尺五寸以下ニ改ム

抽水所

建設シノ下電動唧筒機械四臺約二百八十馬力ヲ設備シ雨水ハ千島町運河ニ排出シ汚水ハ汲揚後一條ノ排水路ヲ經テ落合上渡ノ下流ニ於テ木津川ニ排出ス其ノ排水容量ハ毎秒時百五十八立方尺トスニ改ム

第四 三、北野抽水所

現在ノ唧筒機械三臺百二十馬力其ノ排水容量毎秒時七十二立方尺ヲ唧筒機械五臺二百二十馬力其ノ排水容量毎秒時百二十立方尺ニ變更スニ改ム

五、難波抽水所

現在ノ唧筒機械三臺八十馬力其ノ排水容量毎秒時三十四立方尺ヲ唧筒機械四臺百五十馬力其ノ排水容量毎秒時八十八立方尺ニ變更スニ改ム

六、西濱抽水所

現在ノ唧筒機械三臺九十馬力其ノ排水容量毎秒時五十四立方尺ヲ唧筒機械四臺百三十七馬力半其ノ排水容量毎秒時八十四立方尺ニ變更スニ改ム

七、今宮抽水所

現在ノ唧筒機械三臺百五十五馬力其ノ排水容量毎秒時六十八立方尺ヲ唧筒機械四臺二百十五馬力其ノ排水容量毎秒時九十八立方尺ニ變更ス

八、境川抽水所

現在ノ唧筒機械五臺百八十五馬力其ノ排水容量毎秒時百二立方尺ヲ唧筒機械六臺二百四十五馬力其ノ排水容量毎秒時百三十二立方尺ニ變更ス

第六 竣工 大正十四年三月ニ改ム

五 第二回計畫變更

以上

更に左記變更計畫説明書の示す如く工事の實施に際し局部的變更の必要あるは事業の性質上止むを得ざる所にして、しかも其の都度變更手續をなすことは事實上繁雜なるのみならず工事の性質上不可能なるを以て、事業完成後之等を一括して大正十五年一月二十五日別紙の通り大阪市長より都市計畫大阪地方委員會に附議し、地方委員會の委任規程に依り常務委員會に於て提案の通り可決せり。

第一期都市計畫事業下水道改良變更計畫説明書

一 西野田排水區

下水道ノ延長ニ増加ヲ來タセルハ豫定路線ニ於テ實施ノ結果延長ニ増減ヲ生シタルモノアルト計畫ノ當初不用井路トシテ整理スヘキモノ又ハ在來ノ下水管ヲ其儘利用スヘキ豫定ノ個所ニシテ實施ニ際シ排水ノ完全ヲ期セムカ爲メ一部枝線ノ敷設ヲナシタルモノアルカタメナリ而シテ其ノ延長ヲ來タシタル主ナルモノハ内徑一尺程度ノ小管ナリトス

二 市岡排水區

下水道ノ延長ニ於テ増加ヲ來タセルハ尻無川堤防ノ北側又ハ臨港鐵道沿線ノ如キ人家稠密ナラサリシ個所ニ對シ其後發展ニ鑑ミ枝線敷設ノ必要ヲ生シタルト市電氣鐵道築港線ノ双侧其他ニ於テ在來ノ下水管ヲ其儘利用スル豫定ニ對シ排水ノ完備ヲ圖ルタメ枝線ノ敷設ヲ要スルモノアルガ故ナリ而シテ之等ノ枝線ハ主トシテ内徑一尺内外ノモノナリトス

三 泉尾三軒家排水區

下水道延長ニ於テ増加ヲ來セルハ泉尾工業學校附近ノ如キ計畫當時道路ノ配置決定セサリシ區域ニ於テ其ノ決定ト共ニ枝線埋設ノ必要ヲ生シタルモノアルト在來ノ下水道ヲ其儘利用スル見込ノモノニシテ排水上ノ完全ヲ期セムカタメ實施ニ際シ之レヲ改良シタルモノアル爲メナリ而シテ之等ノ枝線ハ主トシテ内徑一尺内外ノモノナリトス

四 唧筒馬力ノ變更

西野田、北野及上福島各抽水所ニ増設シタル唧筒ノ馬力數ニ於テ少許ノ減少ヲ來シタルハ何レモ當初ノ豫定ニ比シ優良ナル能率ノ唧筒ヲ購入スルコトヲ得タルカタメナリ

常議第三四號

左記ノ件内務大臣ノ委任ニ依リ都市計畫大阪地方委員會ニ附議ス

大正十五年一月二十五日

大阪市長 關

一 大坂都市計畫事業下水道ノ部設計一部變更ノ件

第三 一、西野田排水區

下水道延長 「五千四百三十九間」ヲ「六千四百四十一間」ニ改ム

抽水所 電動唧筒機械一臺「約六十馬力」ヲ「五十七馬力半」ニ改ム

二、市岡排水區

下水道延長 「九千二百二十七間」ヲ「一萬二千六十二間」ニ改ム

三、泉尾三軒家排水區

下水道延長 「一萬四千八百九十六間」ヲ「一萬七千四百九十三間」ニ改ム

第四 一、西野田抽水所

唧筒機械四臺「二百三十六馬力」ヲ「二百三十三馬力半」ニ改ム

二、上福島抽水所

唧筒機械四臺「百五十三馬力」ヲ「百二十八馬力」ニ改ム

三、北野抽水所

唧筒機械五臺「二百二十馬力」ヲ「二百十七馬力半」ニ改ム

第二節 工事の實施

一 着手及竣工

西野田排水區に於ける工事は大正十一年六月十六日、泉尾三軒家排水區工事は同年七月十一日、市岡排水區工事は

同年七月十九日に着手し、何れも大正十四年三月三十一日豫定の如く竣工せり。

二 工事概要

竣工したる各排水區工事の概要左の如し。

西野田排水區幹線工事

種別	員數	單位金額	計金額
二尺七寸五分膠泥管	四八・九間	四・七〇弱	二、〇八八・九〇
二尺五寸同	三七・元〃	三〇・四八強	六、九六六・〇五
二尺二寸五分同	一一・三三〃	二九・六八強	三、三三三・〇七
二尺同	一一・五三〃	二五・七四弱	二、八四七・六八九
一尺八寸同	三四・八四〃	三三・三六強	八、一五二・七一
一尺五寸土管	六〇・七・七〃	一四・四八強	八、〇四四・〇七
一尺二寸同	一一・八九・二〇〃	一〇・七三弱	一二、七〇〇・五八一
一尺同	三三・四四・三四〃	八・八三強	二九、五三九・三五
八寸同	一四・二五三〃	七・四九強	一、〇八三・〇一〇
集水口	一、五五八箇所	一一・五七弱	一七、九四三・〇〇八
八寸土管各戸接續	二九〇・三元間	六・七五強	一、九六一・九四八
五寸土管同	一、七三五・四六〃	四・二九弱	七、三六五・七三四
人孔	三〇箇所	一〇八・二三強	三、二九五・一一〇

種類	員數	單位金額	計金額
矢板	六,三〇二・〇三間	五,五六四強	三三,〇六五・九四〇
掘鑿	四,三六五・五三立坪	三,六六二弱	一五,九八六・四五一
埋土	三,六五一・七七〃	一,七六三弱	六,四三六・四三七
殘土	五七三・四八〃	一,三七三弱	七,八七・三三四
埋込土	五八九・二五〃	五,六六七弱	三,三三九・〇六七
二尺五寸膠泥管鐵道橫斷	一箇所	—	四三・四一七
同 軌道橫斷	—	—	四三〇・六四五
二尺二寸五分膠泥管鐵道橫斷	—	—	二〇四・三八三
同 軌道橫斷	—	—	二七八・九一三
一尺五寸土管	—	—	九八・〇八四
路面修築	二,七六九・九〇面坪	一,〇八八強	一三,七七七・七五
側溝修築	七四〇・五〇間	七四弱	五二八・五三八
雜工費	—	—	五,二五六・三九三
雜費	—	—	三三,七二一・七八〇

市岡排水區幹枝線工事

種類	員數	單位金額	計金額
五尺七寸五分暗溝	三三・六間	一五二・八八強	三,五〇四・二七〇
五尺二寸五分同	一〇一・八五〃	一四二・五三弱	一四,五七九・九八四
五尺同	二七〇・八二〃	一二四・二九二強	三三,六〇七・七六〇
四尺五寸同	一四七・六七〃	一〇九・八三〇強	一六,二二八・六六八
四尺同	五〇・四〇〃	一〇七・三五二強	五,四二〇・五五七
三尺七寸五分同	一七二・六二〃	七六・九三一強	一三,二七九・八三四
三尺五寸混凝土管	三三・四六〃	八・八六強	一八,二〇〇・八七四
三尺二寸五分同	四〇二・四七〃	六七・五六弱	二七,一七三・〇〇〇
三尺同	一八・二六〃	六四・八五強	一,一七四・五六九
二尺七寸五分膠泥管	五六・八〇〃	四〇・八五六弱	二,三三〇・五九八
二尺五寸同	一七二・八四〃	三三・二七一弱	五,七五〇・四八〇
二尺二寸五分同	二九・四四〃	二九・四四二弱	六,四六一・二七二
二尺同	一一・九九〃	二五・五〇弱	三,三四七・二九〇
一尺八寸同	一,〇三三・三〇〃	一五・三〇九強	二六,四三二・七三三
一尺五寸土管	一,三五五・三三〃	一一・八九〇強	一〇,六四三・五四七
一尺二寸同	八九五・二六〃	九・三九四弱	四六,一三五・三三二
八寸同	四,九二一・三九〃	七・八四四弱	一,一九〇六・七四六
集水口	一,五二四・一〇〃	一一・三五弱	二九,七七九・六三三
八寸土管各戶接續	二,四三六箇所	六・七八弱	四,九五九・五三五
五寸土管同	七三三・九二間	四・七三四弱	一六,六〇一・九七
合流會所	三,五〇七・三五〃	八九九・九五弱	三,五九九・八一

泉尾三軒家排水區幹枝線工事

種目	員數	單位金額	計金額
植樹	1	554.50	554.50
雜工	1	332.15	332.15
雜費	1	20,084.25	20,084.25
六尺五寸暗溝	421.70間	172.378	70,967.84
六尺尺同	171.08	161.518	27,630.80
五尺七寸五分同	174.90	138.27	24,174.10
五尺尺同	101.17	117.70	11,937.35
四尺二寸五分同	42.00	107.45	4,514.37
四尺尺同	30.80	88.37	2,721.87
三尺七寸五分同	117.10	74.86	8,766.14
三尺五寸混凝土管	187.74	92.54	17,371.41
三尺二寸五分同	299.67	82.638	24,737.85
三尺尺同	363.55	68.33	24,855.04
二尺七寸五分膠泥管	304.68	41.63	12,682.08
二尺五寸同	395.65	39.33	15,562.24
二尺二寸五分同	332.93	33.00	10,986.36
二尺尺同	754.93	28.55	21,571.82

一尺八寸同	1,153.89	22.55	25,679.92
一尺五寸土管	2,541.75	15.48	39,350.52
一尺二寸同	2,173.88	11.58	25,103.40
八寸尺同	6,688.90	9.63	64,406.95
伏越	1,376.60	7.70	10,615.77
集水口	3,678	1	3,678.00
八寸土管各戶接續	1,295.67	12.65	16,400.89
五寸土管同	4,179.85	7.96	33,277.33
合流會所	6,696	5.65	37,842.36
人孔	17,140.50	93.28	1,597,873.33
矢板	16,487.20	6.69	110,161.42
掘鑿	12,705.90	6.16	78,288.55
埋戻	3,781.30	2.18	8,262.80
殘土	3,781.30	4.38	16,567.80
埋込土	1,526.10	5.75	8,781.80
四尺二寸五分暗溝軌道橫斷	1箇所	1	92.10
三尺七寸五分暗溝同	2	65.55	130.10
三尺五寸混凝土管同	2	366.46	732.82

泉尾三軒家排水區小林抽水所築造工事

種目	員數	單位金額	計金額
三尺二寸五分混凝土管同	一	一	三三八・三四七
路面修築	一	一・一三弱	四七〇・二九七
雜費	一	一	二〇・六一・九八三
雜費	一	一	八三・五六三・四五四
地築	三六・六〇坪	一三・四四〇強	四、八三四・二九九
砂溜井	一箇所	一	四五、〇八七・五六四
唧筒井	一	一	一三、五六六・三九四
水門	一	一	二、八四四・六七
避溢溝	九・七五間	二九〇・三九弱	二、八三〇・六〇七
吐溝	一箇所	一	一七、〇三〇・一五三
雨水吐溝	一五・八〇間	六七五・一三弱	一〇、六七七・一六三
下水吐溝	三六・六六〃	二七・五三〇強	三八、四三五・八一
鐵管	一	一	一四、八九九・八六
唧筒室	九四坪	七四八・三四弱	七〇、三四八・〇八九
電動唧筒機	四臺	一七、三〇八・四四	六九、三三三・九六
電機設備	一臺	一	六、〇三五・三六
起重機	一臺	一	二、九三五・四四〇

西野田抽水所唧筒增設工事

種目	員數	單位金額	計金額
水筒所	三箇所	五六七・九〇弱	一、七〇三・七三九
柵垣及門扉	一	一	六、一八九・二七
水道鐵管敷設	一	一	六六八・三五〇
事務所及物置	一九・七五坪	一三四・四三〇強	二、六五五・〇〇〇
泥溜	一箇所	一	八七七・五二七
植樹	一	一	七四七・五〇〇
雜費	一	一	五、八一・二二
雜費	一	一	二〇、五六七・〇三〇
唧筒室設備	一	一	一、〇三二・七八〇
電動唧筒機	二臺	一	一五、五九九・三七五
制水弁	二個	一	五、九八八・三四七
變壓器	三臺	一	二、五七〇・〇〇〇
鐵管敷設	一	一	二、〇二〇・七八〇
鐵管敷設	一	一	九〇〇・七六七
變壓器據替及電機結線工事	一	一	七、六二五・七六八
水道鐵管敷設	一	一	二八六・六四〇
雜費	一	一	二九九・七〇八

雜費

上福島抽水所唧筒增設工事

種目	員數	單位金額	計金額
砂溜井擴張	一箇所	1	九七二・六九〇
吐口擴張	一	1	七、七五一・六三三
唧筒室建增	一	1	八八八・九二八
電氣唧筒機	一五・三七五坪	八五・三五九弱	一三、七六四・六〇一
排氣唧筒機	二臺	八二六・〇〇〇	一六、四三三・〇〇〇
制水唧筒機	二	三七五〇・〇〇〇	七、五〇〇・〇〇〇
鐵管敷	四個	一、一六五・〇〇〇	四、六六〇・〇〇〇
鐵管敷	1	1	五、八四二・八八〇
變壓器其他工据替	1	1	一、〇三〇・五五五
及電氣結線工据替	1	1	七、八二二・八七三
起重機	一臺	1	一、八六四・三九〇
水道鐵管移轉	1	1	一三二・二三〇
水道位計	二箇所	二六〇・一〇五	五三〇・二二〇
泥溜	一	1	三六、〇六五
雜工費	1	1	一、四一〇・〇三〇
雜費	1	1	三、八六五・一八〇

北野抽水所唧筒增設工事

種目	員數	單位金額	計金額
電動唧筒機械	二臺	五、一七四・三〇〇	一〇、三四八・六〇〇
排氣唧筒	二	四、〇九八・七二三	八、一九七・四三六
制水唧筒	四個	八二二・七五〇	三、二九一・〇〇〇
變壓器敷	三臺	六九二・四九三強	二、〇七七・四八〇
鐵管敷	1	1	二、九五二・〇六一
鐵管敷	1	1	九八三・二六四
變壓器其他工据替	1	1	九、〇六一・六一〇
及電氣結線工据替	1	1	三二七・六五〇
水道位計	一箇所	1	五三六・〇一〇
雜工費	1	1	六八七三・〇六〇
雜費	1	1	1、〇〇九・二四七
唧筒室設備	1	1	一、三九五・五七〇
電動唧筒機械	一臺	1	四、一〇〇・〇〇〇
排氣唧筒	一	1	五、六〇〇・五〇〇
鐵管	1	1	1

難波抽水所唧筒增設工事

種目	員數	單位金額	計金額
鐵管敷設	1	1	九四一・六八
電機結線工事	1	1	二、三九七・五三八
雜費	1	1	八〇・六〇〇
雜費	1	1	一、二四一・七六〇
砂溜井擴張	一箇所	1	九、六五八・三〇八
唧筒井擴張	一〃	1	五、〇九六・五六二
水門井築造	二〃	1	八五九・五八八
唧筒室改築	四八・八〇坪	四、四六二・七九四	二、一七七・三五〇
電動唧筒機械	三臺	八、九四九・四九強	二六、八四八・四〇八
排氣唧筒	二〃	三、七六一・一〇〇	七、五三三・二〇〇
制水唧筒	四箇所	一、一六五・〇〇〇	四、六六〇・〇〇〇
變壓器其他工事	1	1	九、三四六・七八二
鐵管敷設	1	1	六、三五八・五〇〇
鐵管敷設	1	1	二、五〇〇・八八一
起重機	一臺	1	七四三・七〇〇
水位計	二箇所	1	三九・〇六一
計			三九、〇六一

西瀛抽水所唧筒增設工事

種目	員數	單位金額	計金額
事務所改築	一棟	一、七九八・三六強	二、五三四・〇〇〇
事務所移轉	一棟	1	七二七・三九〇
牆壁新設	五二・二〇間	四一・〇三四弱	二、一四一・九六〇
水道鐵管敷設	1	1	一四一・五四〇
雜費	1	1	二、八六四・九八五
雜費	1	1	五、一八三・一八〇
唧筒室設備	1	1	二、〇三六・五八八
電動唧筒機械	一臺	1	一、六七八・八六一
排氣唧筒	一〃	1	四、一〇〇・〇〇〇
制水唧筒	二個	一、一六二・〇〇〇	二、三二四・〇〇〇
鐵管敷設	1	1	二、五六一・三三〇
鐵管敷設	1	1	七六六・〇六二
變壓器据替及電機結線工事	1	1	一、三九五・〇一〇
雜費	1	1	二、五三三・六九〇
雜費	1	1	九四六・三五〇
計			五三

今宮抽水所唧筒増設工事

種目	員數	單位金額 円	計金額 円
唧筒室設備	1	1	九八、四四九
電動唧筒機械	1	1	五、三八一・九三
制水辨	2個	776.500	1、五五三・〇〇〇
鐵管敷	1	1	七六・二〇〇
鐵管敷	1	1	三五七・八一
電機結線工事	1	1	三、〇七〇・七六
雜費	1	1	一一、五〇〇
雜費	1	1	四八、二六五
境川抽水所唧筒増設工事			
砂溜井擴張	1箇所	1	一〇、三六六・八七九
吐口擴張	1	1	七、三三〇・八〇五
吐溝擴張	1	1	二、六二九・二四九
避溢溝改築	1箇所	1	一、五五一・四八
唧筒室増築	八・五〇坪	四七五・五七弱	四、〇四二・五七四
唧筒室設備	1	1	二、三三七・九四八
電動唧筒機械	1	1	五、四四〇・八二二

種目	員數	單位金額 円	計金額 円
排氣唧筒	1	1	七九二・五五四
制水壓辨	1個	1	三、五九九・七七七
變壓器	3臺	八五〇・〇〇〇	二、五五〇・〇〇〇
電機結線工事	1	1	八、六四九・五九九
鐵管敷	1	1	二、九〇五・三七〇
鐵管敷	1	1	一、一〇一・五八五
鐵管敷	1	1	一、三九九・三三二
柵垣改築	七・七間	一九四七〇強	一〇五・九一〇
水道鐵管敷	1	1	三、三三六・四
起重機改設	2臺	四六六・八〇二	六六一・二七四
水位計	1箇所	1	二、三四四・九五
泥溜	1	1	二、二六八・二四五
雜工費	1	1	
雜費	1	1	

三用地の取得

用地の取得及び地上物件の移轉に付いては行爲の性質上通常困難なる問題を生ず。殊に土地の買収に於ては其の所有者との間に價格決定の協定成り難く時に傳家の實刀土地收用法の發動に依り法的強制力を以つて解決を圖る例屢々あるも、本事業に關しては此種法的解決の必要もなく却つて若干土地の寄附を得、萬事圓滿に結了するを得たるは一面土地關係市民の本事業に對する理解によるものと言はざるべからず。

今之が成績を示せば左の如し。

第二回下水道改良事業用地買収調

種目	面積	買収價格	地上物件補償價格	合計
西野田排水區幹枝線用地	一二七〇坪	一、一四三、〇〇	一、五〇一、七六	二、六四四、七六
市岡排水區幹枝線用地	一三三、三三〇	一、六〇〇、三〇〇	二、五四八、八五	三、一四九、一五〇
同 抽水所用 地	一、七四四、五九〇	一九一、九〇四、九〇	一九一、九〇四、九〇	三、一四九、一〇〇
泉尾三軒家排水區幹枝線用地	一三三、二八〇	一〇、八九五、五一	二、一九九、六〇	一二、〇九五、一一
同 小林抽水所用 地	一、三九六、九七〇	一三九、六九七、〇〇	一、五九五、九三	一四、二九三、九三
雜費 (印紙代)	—	—	—	一四七、五〇
合計	三、四〇〇、八八〇	三、五九〇、六四三、八一	三、八四六、三三	三、八六七、四四
種目	面積	見積價格	寄附者氏名	
泉尾三軒家幹枝線	八七九、三三坪	三三、〇〇六、五五	二口 泉尾土地株式會社	
市岡幹枝線	一、三〇、三三〇	一一〇、二四〇、〇〇	大阪運河株式會社	
同	九、八一〇	九一、〇〇〇	尼崎 伊三郎	
同	九、七六〇	九七八、〇〇〇	土居原 作太郎	
同	九、六三〇	九六三、〇〇〇	大野 伊之助	
同	八、五〇〇	八二五、〇〇〇	宗像 半之助	

同	六、七六〇	六、一七八、〇〇	山川 庸之助
計	二、三五八、八三〇	一、五、四六一、五五	

四 主 要 材 料

セメント其他主要材料の購入數價格は左の如し。

種目	形質寸法	數量	價格	主ナル購入先	備考
セメント		三六、五四樽	二四二、七九四、〇〇	東野セメント株式會社	
硅藻土		一二六、五三俵	二五、〇六七、〇〇	淺野セメント株式會社	
洗砂		七、八坪	八、七八九、〇〇	豊國セメント株式會社	
砂	混凝土用	三、五四〇	一三六、二〇〇、〇〇	大土佐セメント株式會社	
同	道路用	二、〇九三	八〇、三五二、〇〇	豊國セメント株式會社	
同	基礎用	三、六九二	一四、四五九、〇〇	東野セメント株式會社	
同	目潰用	五、六〇〇	一〇〇、四三三、〇〇	大土佐セメント株式會社	
人孔縁石		一一、九三個	一三、三三六、〇〇	東野セメント株式會社	

同	小林抽水所吐口井其ノ他築造工事	1	14,178.430	同	六四
同	市岡抽水所築造工事	1	34,733.870	平野留吉	
同	難波抽水所擴張工事	1	19,633.610	濱本勘三郎	
同	同 追加工事	1	2,139.760	同	
同	上福島抽水所擴張工事	1	10,164.170	樋口惣五郎	
同	泉尾三軒家第一回幹枝線工事	1	140,155.740	木村榮藏	
同	市岡幹枝線工事	1	1,298.100	平野留吉	
同	市岡第一回幹枝線工事	1	106,876.510	同	
同	小林抽水所地築其ノ他工事	1	1,888.800	木村榮藏	
同	同 唧筒室築造工事	1棟	47,333.550	同	
同	同 下水吐溝築造工事	1	3,758.860	同	
同	同 唧筒室衛生設備工事	1	2,680.810	須賀豊次郎	
同	市岡抽水所工事	1	4,908.380	平野留吉	
同	同 唧筒室築造工事	1棟	44,788.530	同	
同	同 衛生設備工事	1	2,413.910	城口權三	
同	難波抽水所牆壁新設其他工事	1	2,790.000	井上福藏	
同	北野抽水所唧筒増設工事	1	2,699.850	合資會社安田組	
同	泉尾三軒家幹枝線工事	1	105,503.710	木村榮藏	
同	市岡幹枝線工事	1	139,280.250	平野留吉	

同	小林抽水所構内盛土工事	1	3,000.000	木村榮藏	
同	同 物置及職夫詰所新築工事	1	11,330.000	男野安治郎	
同	同 吐口井用水門電動閉装置工事	1	1,284.050	株式會社鈴木商店	
同	同 柵垣工事	1	4,121.000	木村榮藏	
同	市岡抽水所浄化装置築造工事	1	29,001.000	平野留吉	
同	同 設備工事	1	10,003.000	同	
同	同 浄化装置機室其ノ他築造工事	1	6,186.000	同	
同	同 物置及職夫詰所新築工事	1	2,335.000	山田光太郎	
同	同 柵垣工事	1	4,788.000	平野留吉	
同	境川抽水所擴張工事	1	13,377.980	樋口惣五郎	

第三節 資金の調達

下水道事業に要する資金の調達は至難の問題なり。我國に於ける下水道事業の發達が歐米の列國に比し著しく遜色あるは實に事業財源の貧困に起因するのであつて、本問題の法制的解決こそ保健行政上の緊急重要宿題たり。惟ふに本事業を施行するに當りては其の築造費の一部を國庫補助に仰ぐの外其の殘餘は起債により、其の元利償還並に維持經營費は租稅收入によるか他の市營事業の收益餘剰を以つて之に充てざるを得ざるなり。然しながら我國現在の市町村に於ける租稅收入及び公企業に依る收益餘剰金を以つてしては、下水道事業の如き巨費を要する事業公債の元利償還は到底期待し得ざるのみならず、將來地方稅制度の改正が行はるも恐らくは其の支辨困難なるべく、こゝ

に下水道事業費としての資金調達の問題は依然として残されたるものと云はざるを得ず。

下水道事業の財源に關して都市計畫法の存在は實に旱天に慈雨を得たるものと言ふべく、本事業が都市計畫事業として遂行せられんか、都市計畫法に基く特別税及受益者負擔金等の新財源を獲得し得ればなり。

蓋し本市理事者が本事業を該法に基く事業として認定手續を採りたるは故なきに非ず。要之本事業は新財源たる受益者負擔金及都市計畫特別税に依る家屋税と公債を以て事業費に充て、之が元利償還財源は國庫補助金、家屋税及び給水料を以つて充當せしめたり。

一 國庫補助金

大正十年十二月二十三日、市會に於て第二回下水道改良工事施行の件及び該工事費に對する國庫補助申請の件を議決、同二十六日内務大臣宛之を稟請し財政計畫を樹立して資金を調達し着々工事の進捗を圖りしが、政府は財政の都合上國庫補助の指令を發するに至らざるを以て屢々懇請し、漸く大正十四年三月二十八日議會の決議を得て大阪下水道補助に關し豫算外國庫の負擔となるべき契約をなすを要する件官報を以て公示ありたり。

仍て大正十四年十月二十四日更に同補助金の下附を申請、大正十五年三月三十一日左記の如く精算主義による補助指令に接するを得たり。

内務省一四 阪土第二〇八號

大阪府 大阪市

大正十四年十月二十四日付水甲第一、八〇六號申請下水道築造費國庫補助ノ件聽屆ケ金百參萬八千圓ヲ別記年度割ノ通交付ス但シ左記ノ通り心得ヘシ

大正十五年三月卅一日

内務大臣 若槻禮次郎

記

- 一 補助ハ其ノ市下水道築造費金四百壹萬七千七百六拾圓四拾四錢中既設上福島抽水所外六抽水所唧筒増設費金參拾參萬九千七百貳拾九圓八拾壹錢、西野田抽水所唧筒増設費ノ内既設排水區ニ屬スル分金貳萬百貳拾壹圓八拾四錢參厘及受益者負擔額金五拾四萬參千參百七拾八圓六拾錢ヲ控除シタル金參百拾壹萬四千五百參拾圓八錢七厘ニ對シ補助スルモノトス
- 二 大正十五年十二月三十一日迄ニ工事完了認定ヲ申請スヘシ
- 三 工費ニ剩餘アリタルトキハ第一項補助ノ割合ニ依リ之ヲ返還セシムルコトアルヘシ
工事用材料ニ剩餘アリタルトキハ時價ニ換算シ之ヲ剩餘ト看做ス
- 四 市ハ剩餘ヲ生シタル工費若ハ工事用材料ヲ處分セムトスルトキハ其ノ處分方法ヲ定メ本大臣ニ稟何スヘシ
- 五 補助ヲ爲シタル下水道設備ノ廢止若ハ變更ニ因リテ生シタル不用土地、物件アリタルトキハ之ヲ時價ニ換算シ第一項補助ノ割合ニ依リ補助金ヲ返還セシムルコトアルヘシ

記

金 壹 千 圓	自大正十四年度	毎年度交付額
金 貳 千 圓	至大正十九年度	
金 參 千 圓	大正二十年 度	同
金 參 千 圓	大正二十一年 度	同
金 四 千 圓	大正二十二 年度	同
金 參 千 圓	大正二十三 年度	同
金 參 千 圓	自大正二十四年度	同
金 參 萬 圓	至大正二十五年度	同

金 貳 千 圓	大正二十六年度	同
金 參 千 圓	大正二十七年	同
金 參 萬 圓	大正二十八年	同
金 五 萬 圓	自大正二十九	同
金 拾 五 萬 圓	至大正三十年	同
金 貳 拾 萬 圓	大正三十一年	同
金 七 萬 五 千 圓	自大正三十二	同
	至大正三十四	同
計 金 百 參 萬 八 千 圓	大正三十五年	同

二 受益者負擔金

下水道受益者負擔金は都市計畫法第六條の規定に基き、都市計畫事業に因り著しく利益を受くる者をして其の受くる利益の限度に應じて都市計畫事業の執行に要する費用の全部又は一部を負担せしむものにして、其の費用の金額及負擔方法は關係市町村長の意見を聞き都市計畫委員會の議に従ひ内務大臣之れを定むるものなりとす。

前述の如く本市は下水道改良事業を始めて都市計畫事業として執行することに決したるにより、大正十年九月三十日都甲第九〇號を以つて内務大臣に決定方内申したるに、主務省に於ては此の制度は我國最初の試みなるにより慎重なる審議を重ねられ、其の間本市よりも充分説明に努め幾多の曲折を経て漸く大正十二年二月二十二日都市計畫大阪地方委員會に附議せられたり。

本市に於ては更に提案せられたる右規定を以つて修正するを實行上適當なりと信じたるを以つて、同年三月十四日

修正意見を内務大臣に答申し地方委員會は本市答申の通り修正可決の上報告せられ、大正十二年七月三十一日内務省令第二十四號を以て決定公布せられたり其の全文左の如し。

内務省令第二十四號

大正十二年七月三十一日

内務大臣 水野 鍊太郎

第一條 大阪市ハ都市計畫事業トシテ市長ノ執行スヘキ下水道事業ニ要スル費用ニ充ツル爲本令ノ定ムル所ニ依リ受益者ヲシテ費用ヲ負擔セシムヘシ

第二條 本令ニ於テ受益者ト稱スルハ左記各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ第一號ノ期間ニ付テハ事業着手ノ時ヨリ起算ス

一 排水区域内又ハ第六條ニ規定スル地域内ニ在ル有租地ノ所有者但シ賃權ノ目的タル土地ニ付テハ賃權者十年ヨリ長キ期間ノ定アル地上權、永小作權及賃借權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者、永小作人及賃借人

二 前號ノ区域内又ハ地域内ニ在ル無租地ニシテ公用又ハ公共ノ用ニ供セラレサルモノニ付テハ地上權者、永小作人及賃借人

第三條 排水区域内ニ於ケル受益者ノ總負擔金額ハ工事費ノ四分ノ一以内(本市ハ更ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケ六分ノ一ニ減スル見込)ニ於テ内務大臣之ヲ定ム

第四條 各受益者ノ負擔金額ハ前條ノ總負擔金額ニ付土地ノ面積ニ比例シテ之ヲ定ム

第五條 下水道事業ニ付數箇ノ排水區域アル場合ニ於テハ各排水区域内ノ工事費ニ付前二條ノ規定ヲ適用ス

二箇以上ノ排水區域ニ共通ノ工事ニ在リテハ其ノ工事費ヲ各關係排水区域内ニ其ノ面積ニ比例シテ配分シ前項ノ工事費ニ算入ス

第六條 下水道ノ全部又ハ一部カ道路ト効用ヲ兼ヌルトキハ前三條ノ規定ニ依ルノ外其部分ノ兩側ニ於テ下水道ノ境界線ヨリ

奥行二十間ノ地域内ニ於ケル受益者ヲシテ其部分ノ工事費ノ五分ノ一ニ付其ノ半額ハ當該下水道ニ面スル土地ノ間口ノ長ニ比例シ他ノ半額ハ地域内ノ土地ノ面積ニ比例シ工事費ヲ負擔セシム但シ既設道路ニ下水道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
奥行、地番界、河川、溝渠又ハ並行道路等土地ノ實況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ内務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス別ニ地域及負擔金額ヲ定ムルコトヲ得

第七條 前條ノ費用ヲ重複シテ負擔スル關係ニ該當スル土地ニ付テハ負擔ノ一部ヲ免除スルコトヲ得

第八條 負擔金ハ工事着手ノ日ノ現在ニ依リ受益者ヨリ之ヲ納付セシム但シ工事着手後五年ヨリ長カラサル期間ニ於テ分納セシムルコトヲ得

第九條 下水道事業ニ要スル費用ヲ補充スル爲メ土地物件勞力又ハ金錢ヲ寄附シタル者ニ對シテハ其ノ寄附額ノ範圍内ニ於テ本令ニ依ル負擔ヲ減免スルコトヲ得市長力適當ト認ムル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ之ヲ寄附シタル者ニ付亦同シ

第十條 本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

右省令第三條に因る總負擔金額並に同第六條に因る地域及負擔金額を定むる必要あり大正十二年十月十三日内務省令第四號を以つて左記の通り定められたり。

内務省令第四〇號

大正十二年七月内務省令第二十四號大阪都市計畫事業下水道受益者負擔ニ關スル件第三條ニ依ル總負擔金額並第六條第二項ニヨル地域及負擔金額ヲ左ノ通り定ム

大正十二年十月十三日

内務大臣 後 藤 新 平

排水区域内ニ於ケル受益者ノ總負擔金額ハ工事費ノ六分ノ一トス地域及負擔金額ニ付テハ大正十二年八月内務省令第二七號ノ規定ヲ準用ス

參 照 (一)

大正十二年八月二十三日内務省令第二七號

大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔ニ關スル件第五條ニヨル負擔區域及負擔金額ノ件

第一條 奥行二十間ノ地域内ニ河川、溝渠、堤塘、下水道等土地ノ利用ヲ區分スヘキ地物アルトキハ之ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス但シ同一街路區劃内ニ於テ町界下水道ノ繼續セル部分ハ町界線ヲ以テ町界下水道ト看做ス

第二條 並行道路ノ間隔四十間ニ滿タサル區劃ニ付テハ其ノ中央線ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス但シ前條ニ依リ負擔區劃ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 街角ヲ剪除シタル部分ニ在リテハ其ノ剪除セサル部分ノ道路境界線ヲ延長シタル線ヨリ奥行二十間ノ線ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス但シ前二條ニ依リ負擔區劃ヲ定ムヘキモノハ此ノ限リニ在ラス

第四條 前三條ノ場合ニ於ケル一坪當負擔金ハ大正十一年八月内務省令第十八號第二條、第三條及第四條ニ依ル坪當負擔金額ト同一トス

第五條 路面ノ改良ヲ爲スヘキ道路中他ノ新設擴張ヲ爲スヘキ道路ノ境域内ニ係ル部分ノ受益者ノ負擔ハ其ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

參 照 (二)

大正十一年八月七日内務省令第一八號

大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔ニ關スル件

第二條 路面ノ改良ニ依リ受益者カ工事費ヲ負擔スヘキ區劃ハ當該道路ノ双侧ニ於テ道路ノ境界線ヨリ奥行二十間ノ地域トス

第三條 路面ノ改良ヲ爲スヘキ道路ノ片側ニ於ケル者ノ負擔スヘキ金額ハ工事費ノ四分ノ一トス但シ幅員六間以上ノ道路ニ在リテハ幅員六間ノ道路ノ負擔金額ト同額ニ止ム

第四條 前條ニ依ル負擔金額ノ内其ノ半額ハ路面ノ改良ヲ爲スヘキ道路ニ接スル土地ノ間口ノ長ニ比例シ他ノ半額ハ第二條ノ區劃内ノ土地ノ面積ニ比例シ負擔金額ヲ定ム

受益者負擔に關する規定は前述の如く制定せられたるを以つて規定第八條により各排水區工事着手の日の現在に於ける受益者を調査し總負擔金額并に一坪に對する負擔額を左記の通り決定せり。

一 大正十二年七月三十一日 内務省令第二十四號(大阪都市計畫事業下水道受益者負擔ニ關スル件)

第二條第一項第一號ノ有租地ノ面積ハ土地臺帳ニ依リ調査スルモノトス、但認定道路ニシテ有租地ナルトキハ之ヲ控除ス

二 各排水區並ニ既設抽水所擴張工事費ハ左記ノ通りトス、但シ既設抽水所擴張工事ニ對シテハ受益者負擔ヲナササルモノトス

- (1) 西野田排水區工費 四十二萬八千六百四十一圓
 - (2) 市岡排水區工費 百七十一萬三千八百六十三圓
 - (3) 泉尾三軒家排水區工費 二百十八萬一千八百八十八圓
 - (4) 既設抽水所擴張工費 二十七萬五千六百八圓
- 計 四百六十萬圓

三 各排水區ニ於ケル受益者ノ負擔スベキ工事費ハ左記ノ通りトス

排水區別	工事費	將來排水地域ノ擴張ニ要スル工事費	現在ノ排水區域ノミニ要スル工事費	受益者ノ負擔スヘキ工事費(現在排水地域ノミニ要スル工事費ノ六分ノ一)
西野田	四二八、六四一	一	四二八、六四一	七一、四四〇
市岡	一、七三三、八六三	六、五五四	一、七四〇、三五四	二八四、五五八
泉尾三軒家	二、一八一、八八八	三、三九五	二、一五八、九三三	三五九、八三三
計	四、三四三、九二二	二九、四九	四、二四四、九七三	七五、八三九

四 各排水區一坪當負擔金、全面積ヨリ井路及認定道路敷ヲ控除シタル面積ヲ以テ負擔工事費ヲ除シタルモノ左ノ如シ

排水區別	全面積	井路敷面積	認定道路敷面積	全面積ヨリ井路認定道路敷面積ヲ控除シタル面積	負擔工事費	一坪當負擔金
西野田	一三三、七四・七〇	四、五〇〇・四	一四、九八・六〇	一一三、一八・五〇	七一、四四〇	〇・六二二
市岡	二、三三〇、八六・五九	七、一八〇・〇〇	三〇、七五・〇〇	二、二九二、九三・五九	一、七三三、八六三	一・七三三
泉尾三軒家	四四三、六八・三三	九、八八・九三	四八、八五・六〇	三八四、九四・八〇	三五九、八三三	〇・九三四
計	八一九、五九・八三	二一、五九・四一	九四、五九・二〇	七三三、四一・三三	七五、八三九	

五 大正十二年七月三十一日内務省令第二十四號第九條ノ減免額ハ寄附金額トス

六 負擔金分納ニ對スル擔保物ノ種類及價格ハ大正十二年度市公金取扱銀行ト契約シタル契約書第十五條ノ擔保物並ニ不動産トス、但シ不動産ノ價格ハ主務部長之ヲ評價ス

七 負擔金納付期限ハ納付書發行ノ日ヨリ二十日トス

前述の如く本負擔金は始めての試みにして徴收上多少の困難を豫想せし爲め大正十二年八月十日各關係者に内務省令第二十四號規定全文、徴收の豫告、質權地上權等登記未済のものに對する取扱及内納許可方法等を通知せり。而して各義務者の負擔地面積の調査結了したるを以つて納額告知書發行に先だち大正十二年十一月十日左記の通知を爲せり。

曩ニ御送付申上候本市都市計畫事業下水道工事費負擔ニ關スル規定ニ基キ負擔可相成排水區域内一般負擔金一坪當並ニ其面積ハ左記ノ通ニシテ近日納額告知書發送可致候間御了承相成度爲念御通知申上候也
追テ分納ノ場合ハ三ヶ年トシ年一割ノ利子ヲ付シ保證人若ハ相當擔保ヲ要スル次第ニ付御希望ノ方ハ本書到達ノ日ヨリ七日以内ニ水道部庶務課へ申出相成度申添候

一坪當負擔金 錢 厘
負擔地面積 坪 合 与
大正 年 月 日

大 阪 市 役 所

分納申出等纏りたるを以つて納期を大正十三年一月二十日とし大正十二年十二月二十六日納額告知書を各義務者に配付せり。

猶ほ未納者に對しては數度催告を爲し左の如き好成绩を以て徴收を了したるは各納付義務者の本事業に了解ありしが爲めとは言へ徴收事務擔當者の努力も亦認めざるを得ざる處なりとす。

賦 課 總 額 六四九、四五五・六四〇
内 六四九、四五五・六四〇



下水道用地寄附ニヨル賦課免除額 六一、二二七・〇一〇
規程制定前限定相續ニヨル缺損額 四五二・〇六〇
徴 收 額 五八七、七七六・五七〇
計 六四九、四五五・六四〇

右徴收額と事業費收入決算額との關係を明瞭ならしむため左に收入年度を掲ぐ。

大正十二年度 下水道改良費收入 四四八、三二九・六三〇
大正十三年度 同上 一二六、一一九・一九〇
大正十三年度 同上 分納金利息 一、三七三・六一〇
大正十四年度 公債費收入 一三、三二七・七五〇

工事完成後其精算額豫算額に比し減少を來し、曩に徴收したる負擔額六十四萬九千四百五十五圓六十四錢は工事費決算額の六分の一に相當する五十九萬五千八百三十九圓に對し五萬三千六百圓餘を超過したるを以て左表の如く一坪當りの負擔金額を變更し差額は之を還付せり。

三 公 債

本事業の經費は受益者負擔金及小額の雜收入の外總て之を公債に據ることとし、大正十年十一月十九日第三回下水道公債條例制定の件を市會に提出し十二月二十三日其議決を経て同月二十六日主務大臣に許可を申請したるも、當時政府は非募債主義を高唱せる爲め容易に許可指令を發せざりしが、都市住民の保健衛生上一日も忽諾に附す能はざる下水道設備の重要性を力説し、漸く大正十二年一月二十二日左の如き通牒文付にて許可せらるに至りたり。

内務省一 阪地第二八號

大阪府 大阪 市

七六

大正十年十二月二十六日財甲第四一四五號稟請第三回下水道公債條例ノ件許可ス
大正十二年一月二十二日

内務大臣 水野 鍊太郎
大藏大臣 市來 乙彦

地第三〇五三號

大正十二年一月二十六日

大阪市長 殿

大阪府 内務部長

起債ノ件 依命 通牒

第三回下水道公債條例ノ件別紙ノ通許可相成候處左記事項御措置相成度

記

- 一、左記事項ハ内藏兩大臣へ報告スルコト
- 一、條例第十條ニヨリ定メタル事項
- 二、公債募集ヲナシタルトキ
- 三、條例第三條ニ依リ公債募集ノ引受ヲナサシメタルトキ (契約書寫添付)
- 二、左記事項ハ内藏兩大臣ノ承認ヲ受クルコト
- 一、條例第八條ニヨリ短期債ヲ起ストキ

二、公債募集ノ時期

- 三、起債ハ初年度ニ於テ一時ニ募集スル計畫ナルモ毎年度實際ノ所要ニ應シ借入レ且事業年度中ニ於テハ水道經濟ニ屬スル擴張事業準備資金ヲ一時繰入レ之ヲ大正十四年度ニ於テ募債シ繰戻ヲナシ可然募債ヲ繰延フルコト
- 四、大正十一年度分事業ニ付テハ水道經濟資金ヨリ一時繰入ヲナス限度ニ止メ其ノ未施行ニ屬スル分ハ可然大正十四年度ニ繰延フル方法ヲ講スルコト

右許可に依り大正十二年二月一日左記大阪市第三回下水道公債條例を制定せり。

議案第二百七十八號

大阪市第三回下水道公債條例制定ノ件

大阪市第三回下水道公債條例左ノ通相定ム

大正十年十一月 日提出

大阪市長 池 上 四 郎

大阪市條例第 號

大阪市第三回下水道公債條例

- 第一條 本公債ハ本市下水道改良ノ經費ニ充ツル爲大正十一年度ヨリ同十三年度迄ニ手取額金參百八拾八萬八千圓以内ヲ一回若ハ數回ニ募集スルモノトス
- 前項公債ノ發行額ハ額面金額四百參拾貳萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第二條 本公債ノ利率ハ一ヶ年ニ付證券額面金額ノ百分ノ六、五以内トス
- 第三條 本公債ノ募集ハ特ニ指定シタル銀行又ハ相當ノ資格アル者ヲシテ之ヲ引受ケシムルコトヲ得
- 第四條 本公債ノ元金及利子ハ家屋稅、給水料、國庫補助金及雜收入ヲ以テ之ヲ支拂フ但シ他ノ資金ヲ以テ支拂フコトヲ妨ケス

七七

第五條 本公債ノ利子ハ毎年二回ニ分チ各其ノ前六ヶ月分ヲ支拂フ但六ヶ月ニ滿タサル期間ニ對シテハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス
償還ノ期日ヲ定メテ公告シタル公債ノ元金ニハ該期日以後ノ利子ヲ付セス

第六條 本公債ノ元金ハ大正十六年度ヨリ同三十五年度迄ニ別表ノ通抽籤ノ方法ヲ以テ毎年度其ノ一部ヲ償還ス但シ買入銷却
ヲ爲スコトアルヘシ

財政上ノ都合ニ依リ三ヶ月以前ニ豫告シテ償還年限ヲ短縮シ又ハ本公債ノ全部若ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得

第七條 本公債證券ノ様式ハ無記名利札付トス

第八條 市場ノ狀況其ノ他ノ事由ニ因リ必要アルトキハ大正十五年度迄ニ償還スヘキ利率年九分以内ノ短期公債ヲ起シ一時本
公債ノ募集ニ代フルコトアルヘシ

前項ニ依リ起債シタル短期公債ノ元金ハ本公債條例ニ依リ募集シタル募集金ヲ以テ之ヲ償還シ利子ハ家屋稅、給水料、國庫補
助金及雜收入ヲ以テ支拂フモノトス但シ他ノ收入ヲ以テ之ニ代ヘ又ハ補充スルコトヲ妨ケス

第九條 前條短期公債償還ノ爲ニ本公債ヲ募集スル場合ニハ第一條ノ募集期間ヲ大正十五年度迄トス

第十條 本公債ノ發行價格元利支拂方法其ノ他必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

說明

本市第三回下水道改良ノ經費ニ充ツル爲メ大正十一年度以後ニ於テ公債募集ノ要アリ是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

市參事會ノ意見

原案ニ異議ナキモノトス

(別表)

第三回下水道公債償還年次表

年次	年度	債額			收入			支出		差引殘	
		家屋稅	給水料	國庫補助金	雜收入	繰越金	計	元金	利子		
大正	一一	四,三三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一八,三三六	一	三九,三三六	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	一八,五三六
一一	一二	四,三三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	二八,三三三	一	四七,三三三	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	一五,九二八
一二	一三	四,三三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一五,九二八	一	三三,四二八	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	三,三三八
一三	一四	四,三三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	九四,二二八	一	三三,四二八	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	三,三三八
一四	一五	四,三三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	三三,三三八	一	二八〇,八〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	〇
一五	一六	四,三三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一七,五〇〇	一	四〇,〇〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	二八
一六	一七	四,三三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一五,〇〇〇	一	三三,〇〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	〇
一七	一八	四,三三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一五,〇〇〇	一	三三,〇〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	〇
一八	一九	四,三三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一五,〇〇〇	一	三三,〇〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	〇
一九	二〇	四,三三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一五,〇〇〇	一	三三,〇〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	〇
二〇	二一	三,九七九,一〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一五,〇〇〇	一	三三,〇〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	〇
二一	二二	三,八五九,三〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一五,〇〇〇	一	三三,〇〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	〇
二二	二三	三,七三九,五〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一五,〇〇〇	一	三三,〇〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	〇
二三	二四	三,六一〇,七〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一五,〇〇〇	一	三三,〇〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	〇
二四	二五	三,四九〇,九〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一五,〇〇〇	一	三三,〇〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	〇
二五	二六	三,二七〇,一〇〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	一五,〇〇〇	一	三三,〇〇〇	一	二八〇,八〇〇	二八〇,〇〇〇	〇

(参照ノ三)

特別負擔金 收入明細表

年度	即納金	分納金	分納金利息	收入計	備考
大正一一	三三、八八二	一一、六七七	一	四六、五五九	特別負擔半額ハ即納ノ見込
同 一二	一	一一、六七七	三三、三五	一三、三五	分納金 三三、三五
同 一三	一	一一、六九九	一一、六三	二三、七九	一ヶ年分利息利率年一割
計	三三、八八二	三三、八八三	三三、四八七	七〇、二五二	同分納金 一一、六三六

(参照ノ四)

特別負擔明細表

排水區域	下水道工事費	特別負擔金	負擔土地面積	一坪ニ對スル負擔額
西野田方面	四七、五〇〇	七、九六	一七、四三	六三
市岡方面	一、五八、六七五	二六、四七九	二二、〇八	一、二五五
泉尾三軒家方面	一、九二、四一〇	三三、〇七〇	二九、四三	一一六
計	四、〇一、三八五	六九、七五五	六三、九六	一、〇四

(参照ノ五)

雜收入(預金利息)明細表

年度	預金利息	預金額	期間	利率	利息額
大正一一	一八、三六	一、四〇、〇〇〇	一七ヶケ月	年五分五厘	四四、九六
同 一二	九七、三三	二、八〇、〇〇〇	一七ヶケ月	同	一三六、〇〇〇
計	二七六、五八	一、七〇、〇〇〇	同	同	五四、八六二

右の如く公債の許可を得たるも依命通牒の存在は大正十一年度に於ける事業資金の募債繰延を餘儀なからしめられたるば、水道費蓄積金其他の資金より繰入を爲し大正十二年、大正十三年兩年度の事業資金は山口銀行外七行との間に契約を締結し短期公債を起し之を充當せり。

事業年度内に於ける資金の收支を表示すれば次の如し。

種別	年度	大正十一年度	大正十二年	大正十三年	計
事業費		一、三五、五九三	一、四八、六五七	一、一七、八五三	四、〇二、〇〇三
(資金)					
水道費蓄積金		五五、〇九一			五五、〇九一

公債費蓄積金	176,800.00				176,800.00
特別負擔金					
財産賣却及雜收入	3,037.71	48,339.63		27,493.80	55,882.46
家屋稅	9,867.75	11,101.67		7,183.94	33,185.48
公債費繰入	65,675.55	3,000.91		1,994.73	14,581.73
短期債		1,010,287.31		1,041,811.81	2,001,100.55
計	135,581.01	1,443,677.53		1,178,553.28	4,017,600.44

第三回下水道公債條例は許可の際募債を大正十四年度迄繰延ぶべき旨の通牒ありたるに依り、水道費所屬蓄積金及公債費所屬蓄積金等を繰入れ事業費の支出に充て不足は短期債に依り支障なからしめたり。而して大正十四年度に於て募債し前記繰入金の繰戻をなすべく大正十四年二月二十三日條例改正の件を市會に提出し三月三十日其の議決を経たるも、當時本公債の償還財源たる國庫補助金の年度割を帝國議會にて審議中なりしに依り一時執行を見合せしが、其後國庫補助金下付の年度割決定したると事業費支出豫定より少なりし爲め、募債額を減じ大正十四年十月三日改めて條例改正の件を市會に提出し同月八日左記の如く其の議決を経たり。

議案第二百六十七號

大阪市第三回下水道公債條例中改正ノ件

大正十二年二月大阪市條例第一號大阪市第三回下水道公債條例中左ノ通り改正スルモノトス但シ大正十四年三月三十日市會議決議案第五十七號大阪市第三回下水道公債條例中改正ノ件ハ取消スモノトス

大正十四年十月 日提出

大阪市長 關

大阪市條例第 號

第一條第一項中「十三年度迄」ヲ「十四年度迄」ニ「參百八拾八萬八千圓」ヲ「參百拾八萬七千七百拾圓」ニ改ム

第一條第二項中「四百參拾貳萬圓」ヲ「參百五拾四萬壹千九百圓」ニ改ム

第八條第一項及第九條中「十五年度迄」ヲ「二十三年度迄」ニ改ム

第八條中「九分」ヲ「八分」ニ改ム

(別 表) 第三回下水道公債償還年次表ヲ別表ノ通改ム

說 明

本市第三回下水道公債條例ハ許可ノ際ニ於ケル通牒ニ依リ募債ヲ繰延ヘタルト國庫補助年度割確定シタルトニ依リ條例及償還年次表改正ノ要アリ是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

市參事會ノ意見

原案ニ異議ナキモノトス

(別 表)

第三回下水道公債償還年次表

年次	年度債額	入			支			差引殘
		家屋稅	給水料	國庫補助金繰越金	計	元金	利子	
一 大正	3,541,900 円	39,950 円	1 円	1,000 円	40,950 円	192,166 円	192,166 円	3,764 円
二	3,541,900 円	1,000,000 円	1,000 円	4,271,111 円	5,272,111 円	2,100,133 円	3,171,978 円	40 円
三	3,541,900 円	1,000,000 円	100,000 円	1,000 円	2,001,000 円	2,001,133 円	2,002,133 円	66 円

年度	起債額	當該年度收入	繰越金	計	短期公債	長期公債	利子	計	差引殘額	補充
四一七	三,四八二,一〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	六四,七〇〇	三六,三七八	二九〇,九七八	三
五一八	三,四二六,五〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	六八,九〇〇	三三,〇七三	二九〇,九七三	七
六一九	三,三三四,六〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	七三,四〇〇	三二,五九四	二九〇,九四四	六
七二〇	三,二七四,一〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	七九,一〇〇	三二,八二三	二九〇,九二三	七
八二一	三,一五五,一〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	八五,三〇〇	三二,七六三	二九〇,九三二	八
九二二	三,一〇九,八〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	九二,八〇〇	三二,一三七	二九〇,九二七	三
一〇二三	三,〇一八,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	一〇〇,八〇〇	三二,〇七六	二九〇,九二二	三
一一二四	二,九三二,三〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	一〇九,一〇〇	三一,九八七	二九〇,九一七	三
一二二五	二,七九二,一〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	一三八,五〇〇	三一,八四三	二九〇,九一三	六
一三二六	二,六五二,六〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	一四七,〇〇〇	三一,七四九	二九〇,九〇九	八
一四二七	二,五三三,一〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	一五六,三三三	三一,六五三	二九〇,九〇三	八
一五二八	二,四四四,八〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	一六五,六〇〇	三一,五六三	二九〇,八九九	六
一六二九	二,三四一,三〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	一七四,三〇〇	三一,四七八	二九〇,八九八	三
一七三〇	二,〇四六,六〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	一八三,〇〇〇	三一,三九二	二九〇,八九二	三
一八三一	一,八四〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	一九二,〇〇〇	三一,三〇九	二九〇,八九九	五
一九三二	一,五九九,六〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	三一,二二四	二九〇,八九四	六
二〇三三	一,二八八,四〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	二〇九,〇〇〇	三一,一三九	二九〇,八九〇	五
二一三四	一,〇七二,八〇〇	一九〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	二一八,〇〇〇	三一,〇五四	二九〇,八八〇	三
二二三五	二六八,一〇〇	一九〇,〇〇〇	二〇,五三七	七,五〇〇	一	三九,〇〇〇	二二七,〇〇〇	三一,〇〇〇	二九〇,八七五	一

計 四,〇九九,五〇〇 一,二九八,一〇七 一,一〇八,〇〇〇 三,二九四,七〇七 七,七〇七,七〇四 五,五四一,九〇〇 三,四六六,二二五 七,〇〇〇,一五五 三,二六六

備考

- 一、利率八年六分五厘トシテ計上セリ
- 二、發行價格ハ額面百圓ニ付九拾圓トシテ計上セリ

(參照ノ一)

第三回下水道短期公債起債期間中償還年次表

次年度	長期公債	短期公債	當該年度收入	繰越金	計	短期公債	長期公債	利子	計	差引殘額	補充
一一四	一	三,一〇九,八〇〇	二,七四四,〇〇〇	一,二九七,六〇〇	二,七四四,〇〇〇	一	三九,〇〇〇	三三,四二一	二,九七七,九一一	一九六,九九九	一
一二一五	一	一〇八,五〇〇	一九六,九九九	三三八,一九九	一	一	一	二五五,〇二七	二五五,〇二七	△二六,八八八	二六,八八八
一三一六	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
一四一七	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
一五一八	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
一六一九	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
一七二〇	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
一八二一	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
一九二二	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
二〇二三	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
二一二四	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
二二二五	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
二三二六	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
二四二七	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
二五二八	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
二六二九	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
二七三〇	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
二八三一	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
二九三二	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
三〇三三	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
三一三四	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一
三二三五	一	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一	一	一	二五五,〇二七	二九〇,九二七	三三	一

計 一、起債額短期公債大正十四年度ノ欄内括弧内ノ数字ハ大正十二年度及大正十三年度起債短期公債額ヲ示ス
 二、長期公債募集ノ年ハ一ヶ月分ノ利子額ヲ計上セリ
 三、短期公債起債ノ年ハ利率年八分ニテ一ヶ月分ノ利子額ヲ計上セリ
 四、當該年度ノ收入欄ハ長期公債ノ償還財源及公債ニ關スル收支計算表ニ掲ケタル家屋稅給水料國庫補助金及蓄積金組入ヲ計上シ割書左傍ニ記載セル金額ハ短期公債ノ償還ニ充當スル短期及長期公債ノ收入金ヲ示ス
 五、補充支出ニハ給水料其他ノ收入ヲ充ツルモノトス

(參照ノ二)

公債ニ關スル收支計算表

種別	公債ニ關スル收支計算表			
	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度
家屋稅	1,500,000.000	1,200,000.000	1,600,000.000	1,200,000.000
國庫補助金	1,000,000.000	1,000,000.000	1,000,000.000	1,000,000.000
特別負擔金	1,000,000.000	1,000,000.000	1,000,000.000	1,000,000.000
利子收入	10,721,220.000	10,721,220.000	11,201,200.000	13,714,000.000
水道費蓄積金繰入	550,091.000	1,000,000.000	1,000,000.000	550,091.000
計	3,050,091.000	3,121,220.000	3,601,200.000	3,754,291.000

種別	公債ニ關スル收支計算表			
	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度
公債費一時繰入	65,667.550	1,177,000.000	1,000,000.000	65,667.550
短期公債	1,760,000.000	1,000,000.000	3,187,710.000	3,187,710.000
長期公債	1,760,000.000	1,000,000.000	1,667,000.000	1,760,000.000
蓄積金繰入	1,531,785.550	1,953,292.550	1,977,000.000	3,590,377.100
計	5,717,453.100	5,130,292.550	5,644,000.000	8,382,754.150

種別	公債ニ關スル收支計算表			
	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度
短期公債利子	3,879,700.000	1,359,600.000	2,211,600.000	3,799,700.180
長期公債利子	3,621,720.000	1,058,000.000	1,918,600.000	1,918,600.000
繰替金利子	3,621,720.000	10,580,000.000	10,580,000.000	5,000,911.000
水道蓄積金繰戻	65,667.550	65,667.550	65,667.550	65,667.550
公債費繰戻	1,342,176.550	1,010,318.710	1,041,881.810	2,714,500.000
下水道事業費ニ組替	1,342,176.550	1,010,318.710	1,041,881.810	3,404,290.880
公債償還財源ニ繰越	1,798,855.000	1,798,855.000	1,798,855.000	2,744,500.000
特別負擔金精算還付金	1,798,855.000	1,798,855.000	1,798,855.000	1,798,855.000
蓄積金蓄積	1,798,855.000	1,798,855.000	1,798,855.000	1,798,855.000
計	18,710,000.000	18,710,000.000	18,710,000.000	18,710,000.000

公債費蓄積金繰戻

計 1,533,000.00 1,494,977.00 1,144,945.90 3,833,485.90 2,333,421.100

九〇

(参照ノ三)

第二回下水道改良事業費收支決算

種別	大正十一年度		大正十二年度		大正十三年度		計
	收	入	收	入	收	入	
公債組入金	1,342,165.00		1,010,218.70		1,044,818.10		3,400,201.80
特別負擔金			48,396.30		117,492.80		575,831.40
不用品賣却代	1,956.60		2,616.90		3,688.80		8,301.40
家屋税	9,466.90		3,007.90		1,947.70		14,422.50
雑収入	1,208.00		9,484.75		3,495.10		14,187.85
計	1,355,796.50		1,488,657.30		1,176,559.90		4,020,913.70
種別	大正十一年度		大正十二年度		大正十三年度		計
事業費	1,355,796.50		1,488,657.30		1,176,559.90		

右議決により大正十四年十月十三日内務大藏兩大臣に條例改正の許可を稟請したるに當局に於て審議の上大正十五年二月十八日左の通り更正許可せられたり。

内務省一四 阪地第一三四號

大阪府 大阪市

大正十四年十月十三日庶甲第一四一二號稟請第三回下水道公債條例中改正條例ノ件左ノ通更正シ許可ス

大正十五年二月十八日

内務大臣 若槻禮次郎
大藏大臣 濱口雄幸

記

第一條第一項中「大正十三年度迄」ヲ「大正十四年度迄」ニ「三百八十八萬八千圓」ヲ「三百八十八萬七千七百十圓」ニ更ム

第一條第二項中「四百三十二萬圓」ヲ「三百五十四萬一千九百圓」ニ更ム

第八條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ大正十四年度ニ於テ起ス短期公債ニ付テハ第三項ノ規定ニ依ルモノトス

第八條ニ左ノ末項ヲ加フ

第一項ノ短期公債ノ償還ニ際シ市場ノ狀況其ノ他ノ事由ニ因リ長期公債ノ募集又ハ引受ヲナサシムルコト困難ナリト認ムルト

キハ更ニ大正二十三年度迄ニ償還スヘキ利率年八分以内ノ短期公債ヲ起スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項及第十條ノ規定ヲ準

用ス

第九條中「大正十五年度迄」ヲ「大正二十三年度迄」ニ更ム別表第三回下水道公債償還年次表ノ通り更ム

前述の如く條例改正の許可を得たるを以つて長期債を發行し短期債の償還を爲すべき意圖なりしも、財界の狀勢は長期債募債に不利なりしかば暫く時期を見ることとし、超へて昭和二年に至り漸く其の時期に到來したるにより第一

回下水道短期公債及び第三、第四回下水道短期公債を合併し第五回下水道公債として長期債発行の計畫を樹立し、四月三十日左記の通り市會に提案し五月六日其の議決を経、八月十七日内務大臣に稟請し十月五日末尾記載の如く更正許可を得、昭和二年十一月二十八日長期債額面六百三十萬四千二百圓、手取額六百九萬七千四百二十二圓二十四錢を收入し豫定の如く短期債を償還せり。

議案第百五十一號

大阪市第五回下水道公債條例制定ノ件

大阪市第五回下水道公債條例左ノ通相定ムルモノトス

昭和二年四月 日提出

大阪市條例第 號

大阪市長 關

大阪市第五回下水道公債條例

- 第一條 本公債ハ本市下水道改良費ニ充當シタル公債償還ノ經費ニ充ツル爲昭和二年度ヨリ同九年度迄ノ間ニ於テ手取金額六百九萬八千四拾圓以内ヲ一回若ハ數回ニ募集スルモノトス
- 前項公債ノ發行額ハ額面金額六百七拾七萬五千六百圓ヲ超過スルコトヲ得ス
- 簡易生命保險金積立金其ノ他ノ借入ヲ以テ第一項ノ公債募集ニ代フルコトヲ得
- 第二條 本公債ノ利率ハ一ヶ年ニ付證券額面金額ノ百分ノ六、五以内トス
- 第三條 本公債ノ募集ハ特ニ指定シタル銀行又ハ相當ノ資格アルモノヲシテ之ヲ引受ケシムルコトヲ得
- 第四條 本公債ノ元金及利子ハ電氣事業利益金、給水料、國庫補助金及家屋稅ヲ以テ之ヲ支拂フ但シ他ノ資金ヲ以テ支拂フコトヲ妨ケス

第五條 本公債ノ利子ハ毎年二回ニ分チ各其ノ前六ヶ月分ヲ支拂フ但シ六ヶ月ニ滿タサル期間ニ對シテハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス償還ノ期日ヲ定メテ公告シタル公債ノ元金ニハ該期日以後ノ利子ヲ附セス

第六條 本公債ノ元金ハ昭和三年度ヨリ同二十五年度迄ニ別表ノ通抽籤ノ方法ヲ以テ毎年度其ノ一部ヲ償還ス但シ買入鎖却ヲ爲スコトアルヘシ

第七條 市場ノ狀況其ノ他ノ事由ニ因リ必要アルトキハ昭和八年度迄ニ償還スヘキ利率年八分以内ノ短期公債ヲ起シ一時本公債ノ募集ニ代フルコトアルヘシ

前項ニ依リ起債シタル短期公債ノ元金ハ本公債條例ニ依リ募集シタル募集金ヲ以テ之ヲ償還シ利子ハ電氣事業利益金、給水料、國庫補助金及家屋稅ヲ以テ支拂フモノトス但シ他ノ收入ヲ以テ之ニ代ヘ又ハ補充スルコトヲ妨ケス

第八條 本公債ノ發行價格、元利支拂方法其ノ他必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第九條 下水道短期公債、第三回下水道短期公債及第四回下水道短期公債借換償還ノ爲公債募集ノ要アリ是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

(別表)

大阪市第五回下水道公債償還年次表

年度	收				支		差引 殘額
	電氣事業 利益金	給水料	國庫補助金	家屋稅	元金	利子	
昭和	六,七五五,〇〇〇	一,五六一,五九九	一	三,三六六	一	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
二	六,七五五,〇〇〇	一,五六一,五九九	一	三,三六六	一	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
三	六,七五五,〇〇〇	一,五六一,五九九	一	三,三六六	一	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇

七	五、九七六、一〇〇	五、五六一、七六	三、三三三、七	四、一六六、五	五、九四一、八八	五、九三三	五、九三三
計	五、九七六、一〇〇	六、〇九八、〇四〇	八、九三三、五九三	六、〇九八、〇四〇	三、三三三、七	三、〇三八、六四六	九、一七九、〇五八
備考							二、四七四、六五
							二、四七四、六五

一、長期公債ノ利率ハ年六分五厘ニテ募集ノ年ニ於ケル利子額ハ一ヶ月分、短期公債ハ年八分ニテ其ノ起債ノ年ニ於ケル利子額ハ六ヶ月分ヲ計上セリ

二、「當該年度收入」欄ニハ長期公債ノ償還財源タル給水料、國庫補助金、家屋税ヲ計上シ割書左傍ニ記載セル金額ハ長期公債ノ收入金ヲ示シタルモノナリ

三、補充支出ニハ給水料其ノ他ノ收入ヲ充ツルモノトス

(参照ノ二)

短期公債ニ關スル調

種別	現在債額	區分	利率	償還終期	現金償還額	借換償還額
下水道短期公債	四〇七、〇〇〇 円	證券發行	七・五分	昭和二年度末迄	一一、六〇〇 円	三九五、八〇〇 円
第三回下水道短期公債	一、七五四、〇〇〇	銀行借入	七・〇	昭和九年度末迄	六四、七〇〇	三、〇六九、七〇〇
同	一、〇〇〇、〇〇〇	銀行借入	六・七五	昭和七年度末迄	一九、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇
第四回下水道短期公債	一、四〇〇、〇〇〇	銀行借入	七・〇	昭和七年度末迄	一九、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇
同	一、〇〇〇、〇〇〇	銀行借入	六・七五	昭和七年度末迄	一九、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇
計	六、一三三、〇〇〇				九五、四〇〇	六、〇九八、〇四〇

内務省阪地第一〇七號

大阪府 大阪市

昭和二年五月十七日庶甲第七六一號稟請起債並第五回下水道公債條例ノ件左ノ通更正シ許可ス

昭和二年十月五日

内務大臣 鈴木喜三郎
大藏大臣 三土忠造

記

第一條第一項中「昭和二年度ヨリ同九年度迄ノ間」ヲ「昭和二年度」ニ「六百九萬八千四拾圓」ヲ「六百九萬七千五百圓」ニ「六百七拾七萬五千圓」ヲ「六百七拾七萬五千圓」ニ改ム

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ「第八條」ヲ「第九條」ニ改ム第八條前條短期公債償還ノ爲本公債ヲ募集スル場合ニハ第一條ノ募集期間ヲ昭和八年度迄トス

地第三八六一號

昭和二年十月十日

大阪府 内務部長

大阪市長 殿

第五回下水道公債條例ニ付通牒

標記ノ件別紙ノ通更正許可相成候處左記事項相當措置相成度

記

一、條例第七條ノ短期公債償還ノ爲起ス長期公債募集ノ期間ヲ第一條ニ規定セルハ妥當ナラサルヲ以テ之カ規定ヲ別ニ一ヶ條追加ノコトニ更正セラレタルコト

一、手取金額ニ於ケル端數四拾圓ヲ切捨ツル爲起債金額ヲ減額セラレタル儀ニ付他ニ之ガ補充財源ヲ求ムルコト

一、本件長期公債募集ノ時期ハ別ニ承認ヲ請フノ要無之ニ依リ報告ニ止メ而シテ第七條ニ依ル短期公債ヲ起ス場合ハ豫メ之カ承認ヲ請フコト

一、更正許可ニ基ク償還年次表更正議決ノ上報告スルコト

以上

議案第二百八十二號

大阪市第五回下水道公債條例別表改正ノ件

昭和二年五月六日市會議決議案第百五十一號大阪市第五回下水道公債條例ノ別表ヲ別紙ノ通改正スルモノトス

昭和二年十月 日提出

大阪市長 關

一

說明

本市第五回下水道公債條例ハ第一條中「昭和二年度ヨリ同九年度迄ノ間」ヲ「昭和二年度」ニ「六百九萬八千四拾圓」ヲ「六百九萬七千五百圓」ニ「六百七拾七萬五千六百圓」ヲ「六百七拾七萬五千圓」ニ第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ

第八條 前條短期公債償還ノ爲本公債ヲ募集スル場合ニハ第一條ノ募集期間ヲ昭和八年度迄トス

「第八條」ヲ「第九條」ニ各更正ノ上許可セラレ尙償還年次表ハ更正議決ノ上報告スヘキ旨ノ指令アリタルニ依リ別表ヲ改正スルノ要アリ是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

別表

大阪市第五回下水道公債償還年次表

年次	年度	收			支			差引
		電氣事業 利益金	給水料	補助金	家屋稅	元金	利子	
一	一	六,七五〇,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
二	二	六,七五〇,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
三	三	六,六六三,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
四	四	六,五五四,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
五	五	六,四六六,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
六	六	六,三七八,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
七	七	六,三〇〇,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
八	八	六,二一二,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
九	九	六,一三四,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
一〇	一〇	六,〇五六,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
一一	一一	五,九七八,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
一二	一二	五,九〇〇,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
一三	一三	五,八一二,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
一四	一四	五,七三四,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八
一五	一五	五,六五六,〇〇〇	一五,六五九	一	六三,六五六	二二〇,一〇七	一	三〇,一八八

備考	計	起債額		収入		支出		計	差引不足額	補充支出
		長期公債	短期公債	當該年度	元	長期公債	短期公債			
一五	一六	四、一八六、七〇〇	七、四、四九	三、六、三三三	九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	六、七〇,〇〇〇	二、七、一三	六、七〇,〇〇〇
一六	一七	三、七六八、二〇〇	二、六、一三三	三、六、三三三	一〇〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	七、三三、三三	二、四、三三	七、三三、三三
一七	一八	三、三〇一、一〇〇	一	三、六、三三三	二五〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	七、五八、三三	三、四、三三	七、五八、三三
一八	一九	二、七〇〇,〇〇〇	一	三、三、〇〇〇	二七〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	七、九三、〇〇	一、七、〇〇	七、九三、〇〇
一九	二〇	二、一四七、〇〇〇	一	三、三、〇〇〇	二七〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	七、九三、〇〇	一、七、〇〇	七、九三、〇〇
二〇	二一	一、四九三、六〇〇	一	三、五、五三七	一、四、〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	五、八、五三七	九、七、〇〇	五、八、五三七
二一	二二	一、〇〇一、四〇〇	一	三、三、〇〇〇	一、〇〇,〇〇〇	一	一	三、三、〇〇〇	三、三、〇〇〇	三、三、〇〇〇
二二	二三	七、四、五〇〇	一	三、三、〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一	一	三、三、〇〇〇	三、三、〇〇〇	三、三、〇〇〇
二三	二四	四、九、〇〇〇	一	五、〇、〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一	一	一、五、〇、〇〇〇	二、九、〇、〇〇〇	一、五、〇、〇〇〇
二四	二五	三、八、六〇〇	一	三、六、五九九	三、六、一、一〇〇	一	一	三、四、九、八五九	三、八、五九九	三、四、九、八五九
計		二四九、四三九	七、七、四、四九五	二、九、三、三〇〇	三、六、七、三、六五八	二、三、二、一、〇、〇〇〇	六、七、七、七、〇〇〇	六、四、八、五、〇〇〇	三、三、三、三、三	三、三、三、三、三

備考
 一、募集ノ初年ハ六ヶ月分ノ利子額ヲ計上セリ
 二、利率ハ年六分五厘トシテ計算セリ
 三、發行價格ハ額面百圓ニ付九拾圓トシテ計算セリ

(参照ノ一)

第五回下水道短期公債起債期間中償還年次表

年次年度	起債額		収入		支出		計	差引不足額	補充支出
	長期公債	短期公債	當該年度	元	長期公債	短期公債			
一	一	六、〇、七、五〇〇	三、一、〇、一〇〇	一	一	一	二、四、三、九〇〇	三、六、九三	三、六、九三
二	二	一	五、五、二、四〇六	一〇七、一〇〇	一	一	四、七、八〇〇	三、六、一、九四	三、六、一、九四
三	三	一	五、五、二、四〇六	一〇七、一〇〇	一	一	四、七、八〇〇	三、六、一、九四	三、六、一、九四
四	四	一	五、五、二、四〇六	一〇七、一〇〇	一	一	四、七、八〇〇	三、六、一、九四	三、六、一、九四
五	五	一	五、五、二、四〇六	一〇七、一〇〇	一	一	四、七、八〇〇	三、六、一、九四	三、六、一、九四
六	六	一	五、五、二、四〇六	一〇七、一〇〇	一	一	四、七、八〇〇	三、六、一、九四	三、六、一、九四
七	七	一	五、五、二、四〇六	一〇七、一〇〇	一	一	四、七、八〇〇	三、六、一、九四	三、六、一、九四
八	八	一	五、五、二、四〇六	一〇七、一〇〇	一	一	四、七、八〇〇	三、六、一、九四	三、六、一、九四
計		五、九、七、五、一〇〇	六、〇、七、七、〇〇〇	八、七、一、〇、〇〇〇	六、〇、七、七、〇〇〇	三、三、三、三、三	三、三、三、三、三	二、四、七、五、六三	二、四、七、五、六三

備考
 一、長期公債ノ利率ハ年六分五厘ニテ募集ノ年ニ於ケル利子ハ一ヶ月分短期公債ハ年八分ニテ其ノ起債ノ年ニ於ケル利子額ハ六ヶ月分ヲ計上セリ
 二、「當該年度収入」欄ニハ長期公債ノ償還財源タル給水料、國庫補助金、家屋税ヲ計上シ割書左傍ニ記載セル金額ハ長期公債ノ収入金ヲ示シタルモノナリ
 三、補充支出ニハ給水料其ノ他ノ収入ヲ充ツルモノトス

第四節 豫算及決算

第二回下水道改良費は大正十一年度より同十三年度迄の繼續事業としたるを以つて茲に繼續年及支出方法を掲げ各年度豫算は之を省略せり。

一 豫算

議案第二百七十七號(大正十年十二月二十三日)

自大正十一年度 大阪府大阪市第二回下水道改良費繼續年及支出方法
至同十三年度 大阪府大阪市第二回下水道改良費繼續年及支出方法
一金 四百六拾萬圓

内 譯

金 百八拾五萬圓 大正十一年度支出額
金 百八拾五萬圓 同 十二年度支出額
金 九拾萬圓 同 十三年度支出額

右前記ノ繼續年及支出方法ニヨリ西野田、市岡及泉尾三軒家各幹枝線、市岡及小林各抽水所並既設西野田、上福島、北野、櫻川、難波及西濱各抽水所唧筒増設築造工事ノ費用ニ充當スルモノトス

大正十年十一月十九日提出

大阪市長 池上 四郎

市參事會ノ意見
原案ニ異議ナキモノトス

大阪府大阪市繼續費下水道改良費收支計算表

科 目	收 入			種 目	附 記
	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度		
一組 入 金	一、四〇一、四九七 円	一、七四〇、〇四八 円	七七一、四六一 円	三、八八八、〇〇〇 円	事業資金組入
一組 公債費ヨリ 入	一、四〇一、四九七 円	一、七四〇、〇四八 円	七七一、四六一 円	三、八八八、〇〇〇 円	事業資金組入
二特別賦課金	四六六、五〇九	一三三、九五三	一三三、七九一	七〇四、二五二	
一特別賦課金	四六六、五〇九	一三三、九五三	一三三、七九一	七〇四、二五二	下水道改良費特別賦課金 七〇四、二五二
三財産賣却代	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、三七七 円	四、三七七 円	不用品賣却代 四、三七七 円
一物品賣却代	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、三七七 円	四、三七七 円	
四雜 收 入	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、三七七 円	四、三七七 円	雜 收
一雜 入	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、三七七 円	四、三七七 円	
一組 資 金 ト シ テ 入	三、八八八、〇〇〇	三、八八八、〇〇〇	三、八八八、〇〇〇	三、八八八、〇〇〇	事業資金組入
一 下 改 良 水 道 特 別 賦 課 金	七〇四、二五二	七〇四、二五二	七〇四、二五二	七〇四、二五二	下水道改良費特別賦課金
一 不 用 品 賣 却 代	四、三七七	四、三七七	四、三七七	四、三七七	不用品賣却代
一 雜 收	四、三七七	四、三七七	四、三七七	四、三七七	雜 收

合計 1,850,000 1,850,000 200,000 4,800,000

科目 支出 種目 金額 附記

一事務費 一給料 185,150 153,550 75,750 433,427
 11年度 12年度 13年度 計

一主事給 9,000 年平均 1,800圓
 二技師給 29,375 同 2,550圓
 三書記給 27,000 月平均 2,250圓
 四技師給 69,000 同 2,950圓
 五雇員給 92,300 雇日平均 1,900圓
 六給仕使丁給 7,750 給仕同 70錢
 七雜役給 7,673 使丁同 93日
 一囑託報酬 5,000 年2,000圓 一人2ヶ年半
 延4,350人

二雜給 33,650 33,650 2,800 59,150

二旅費 3,000 平均 150圓 20回
 三傷病手当 2,400 平均 48圓 5回
 四一時給與金 4,000 平均 200圓 20人
 五賞與 49,980 雇員以上 28,200圓
 給仕使丁 6,500圓
 特別賞與 18,000圓

三需用費 14,000 14,000 11,670 46,070
 一備品費 13,000 器具機繕 500圓
 二消耗品費 1,933 筆紙墨 8,500圓
 薪炭品 7,500圓
 雜品 3,333圓
 三印刷費 1,700 印刷 1,700圓
 四通信費 1,960 普通電話使用料 1,400圓
 電話各種料 1,500圓
 郵便電信料 500圓
 五運送費 1,826 運送費 1,826圓
 六電氣瓦斯費 633 電燈 633圓
 七廣告費 1,500 平均 20圓 75回
 八被服費 4,250 購入被服代 3,400圓
 靴代料 800圓
 九賄費 1,750 使丁宿直賄 1,600圓
 臨時賄 150圓

四建物費 48,000 15,000 3,500 67,000 105

二 工事費

一 工場費 1,544,700 1,201,000 742,241 3,948,421

一 修築費 40,600
事務所倉庫其他 35,400
修繕 5,100
出張所敷地及材料置場 26,400

一 備品費

5,970

セメント試験用具 3,500
撒水用具 1,500
其他諸品 400
修繕 500

二 消耗品費

1,400

セメント試験用具 200
木炭 900
其他諸品 300

二 築造費 1,040,000 1,545,336 701,336 3,286,737

一 西野田幹枝

275,471

雜工費 267,530
雜工費 7,937

二 市岡幹枝

843,485

雜工費 833,642
雜工費 19,843

三 市岡抽水所

305,147

雜工費 297,210
雜工費 7,937

四 泉尾三軒

1,190,544

雜工費 1,164,370
雜工費 26,174

五 小林抽水所

488,998

雜工費 401,060
雜工費 7,937

六 西野田抽水所

44,481

雜工費 43,100
雜工費 1,381

三 雜支出

1,000 1,000 1,000 3,000

一 附帶工事費

73,627

構作物保護 12,600
同移轉及修繕 25,900
給水栓假設 2,290
電力損害賠償 19,870
家屋損害賠償 10,000
各抽水所架線費 3,900

二 器具機械費

29,150

土工用具 23,500
排水用具 5,400
修繕 1,250

一 用地費

561,547

用地買收及地上物件移轉料 561,547

三 器具機械費

210,310

三器具機械費 210,310

四 用地費

465,600

五、六、八〇 四〇、二七 五六、五四七

五 附帶工事費

24,647

一八、二六六 七三、六二七

一 上福島抽水

70,440

雜工費 66,470
雜工費 3,970

七 北野抽水

40,311

雜工費 37,940
雜工費 2,371

八 櫻川抽水

5,677

雜工費 4,320
雜工費 1,357

九 難波抽水

76,466

雜工費 72,497
雜工費 3,969

十 西濱抽水

14,447

雜工費 12,860
雜工費 1,587

十一 器具機械費

29,150

土工用具 23,500
排水用具 5,400
修繕 1,250

一 用地費

561,547

用地買收及地上物件移轉料 561,547

二 器具機械費

210,310

三器具機械費 210,310

三 用地費

465,600

五、六、八〇 四〇、二七 五六、五四七

四 附帶工事費

24,647

一八、二六六 七三、六二七

一 上福島抽水

70,440

雜工費 66,470
雜工費 3,970

七 北野抽水

40,311

雜工費 37,940
雜工費 2,371

八 櫻川抽水

5,677

雜工費 4,320
雜工費 1,357

九 難波抽水

76,466

雜工費 72,497
雜工費 3,969

十 西濱抽水

14,447

雜工費 12,860
雜工費 1,587

十一 器具機械費

29,150

土工用具 23,500
排水用具 5,400
修繕 1,250

一 用地費

561,547

用地買收及地上物件移轉料 561,547

二 器具機械費

210,310

三器具機械費 210,310

三 用地費

465,600

五、六、八〇 四〇、二七 五六、五四七

四 附帶工事費

24,647

一八、二六六 七三、六二七

一 上福島抽水

70,440

雜工費 66,470
雜工費 3,970

七 北野抽水

40,311

雜工費 37,940
雜工費 2,371

議案第二百四十九號參考書

下水道改良費歲出年度割表

款	豫算科目	種目	大正十一年度			大正十二年度			大正十三年度			
			計	出	雜	計	出	雜	計	出	雜	
一	事務費	給料	一 主事給	185,199	132,559	75,799	185,199	132,559	75,799	185,199	132,559	75,799
			二 技師給	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
			三 書記給	11,540	11,540	11,540	11,540	11,540	11,540	11,540	11,540	11,540
			四 技手給	10,200	10,200	10,200	10,200	10,200	10,200	10,200	10,200	10,200
			合計	210,939	167,299	100,539	210,939	167,299	100,539	210,939	167,299	100,539
四	豫備費		一 豫備費	79,000	79,000	79,000	79,000	79,000	79,000	79,000	79,000	79,000
			合計	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000
			合計	1,360,939	1,317,299	1,100,539	1,360,939	1,317,299	1,100,539	1,360,939	1,317,299	1,100,539

一〇八

款	豫算科目	種目	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度
一	需用費	一 備品費	1,100	1,100	1,100
		二 消耗品費	3,333	11,111	6,030
		三 印刷費	500	500	1,000
		四 通信費	700	700	3,900
		五 運送費	300	300	1,900
		六 電氣瓦斯費	350	350	3,000
		七 廣告費	300	300	1,000
		八 被服費	1,900	1,900	1,000
		九 賄費	700	700	1,000
		合計	10,900	36,260	20,000
二	雜給	一 囑託報酬	1,000	1,000	1,000
		二 旅費	1,100	1,100	1,100
		三 傷病手当費	200	200	200
		四 一時給與金	1,000	1,000	1,000
		五 賞與	18,700	18,700	18,700
		合計	23,000	23,000	23,000
三	需用費		10,900	36,260	20,000
		合計	34,900	69,260	43,000

一〇九

四 建物費

一 修築費
二 借入費

四八,010

一五,800

110

三,五六〇

一,一八〇

二,四〇〇

二六,〇〇〇

六七,〇〇〇

二 工事費

一 工場費

一 備品費
二 消耗品費

一,五八四,七六〇

一,六〇二,四〇〇

七六一,三三一

三,九四八,四三一

二 築造費

一 西野田幹枝線
二 市岡幹枝線
三 市岡抽水費
四 泉尾三軒家幹枝線
五 小林抽水費
六 西野田抽水所
七 上福島抽水所
八 北野抽水所

一,〇二〇,〇六三

一,五〇五,三三六

七〇一,三三八

三,二七六,七七

一三七,七三六

一三七,七三五

〇

二七五,四七一

二二九,九四〇

二七八,〇〇七

三四五,五三八

八四三,四八五

九九,七九九

二〇五,三四八

〇

三〇五,一四七

二三五,三六四

五九九,四〇〇

三五五,八〇〇

一,一〇〇,五六四

一三〇,〇六九

二七八,九三九

〇

四〇八,九九八

四五一,四八一

〇

〇

四五一,四八一

七〇,〇〇〇

〇

〇

七〇,〇〇〇

四三〇,三三一

〇

〇

四三〇,三三一

九 櫻川抽水所
十 難波抽水所
十一 西濱抽水所
十二 西濱抽水所

〇

五,九七七

〇

五,九七七

三 器具機械費

一 器具機械費

二〇,三五〇

七,七五〇

一,〇五〇

二九,一五〇

四 用地費

一 用地費

四六五,六〇〇

五五,六八〇

四〇,二六七

五六,一五四

五 附帶工事費

一 附帶工事費

二四,六四七

三〇,六九四

一八,二八六

七三,六二七

一 過年度支出

一 追拂金

〇

一〇〇

一〇〇

〇

二 雜出

一 退職金
二 死亡及下
三 雜費

一,〇〇〇

八〇〇

二〇〇

二,〇〇〇

四 豫備費

一 雜費

七,〇九一

九四,〇六一

一,〇一〇

一〇,〇〇〇

三 雜支出

111

二 決 算

第二回下水道改良費決算

款項	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	計
一 組 入 金	一、三三三、一七八・五	一、〇〇〇、三八七・三	一、〇四一、八八一・八	三、四〇四、七九六・六
一 公 債 費 ヨリ 組 入	一、三三三、一七八・五	一、〇〇〇、三八七・三	一、〇四一、八八一・八	三、四〇四、七九六・六
二 特 別 賦 課 金	1	四四八、三九六・三	二二七、四九・〇	五七五、八三三・三
一 特 別 賦 課 金	1	四四八、三九六・三	二二七、四九・〇	五七五、八三三・三
三 財 産 賣 却 代	一、九五六・六	二、六六・九二	三、六八八・八二	八、三〇一・四二
一 物 品 賣 却 代	一、九五六・六	二、六六・九二	三、六八八・八二	八、三〇一・四二
四 雜 收 入	一、九〇八・〇三	九、四四七・五	三、四九五・二	一四、八八七・九〇
一 雜 入	一、九〇八・〇三	九、四四七・五	三、四九五・二	一四、八八七・九〇
五 都 市 計 畫 特 別 稅	九、四六六・七	三、〇〇七・九	一、九九四・七三	一四、四六九・六一
一 家 屋 稅	九、四六六・七	三、〇〇七・九	一、九九四・七三	一四、四六九・六一
合 計	一、三五五、四九三・三	一、四八三、六五七・九三	一、二七八、五三三・八	四、〇七二、七六〇・四四

一 豫 備 費

合 計	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	四、四〇〇、〇〇〇
-----	-----------	-----------	---------	-----------

支 出

科目	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	計
一 事 務 費	九四、七八〇・四九	一四〇、六〇〇・四三	一三七、三〇五・六一	三七二、七〇六・五〇
一 給 料	三、七八三・二〇	八二、〇八四・三九	七六、四八九・九五	一九〇、三五六・五四
一 主 事 給	1	一、八三三・三〇	一、九八三・二六	三、八一六・五六
二 技 師 給	六、六六八・三六	一九、一六六・四六	一三、四三三・二三	三九、二六七・〇四
三 書 記 給	六、三五五・九	一三、二五・九四	一六、六三三・〇〇	三六、〇二四・八三
四 技 手 給	一、四八八・四	三、三三二・四八	三〇、五八一・四五	七五、三五六・八三
五 雇 員 給	五、五八・三〇	一〇、六六八・二〇	七、三九八・八三	二三、六四三・三三
六 給 仕 使 丁 給	一、〇五一・二八	三、五九八・二〇	三、五九六・七七	八、二〇六・二五
七 雜 役 給	九、九〇・八九	二、三九八・八一	二、八六一・四三	六、〇〇八・一一
二 雜 給	八、七六三・九二	二五、六八五・〇五	三三、二七〇・七七	六五、七一九・三四
一 囑 託 報 酬	一、一五〇・〇〇	一、九九九・二〇	一、六六六・六〇	四、九一五・八〇
二 旅 病 手 當 費	一、三三・二二	一、六二七・一三	一、一三三・六七	四、〇九三・五二
三 傷 病 手 當 費	1	1	1	3
四 一 時 給 與 金	1	1, 九九二・五〇	1, 三三七・〇〇	三, 三二二・五〇
五 賞 與 金	六、一八六・八〇	二、〇〇六・五〇	二、七四一・六〇	一〇, 九三四・九〇
三 需 用 費	九、七七五・八三	一三、一八七・九三	一三、七九八・八三	三六, 七六二・五九

一 備品	費	3,004.33	1,331.16	1,110.94	5,358.43
二 消耗品	費	3,496.18	4,599.12	4,152.08	12,347.38
三 印刷費	費	179.36	2,004.16	2,896.95	5,082.47
四 通信費	費	9,466.89	4,053.22	3,062.75	16,582.86
五 運送費	費	7,000.00	1,599.53	1,633.01	10,232.54
六 電氣瓦斯費	費	71.92	699.75	101.70	873.37
七 廣告費	費	1,346.85	388.39	458.80	2,194.04
八 被服費	費	140.10	731.00	830.20	1,701.30
九 賄賂費	費	341.10	19,633.05	16,746.66	36,710.81
四 建物	費	45,157.52	1,674,305	1,674,305	3,803,767
一 修築費	費	3,475.33	4,599.01	3,175.04	11,249.38
二 借入費	費	10,050.10	15,100.04	13,551.43	38,701.57
二 工 事 費	費	1,120,743.77	1,380,667.01	1,040,005.06	3,541,415.84
一 工場費	費	609.09	271.35	1,645.36	2,525.80
一 備品費	費	508.54	74.80	1,043.36	1,526.70
二 消耗品費	費	100.55	195.55	601.00	897.10
二 築造費	費	882,747.39	1,180,675.22	998,681.14	3,162,103.75
一 西野田幹枝線築造費	費	171,400.53	499,127.27	358,892.84	1,029,420.64
二 市岡幹枝線築造費	費	178,133.87	282,447.41	284,430.85	745,012.13

三 市岡抽水所築造費	費	90,943.22	173,834.56	140,784.59	405,562.37
四 泉尾三軒家幹枝線築造費	費	239,460.06	395,723.84	400,275.22	1,035,459.11
五 小林抽水所築造費	費	92,370.44	199,284.08	40,943.48	332,598.00
六 西野田抽水所唧筒增設築造費	費	8,296.86	28,498.25	43,547	37,230.48
七 上福島抽水所唧筒增設築造費	費	35,688.92	37,595.77	85,197	74,136.55
八 北野抽水所唧筒增設築造費	費	3,749.75	33,088.53	8,431.97	45,260.25
九 櫻川抽水所唧筒增設築造費	費	56,877.03	10,377.62	1,011.77	11,388.99
十 難波抽水所唧筒增設築造費	費	5,807.55	50,678.88	1,272.34	108,867.24
十一 西濱抽水所唧筒增設築造費	費	1	19,932.10	571.40	26,300.31
十二 今宮抽水所唧筒增設築造費	費	1	1	12,156.29	12,156.29
十三 境川抽水所唧筒增設築造費	費	1	1	6,610.36	6,610.36
三 器具機械費	費	28,377.52	10,292.76	4,389.33	43,059.61
一 器具機械費	費	28,377.52	10,292.76	4,389.33	43,059.61
四 用地費	費	336,081.58	27,922.27	23,643.59	386,647.44
一 用地費	費	336,081.58	27,922.27	23,643.59	386,647.44
五 附帶工事費	費	12,297.59	33,764.43	12,645.74	47,707.75
二 附帶工事費	費	12,297.59	33,764.43	12,645.74	47,707.75
三 雜支	費	151.9	11,707.50	1,442.61	13,882.01
一 過年度支出	費	1	87.50	152.9	240.41

備考	合	一 追	二 還	二 雜	一 雇員以下退職及死亡給與金	二 雜	四 豫	一 豫	合
		拂	付	出			備	備	計
		金	金				費	費	
	一、三五、五四九・二三	〇・五	八七・〇五	二五・一九	一、〇八三・〇〇	二五・一九	一、〇五四・〇〇	一、〇五四・〇〇	一、四一、六六七・九三
			五二・九一	七九・七〇	三三〇・〇〇		三七九・七〇	三七九・七〇	一、一七、五五三・三八
			五九九・六六	二、八三七・八九	一、三七九・〇〇		一、四五六・八九	一、四五六・八九	四、〇一七、七〇四・四四
		一一六							
		〇・五							

工事費、築造費、今宮及境川兩抽水所唧筒増設費ハ第二回計畫變更ニ件ヒ種目新設ニツキ大正十三年度議案第二二三號ヲ以テ市會ノ議決ヲ經、工事費用地費豫算ヨリ流用充當シタルモノナリ

第三章 大阪都市計畫第二期下水道事業

第一節 工事計畫

一 都市計畫事業としての手續

第一期都市計畫事業より除外されたる地域にして著しく發展したる四貫島春日出、善源寺東野田、西野田北部の三方面は、下水排除の状態最も悪く等閑に附し難き實情にありしを以つて、別紙計畫説明書の如く第二期都市計畫事業として工事施行の具體的方策を樹立せり。

緒言

大阪市ノ下水道ハ明治二十七年工事ニ着手シ同三十二年ヲ以テ本市中央部即チ舊市ニ屬スル殆ント全部ニ施行セルヲ初メトシ明治三十九年ヨリ全市ニ亘ル下水道改良計畫ノ調査ニ着手セシカ其ノ計畫確立スルト共ニ明治四十四年度ヨリ大正十一年度ニ至ル繼續事業トシテ國庫補助ヲ受ケ改良工事ヲ施行シ豫定ノ如ク大正十一年度ヲ以テ本市内周圍部ニ於ケル大部分ノ改良工事ヲ竣功セシメタリ 當時其ノ排水區域ヨリ除外セル殘餘ノ部分ニ於テ歐洲大戰以來其ノ發展著シク從來ノ耕作地ハ變シテ市街地トナリ人家軒ヲ櫛比スルニ至レルモ衛生施設ハ之レニ伴ハサルカ故ニ一朝惡疫ノ流行ヲ見シカ其ノ及フ所測ルヘカラスシテ一日モ現狀ニ委シ難キ状態ニアリシヲ以テ大正十一年度ニ至リ第一期都市計畫事業トシテ就中發展ノ度特ニ顯著ナル北區西野田、西區市岡町並ニ同區泉尾三軒家方面ノ改良工事ヲ起シ目下施行中ニ屬セリ 然レトモ殘餘ノ西區四貫島春日出方面、北區善源寺東野田方面及同區西野田

方面ノ如キハ其後益々發展シツ、アレトモ何レモ地勢平坦ナル低濕地ニシテ下水排除ノ途ナク衛生上不良ノ地域タルコト少シモ前者ニ劣ラス保健衛生上一日モ忽ニスヘカラサルモノアルヲ以テ之レヲ第二期都市計畫事業トシ今後三ヶ年間ノ繼續ヲ以テ其ノ改良工事ヲ完成セシメムトス

排水區域

一 四貫島春日出排水區 本排水區ハ正蓮寺川、六軒屋川及安治川ニ依リテ限ラレタル約百二十「ヘクタール」ノ地域トス 舊淀川下流ニ形勢サレタル寄洲ニシテ平坦ナル低地ナリト雖モ現今既ニ住宅地ヲ形成シ道路ノ區劃モ亦整然タルモノアルヲ以テ下水ノ幹枝線ハ主トシテ街路ニ配置スルモノトス而シテ幹線ハ四貫島町地内ヨリ西南ニ流下シ春日出町ニ入りテ既設電氣鐵道線路ヲ横斷シ恩貴島抽水所ニ達ス 抽水所ハ正蓮寺川ノ左岸恩貴島橋ノ下流ニ建設シ電動唧筒機械四臺ヲ設備シ正蓮寺川ニ汲揚排出スル計畫ニシテ其ノ排水容量ハ毎秒百二十八立方尺トス

二 善源寺東野田排水區 本排水區ハ舊淀川、鯉江川及榎並川ニヨリテ圍繞サレタル北區善源寺町、澤上江町、中野町、東野田及網島町ノ地域ニシテ其ノ面積約二百七十「ヘクタール」トス 本排水區ハ近來電氣鐵道ノ開通其他諸施設ノ計畫ニ伴ヒ急速ノ發展ヲ示シ殊ニ地勢低濕地ニ屬スルヲ以テ周圍河川ノ水位高キトキハ地域内ノ惡水路殆ト其ノ用ヲ爲サス下水排除ノ途ナキ狀況ナルヲ以テ此際道路ノ區劃ト共ニ下水道幹枝線ノ系統ヲ一定シ之ニ幹枝線ヲ敷設スルモノトス

本排水區ニ於テハ僅カニ一小部分淀川ニ自然放流ヲ爲スモノアリト雖モ大体ハ抽水所ニ依リ排流スルモノニシテ幹線ハ主シテ東南ノ方向ヲ取り舊淀川沿岸善源寺町地内ニ發シテ善源寺及澤上江町ノ境界水路ニ沿ヒ既設京阪電氣鐵道線路ヲ横斷シテ抽水所ニ至ルモノ及ヒ中野町地内ヨリ南流シ東野田町ニ入りテ東ニ向ヒ前記ノ幹線ニ合流スルモノトノ二線アリ

抽水所ハ東野田町七丁目ノ東南隅榎並川沿岸ニ建設シ榎並川及鯉江川ヲ連絡スル暗渠ヲ築造シテ鯉江川ニ排出スルモノトス 其設備トシテハ唧筒機械五臺ヲ据ヘ付クルモノニシテ排水容量毎秒二百立方尺トス

三 西野田排水區 本排水區ハ(イ)聖天川、阪神電氣鐵道線路及中津川ニ依リテ限ラレタル三角形地域ノ一部並ニ(ロ)北區西野

田新家西之町ノ一部ニシテ木津川及惡水路ニヨリテ境セラレタル二區域ヨリナル

(イ)排水面積ハ約二十六「ヘクタール」ニシテ幹枝線ハ主トシテ街路ニ配置シ幹線ハ略ホ西南ノ方向ヲ取り聖天川ヲ横斷シテ既設西野田抽水所ニ達セシム 而シテ同抽水所ニハ電動唧筒機械一臺ヲ増設シ其ノ排水量ヲ毎秒二十立方尺トス

(ロ)排水面積約四「ヘクタール」ニシテ其ノ地勢ハ平坦ナル低地ナリト雖モ區域狹小能ク自然放流ニ依リ排出シ得ルヲ以テ二條ノ枝線ヲ敷設シ何レモ木場川ニ排流セシムルモノトス

設計ノ要領

本計畫ハ目下實施中ノ計畫設計ニ準據セルモノニシテ其ノ概要ヲ掲クレハ左ノ如シ

一 下水排除ノ方式 各排水區共下水排除ノ方式ハ全然合流法ヲ採用シ汚水及雨水ヲ同一ノ下水管ニ導キ僅カニ一小部分ノ自然放流ヲ爲スノ外特設ノ抽水所ニ流集セシメ電動唧筒機械ニ依リ汲揚シ附近ノ河川ニ排出スルモノトス 蓋シ合流法ニ依ル所以ハ本計畫區域ハ地勢平坦ナル低地ニシテ周圍ノ河川ハ潮汐ノ影響ヲ受ケ自然放流ハ殆ント不可能ナルヲ以テ之レヲ分流式トナセハ汚水雨水各別ニ處置スルコトヲ要シ錯雜ヲ招クト共ニ不經濟ナルカ爲ナリトス

二 下水管渠ノ流量 下水管ノ内徑ヲ算定スルニ當リ先ツ決定スヘキモノハ其ノ流量即チ汚水量及雨水量ノ二トナス 汚水量ハ歐米都市ノ實例ニ鑑ミ極度人口ヲ千坪ニツキ二百人ト假定シ一人一日ノ汚水量ヲ七立方尺トス而シテ雨水量ハ大阪測候所ノ記錄ニ存スル一時間最大降雨量六十耗(約二、四吋)ヲ以テ標準トナセリ

三 下水管渠ノ形狀及構造 下水管ノ形狀及構造ハ總テ暗渠式ヲ採用シ其流量ノ多少ニ應シテ土管、鐵筋膠泥管及鐵筋混凝土暗溝ノ三種ニ分テ内徑八寸以上一尺五寸迄ヲ土管、一尺八寸以上三尺迄ヲ鐵筋膠泥管トシ三尺二寸五分以上ヲ鐵筋混凝土暗溝トナス

四 抽水所 抽水所ニ於ケル主要ナル物ハ砂溜井、電動唧筒機械、唧筒室及避溢溝トナス 砂溜井ハ鐵筋混凝土壁ヲ以テ築造セル長方形ノ溜井ニシテ一端ハ下水幹線ニ接續シ他端ニ於テハ汲水管ノ取付上井底ノ一部ヲ深カクシ之レヲ唧筒井トナス又砂溜井ニハ塵芥等浮游物ヲ除去スル爲メ粗密二重ノ鐵篋ヲ挿入ス

元來下水中ニ混入セル塵芥及土砂ハ集水口及人孔等ノ設備ニヨリテ大部分除去スルヲ得ヘキモ其ノ幾分ハ下水ト共ニ流下スルヲ免レサルヲ以テ之レヲ唧筒機械ニ達セシムルコトナク此ノ砂溜井ニ於テ完全ニ除去セムトスルモノニシテ砂溜井内ニ於ケル下水ノ流速ハ每秒一尺以下トス 而シテ塵芥其他ノ浮游物ハ鐵籠ニ鈎制セラレ又土砂ハ下水ト共ニ砂溜井ニ入ルヤ急ニ流速ヲ失ヒテ井底ニ沈澱スルカ故ニ此ノ所ニ於テ時々浚渫ヲ行フモノトス

電動唧筒機械 電動唧筒機械ノ馬力算定ニ對シ重要ナル事項ハ抽水量及揚程ニシテ本計畫ニ於テハ抽水量ハ下水管ノ内徑ヲ定ムルニ用ヒタル汚水量及最大降雨量毎時六十糎ヲ標準トシ之ヲ小型一臺大型數臺ノ唧筒ヲ以テ汲揚スルモノトス

唧筒機械ハ電動機ヲ直結シタル離心動唧筒ヲ用ヒ運轉開始ニ必要ナル汲水鐵管内ノ排氣ニ對シテハ二臺ノ排氣唧筒ヲ設備シテ運轉ノ敏活ト安全ヲ計ルモノトス

揚程ハ汲水管側ニ於ケル下水管ノ天端以下一尺ヨリ河川ノ滿潮位以上三尺迄トシ以テ摩擦損失水頭ヲモ包括スルモノト定メタリ
唧筒室 唧筒室ハ永久的構造トナス必要アルヲ以テ鐵筋混凝土建築トナシ又唧筒機械ノ据付及平素ノ作業能率増進ノ爲メ手動式移動起重機一臺ヲ備フルモノトス

避溢溝 非常降雨ノ際内水カ外水ニ比シ高キ場合又ハ事故ノ爲メ唧筒機械ノ運轉不能ニ陥レル場合等ニ於テハ避溢溝ヲ通シテ下水ヲ附近ノ河川ニ流出セシムルモノトス 避溢溝ハ其ノ溝底ヲ河底下同高ナラシメ又天端ヲ平均滿潮面以上一尺ノ高サニ築造シ以テ滿潮時ニ於テモ能ク下水量ヲ流下シ得ヘキ斷面積ヲ與フルモノトス又下水ノ溢出ヲ容易ナラシメムカ爲メ其ノ分流口ヲ漏斗狀トナシ分流口近クニハ水門ヲ設ケテ門扉ヲ取付ケ外部河川ノ水位昇降ニ應ジ溢流量ヲ調節スルノ用ニ供スルモノトス
避溢溝及ヒ排出管カ河川ニ吐出スル個所ハ河床ノ穿鑿セラル、ヲ防キ且ツ護岸ノ用ヲナス爲メ吐口工ヲ築造スルモノトス

下水最後處理トノ關係

文化未タ開ケス人口稀薄ナル當時ハ下水ノ大部分ハ雨水ニシテ汚水ノ稀釋率大ナルヲ以テ下水ヲ直チニ附近ノ河川ニ排流スルモ大ナル支障ヲ來タサス從ツテ現ニ實施セル如ク河川ニ排流シ簡單ニ下水ノ處置ヲ爲シ得タリト雖モ近年文運ノ發達ハ都市ノ繁榮ヲ促

シ人口ノ激增ニヨリテ下水ノ混濁セラル、コト甚敷之レヲ附近ノ河川ニ排流セムカ河水ハ著シク汚染セラレ都市トシテ美觀ヲ失フノミナラス衛生上危險ノ虞アルヲ以テ今日ニ於テハ都市ノ下水處理ハ最も重要ナル問題トナルニ至レリ 殊ニ本市ニ於テハ河川ヲ主要ナル交通機關トシテ使用セルヲ以テ直接之レニ排流スルカ如キハ慎重ナル考慮ヲ要スヘキハ論ヲ待タスト雖モ本市ハ未タ新市全部ニ亘リテ下水道ノ完備ヲ見サル狀況ニ在ルヲ以テ先以在來ノ方法ニ依ル下水改良ヲ速成セシメ續テ完全ナル下水處理ノ實施ニ移ラントス而シテ本計畫ニ於ケル幹枝線ノ配置並ニ抽水所ノ位置撰定等モ最後處理ヲナス場合ニ於テ矛盾ヲ來サ、ル考慮ノ許ニ設計セルモノナリトス

左記の如く内務大臣に都市計畫事業年度割決定方上申せり。

都甲第二五四號 大正十二年四月七日

大 阪 市 長

内 務 大 臣 宛

大阪都市計畫事業年度割決定方上申

大正十年九月十二日都甲第八〇號上申 大阪都市計畫事業年度割決定方ノ件ハ嚮ニ御承認ヲ徑タルニヨリ既定計畫ニ從ヒ工事施行致來り候處該計畫中ヨリ除外シタル地域ニシテ近時發達ノ度顯著ナル西區四貫島春日出方面、北區善源寺、東野田方面並同區西野田ノ一部ニ於ケル下水排除ノ状態ハ衛生上寒心ニ堪ヘサルモノアリ即別紙計畫ニ對スル事業ノ施行ハ最も焦眉ノ急ヲ要スルモノト認ムルニヨリ更ニ都市計畫トシテ事業施行致度ニ付本事業並年度割決定相成候様至急御詮議相成度別冊關係書類一括相添ヘ此段上申候也

添付書類目録

- 第一號 歳出豫算書
- 第二號 財政計畫書
- 第三號 工費計算書

第四號 一位代價表

- 第五號 下水道管理規則
- 第六號 大阪市下水道雨水汚水量流速度及流量表
- 第七號 大阪市下水道改良計畫書附屬圖表

添付圖面目錄

- 第一號 善源寺、東野田幹線實測平面圖 一枚
- 第二號 四貫島春日出 同 一枚
- 第二號 西野田 同 一枚
- 第四號 善源寺、東野田幹線實測縱斷面圖 一枚
- 第五號 四貫島春日出 同 一枚
- 第六號 西野田 同 一枚
- 第七號 東野田抽水所設計圖 四枚
- 第八號 恩貴島抽水所設計圖 三枚
- 第九號 西野田抽水所設計圖 二枚
- 第十號 集水口、各戸接續及人孔定規圖 一枚
- 第十一號 人口及集水口鐵蓋圖 一枚
- 第十二號 馬蹄形暗溝膠泥管及土管敷設定規圖 一枚
- 第十三號 土管之圖 一枚

主務省に於ては慎重なる審議を重ね大正十三年三月二十日都市計畫大阪地方委員會の決議を経て同年五月二十九日

左記の如く事業並に年度割認可官報を以つて公告せられたり。

都市計畫公告

左記大阪都市計畫事業並年度割決定ノ件認可ス(圖面省略)

記

大阪都市計畫第二期下水道事業並年度割

- 第一 下水ノ排除ハ總テ合流法ニ依リ雨水及汚水ヲ同一ノ管渠ニ導キ一部自然放流ヲ爲スノ外特設ノ抽水所ニ集水シ電動唧筒機ヲ用キテ汲揚シ之ヲ附近ノ河川ニ排出ス
- 第二 汚水量ハ千坪ノ人口極度ヲ二百人(一平方哩ニ付約十五萬五千人)ト假定シ一人一日ノ汚水量ヲ七立方尺トシ雨水量ハ一時間ノ最大雨量ヲ六十耗(約二吋四)トス
- 第三 下水道ノ各排水區域内ニ於ケル幹枝線ノ配置及延長竝抽水所設置ノ位置及設備左ノ如シ

一、四貫島春日出排水區

區 域 西區四貫島町、春日出町及恩貴島町ノ一部ニシテ正蓮寺川、六軒家川及安治川ニ依リ限ラレタル別紙圖面ノ地域

面 積 約三十六萬九千九百四十一坪

幹枝線ノ配置 別紙圖面ニ依ル

下水道ノ延長 一萬千六百五十七間

下水管種類 土管、鐵筋入膠泥管及鐵筋混凝土暗溝

下水管ノ内徑 八寸以上五尺七寸五分以下

排除方法 西區恩貴島町地内正蓮寺川ノ左岸恩貴島橋下流ニ抽水所ヲ建設シ電動唧筒機四臺約三百四十馬力ヲ設備

二、善源寺東野田排水區

シ正蓮寺川ニ排出ス其排水容量ハ每秒百二十八立方尺トス
區 域 北區善源寺町、澤上江町、中野町、野田町、東野田町、網島町ノ全部ニシテ榎並川、鯰江川、淀川ニ依リ
限ラレタル別紙圖面ノ地域

面 積 約八十二萬四千四百五坪

幹枝線ノ配置 別紙圖面ニ依ル

下水道ノ延長 一萬七千二百三十五間

下水管種類 土管、鐵筋入膠泥管及鐵筋混凝土暗溝

下水管内徑 八寸以上七尺五寸以下

排除方法

一小部分ハ淀川ニ自然放流ヲナシ其他ハ北區東野田町七丁目榎並川右岸ニ抽水所ヲ建設シ電動唧筒機械五
臺約五百三十馬力ヲ設備シ榎並川ノ一部ヲ改修シテ鯰江川ニ排出ス其ノ排水容量ハ每秒二百立方尺トス

三、西野田排水區

(イ)

區 域 北區西野田茶園町及大開町ニシテ聖天川阪神電氣鐵道線路及中津川ニ依リ限ラレタル内ノ別紙圖面ノ地域

面 積 約八萬三千四百四十四坪

幹枝線ノ配置 別紙圖面ニ依ル

下水道延長 二千九百十三間

下水管種類 土管、鐵筋入膠泥管及鐵筋混凝土暗溝

下水管内徑 八寸以上四尺以下

排除方法 既設西野田抽水所ニ電動唧筒機械一臺約五十馬力ヲ設備ス其ノ排水容量每秒二十立方尺トス

(ロ)

區 域 北區西野田新家西ノ町ノ一部ニシテ別紙圖面ノ地域

面 積 約一萬四千四十一坪

幹枝線ノ配置 別紙圖面ニ依ル

下水道延長 二百十間

下水管種類 混凝土暗溝

下水管内徑 二尺角

排除方法 下水管路二線ニ依リ木場川ニ放流ス

第三ニ掲クル事業ノ實施ニ方リ設計ニ些少ノ異動ヲ生スル場合ハ都市計畫大阪地方委員會限リ之ヲ變更スルコトヲ得

第五 施行年度割左ノ通定ム

大正十三年度 約三割五分

大正十四年度 約四割二分

大正十五年度 約二割三分

右公告ス

大正十三年五月二十九日

内閣總理大臣 子爵 清 浦 奎 吾

二 下水道法による手續

下水道法により工事施行認可を受くるため大正十三年五月十日別紙の通り市會に提案同月十四日其の議決を経たる

を以て内務大臣に認可申請せり。

前章に述べたる如く都市計畫事業として内務大臣の決定したるものを下水道法に依り更に公共團體たる大阪市に認可するの當否に就いては相當論議ありたるも、左記理由により下水道法第二條に依る下水道の築造に關する認可は都市計畫事業の認可を以て之を爲したるものとし取扱ふことに決定せり。

記

本都市計畫事業ハ内務大臣ノ決定内閣ノ認可ヲ以テ確定スルモノナルニ拘ハラズ下水道法ニ依り更ニ内務大臣ノ認可手續ヲ取ラシムルハ其ノ間事理ノ一貫セサルモノアリ依テ本事業ノ決定上必要トスル諸般ノ調査ハ下水道法ノ規定ニ準據シ且ツ同法第二條ノ規定ニ依ル築造ニ關スル認可申請書ニ添付スヘキ圖面及書類ハ總テ別紙目錄ノ通具備シタルニ依リ本文ノ通り取扱フコト、シ事務ノ簡捷ヲ計リタシ

議案第三百三十一號

第三回下水道改良事業施行ニ關スル件

左記要項ニ依り第三回下水道改良事業ヲ施行スルモノトス

大正十三年五月十日提出

大正十三年五月十四日市會原案決

大阪市長 關

第一 下水ノ排除

要 項

總テ合流法ニヨリ雨水及汚水ヲ同一管渠ニ導キ一部自然放流ヲ爲ス外特設ノ抽水所ニ集水シテ電動唧筒機械ヲ用ヒテ汲揚シ之ヲ附近ノ河川ニ排出ス

第二 汚 水 量

千坪ノ人口極度ヲ二百人(一平方哩ニ付約十五萬五千人)ト假定シ一人一日ノ汚水量ヲ七立方尺トシ雨水量ハ一時間ノ最大雨量ヲ六十耗(約二吋四)トス

第三 下水道ノ各排水區域、各區域内ニ於ケル幹枝線ノ配置及延長並抽水所設置ノ位置及設備左ノ如シ

一、四貫島春日出排水區

區 域 西區四貫島町、春日出町及恩貴島町ノ一部ニシテ正蓮寺川、六軒屋川及安治川ニ依リ限ラレタル地域

面 積 約三十六萬一千九百四十一坪

下水道ノ延長 一萬一千六百五十七間

下水管ノ種類 土管、鐵筋入膠泥管及鐵筋混凝土暗溝

下水管ノ内徑 八寸以上五尺七寸五分以下

排除方法 西區恩貴島町地内正蓮寺川ノ左岸恩貴島橋下流ニ抽水所ヲ建設シ電動唧筒機械四臺約三百四十馬力ヲ設備シ正蓮寺川ニ排出ス其ノ排水容量ハ每秒百二十八立方尺トス

二、善源寺東野田排水區

區 域 北區善源寺町、澤上江町、中野町、野田町、東野田町、網島町ノ全部ニシテ榎並川、鯉江川、淀川ニ依リ限ラレタル地域

面 積 約八十二萬一千四十五坪

下水道ノ延長 一萬七千二百三十五間

下水管ノ種類 土管、鐵筋入膠泥管及鐵筋混凝土暗溝
下水管ノ内徑 八寸以上七尺五寸以下

排除方法

一 小部分ハ淀川ニ自然放流ヲナシ其ノ他ハ北區東野田町七丁目榎並川右岸ニ抽水所ヲ建設シ電動唧筒機械五臺約五百三十馬力ヲ設備シ榎並川ノ一部ヲ改修シテ鯉江川ニ排出ス其ノ排水容量ハ每秒二百立方尺トス

三、西野田排水區

(イ)

區 域

北區西野田茶園町及大開町ニシテ聖天川、阪神電氣鐵道線路及中津川ニ依リ限ラレタル地域ノ一部

面 積

約八萬三千四百四坪

下水道ノ延長

二千九百十三間

下水管ノ種類

土管、鐵筋入膠泥管及鐵筋混凝土暗溝

下水管ノ内徑

八寸以上四尺以下

排除方法

既設西野田抽水所ニ電動唧筒機械一臺約五十馬力ヲ設備シ木場川ニ排出ス其ノ排水容量每秒二十立方尺トス

(ロ)

區 域

北區西野田新家西ノ町ノ一部

面 積

約一萬一千四十一坪

下水道ノ延長

二百十間

下水管ノ種類

混凝土暗溝

下水管ノ内徑

二尺角

排除方法 下水管路二線ニ依リ木場川ニ放流ス

第四 事業費

金四百參拾萬圓

第五 起工竣功期限

起工 大正十三年四月

竣功 大正十六年三月

說 明

明治四十四年以降十二ヶ年及大正十一年以降二ヶ年半ノ二回ニ亘レル繼續事業トシテ計畫セル本市下水道改良區域ヨリ除外セル地域中ニテ其ノ後發展最モ顯著ナル西區四貫島春日出方面北區善源寺東野田方面及同區西野田ノ一部ニ於ケル下水道ノ改良ハ公衆衛生上忽諸ニ附スヘカラサルモノアルヲ以テ大正十三年度以降三ヶ年ノ第三回繼續事業トシテ之ヲ施行セムトス是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

市參事會ノ意見

原案ニ異議ナキモノトス

三 第一回計畫變更

其の後工事施行中其ノ排水地域中區劃整理事業ノ施設に伴ひ左記變更計畫説明書ノ示す如く事業年度ノ延長及び幹枝線及抽水所築造工事に對し一部計畫ノ變更をなす必要を生じたり。

大阪府大阪市下水道改良變更計畫說明書

本市第二期都市計畫事業（第三回下水道改良事業）ハ大正十三年度以降三ヶ年間ノ繼續ヲ以テ施行中ノ處其ノ區域中區劃整理事業ノ施設ニ伴ヒ實施ヲ要スルモノアルヲ以テ其事業年度ヲ大正十六年度迄延長スルト共ニ各排水區域ニ於ケル其ノ後ノ發展狀況ニ鑑ミ幹枝線及抽水所築造工事ニ對シ一部計畫ノ變更ヲナサントス今各排水區ニ付其ノ概要ヲ述フレハ次ノ如シ

排水區域

一 四貫島春日排水區 本排水區域ニ於ケル下水道幹枝線ハ主トシテ道路ニ配置スル計畫ナリシカ其ノ路線中他ノ既設埋設物ノ關係上變更ヲ要スルモノアリ又道路計畫ノ變更ニ伴ヒ幹枝線一部ノ配置ヲ變更スルモノトス

猶ホ在來下水道ヲ其ノ儘利用スヘキ豫定ノ個所ニシテ排水ノ完全ヲ期セムカ爲メ之ニ枝線ヲ設ケ又道路ノ新設ニ伴フ枝線ヲモ追加施工セントス之カ爲メ幹枝線ノ總延長ニ幾分増加ヲ來タセルモ何レモ内徑一尺程度ノ小管ニ過キササルヲ以テ全排水區ノ排水系統ニハ何等影響ヲ及ホササルモノトス

抽水所ハ正蓮寺川左岸堤防ニ接近シテ設置スル豫定ナリシガ地形其他ノ關係上其ノ位置ヲ稍々後方ニ撰ビ電動唧筒機械四臺二百七十五馬力ヲ設備ス 其ノ排水容量ハ每秒百四十四立方尺ニシテ下水ハ波揚後下水吐暗渠ヲ經テ正蓮寺川ニ排出サルモノトス

二 善源寺東野田排水區 本排水區ハ其ノ中央ヲ東西ニ貫通セル既設鐵道線路ニヨリ南北ノ二部ニ分タレ從ツテ下水ノ排水系統モ自ラ二分セラル南部地域ハ既ニ人家稠密ナル街衢ヲ形成セリト雖モ軌近急速ニ發展セシモノニシテ其ノ道路幅員狭小ナルモノ多ク而カモ交通頻繁ナルヲ以テ當初道路ニ埋設ノ豫定ナリシ幹線ヲ附近ノ井路敷並ヒニ新タニ設定セル下水道用地内ニ埋設スルコトトシ之ヲ道路ニ共用セントス

北部地域ハ南部地域ニ比シ人家未タ密ナラサル部分アルヲ以テ原計畫ニ於テモ本事業ノ一部トシテ道路ノ區劃ヲ定メ以テ下水道幹枝線ノ敷設ヲナス豫定ナリシカ其ノ後該地方ニ於テ都島土地區劃整理組合設立セラレ其ノ地區内ニ於ケル在來道路及井路ヲ廢シ新

タニ道路網ヲ決定スルニ至リタルヲ以テ下水道幹枝線ハ總テ組合ノ計畫道路ニ配置スルコト、シ之レニ伴フ變更ヲナサントス、變更ノ結果下水管ノ内徑ニ少許ノ異動ヲ來タシ又下水道ノ總延長ニ於テ増加ヲ來タセルモ下水排除ノ系統ヲ變更スルモノニアラスシテ却テ下水道幹枝線ノ配置ヲ整然タラシムルコトヲ得タリ

下水ノ排除ハ原計畫通り僅カニ一部分ヲ淀川ニ自然放流スルノ外抽水所ニ依リ排出スルモノニシテ抽水所ハ東野田町七丁目ノ東南隅榎並川沿岸ニ建設シ電動唧筒機械五臺四百七十五馬力ヲ据付ケ其ノ排水容量ヲ每秒二百二十立方尺トス

晴天時下水ハ波揚後主トシテ一條ノ下水吐溝ヲ經テ鳴野橋下流ニ於テ榎屋川ニ排出シ又降雨時下水ハ榎並川及榎江川ヲ連絡スル暗渠ヲ築造シテ榎江川ニ排出スルモノトス而シテ晴天時下水排出ノ爲メニハ榎江川ニ鐵管橋ヲ架設シ又榎並及榎江兩川ノ連絡ニ伴フ

洪水時ノ逆流防止並ニ舟運ノ爲メ榎並川ニ閘門ヲ設置スルモノトナス

唧筒機械ノ排水容量ハ二十立方尺ヲ増加セルモノニシテ其理由ハ上記ノ晴天時下水波揚唧筒機械一臺（容量二十立方尺）ハ降雨時ニ於テハ運轉ヲ休止スルコト、シ以テ揚程ノ差ニヨル電力ノ節約ヲ計ラントスルカ爲メナリ

三 西野田排水區 (イ) 聖天川阪神電氣鐵道及中津川ニ限ラレタル別紙圖面ノ地域幹枝線築造工事中變更ノ主ナルモノハ計畫ノ當初不用井路トシテ整理スベキモノ又ハ在來下水管ヲ其ノ儘利用スベキ豫定ノ個所ニ於テモ其ノ後ノ發展ニ鑑ミ排水ノ完全ヲ期セムガ爲メ枝線ノ追加施行ヲナサントスルモノナリ 而シテ其延長ヲ來タセルハ主トシテ内徑一尺程度ノ小管ナリトス

抽水所ニ於テ唧筒室ノ建坪等ニ少許ノ變更アルハ主トシテ唧筒能力ノ増加ニ伴フモノナリトス而シテ増設唧筒機械ノ排水容量ヲ毎秒三十立方尺ニ増加スルハ本抽水所ノ排水區域ニ對シ實地ノ狀況ニ鑑ミ其ノ排水能力ニ於テ幾分ノ餘裕ヲ有セシメントスルモノナリ

(ロ) 木場川及六軒屋川ニ依リ限ラレタル別紙圖面ノ地域 原計畫ニ於テハ二條ノ枝線ヲ敷設シ何レモ木場川ニ排流セシムル豫定ナリシガ木場川ノ流域ニ於ケル急速ナル發展ニ對シ排水充分ナラザル嫌アルヲ以テ其ノ一線ハ之ヲ六軒屋川ニ放流スルモノトス

理事者は左の如く内務大臣宛都市計畫下水道事業並年度割一部變更に付稟請せり。

水甲第二、一四六號 大正十五年十二月廿三日

内務大臣宛

市

長

都市計畫下水道事業並年度割一部變更ニ付稟請

大阪都市計畫第二期下水道事業並年度割ノ一部ヲ別紙ノ通變更致度候條御決定相成度關係書類及圖面相添ヘ此段稟請候也

添付書類及圖面目錄

(イ) 書類

- 第一號 都市計畫公告寫
- 第二號 第二期都市計畫事業大阪府大阪市下水道改良變更計畫說明書
- 第三號 下水道改良費歳出豫算書
- 第四號 工費計算書
- 第五號 大阪府大阪市下水道築造工事一位代價表
- (ロ) 圖面
- 第一號 四貫島春日出幹枝線變更實測平面圖
- 第二號 善源寺東野田 同
- 第三號 西野田 同
- 第四號 四貫島春日出幹枝線變更實測縱斷面圖
- 第五號 善源寺東野田幹枝線 同
- 第六號 西野田幹枝線 同
- 第七號 恩貴島抽水所變更設計圖 同

- 第八號 東野田抽水所 同
- 第九號 西野田抽水所擴張變更設計圖 同
- 第十號 馬蹄形暗渠混凝土管及土管敷設定規圖 同

當局に於ては審議の結果昭和二年二月十六日都市計畫大阪地方委員會に附議せられ同年三月廿八日議決報告の上同年四月十三日内閣總理大臣より事業並に年度割變更の件認可公告ありたり。其の全文左の如し。

都市計畫公告

大阪都市計畫第二期下水道事業並年度割中左ノ通變更ノ件認可ス

大阪都市計畫第二期下水道事業並年度割

第三

- 一、四貫島春日出排水區
 - 下水道延長 約一萬五千五百十一間
 - 下水管種類 「鐵筋入膠泥管」ヲ「鐵筋混凝土管」ニ改ム
 - 下水管内徑 「八寸以上」ヲ「一尺以上」ニ改ム
 - 排除方法 「三百四十馬力」ヲ「二百七十五馬力」ニ「毎秒百二十八立方尺」ヲ「毎秒百四十立方尺」ニ改ム
- 二、善源寺東野田排水區
 - 下水道延長 約二萬五千七百七十一間
 - 下水管種類 「鐵筋入膠泥管」ヲ「鐵筋混凝土管」ニ改ム
 - 下水管内徑 一尺以上八尺以下

排除方法 「電動唧筒機械五臺」ノ次ヲ「四百七十五馬力ヲ設備シ晴天時下水ハ汲揚後主トシテ鳴野橋下流ニ於テ寢屋川ニ排出シ降雨下水ハ榎並川ノ一部ヲ改修シテ鯉江川ニ排出ス其ノ排水容量ハ毎秒二百二十立方尺」ニ改ム

三、西野田排水區

(イ)

下水道延長 約四千二十一間

下水管種類 「鐵筋入膠泥管」ヲ「鐵筋混凝土管」ニ改ム

下水管内徑 「八寸以上」ヲ「一尺以上」ニ改ム

排除方法 「約五十馬力」ヲ「六十馬力」ニ「毎秒二十立方尺」ヲ「毎秒三十立方尺」ニ改ム

(ロ)

下水道延長 約二百二十二間

下水管種類 鐵筋混凝土管及鐵筋混凝土暗溝

下水管内徑 二尺及六尺

排水方法 「木場川」ノ次ニ「及六軒屋川」ヲ加フ

第五

施行年度割左ノ通定ム

大正十三年度 約三割五分

大正十四年度 約四割二分

大正十五年度(昭和元年度) 約一割四分

昭和二年度

約九分

右公告ス

昭和二年四月十三日

内閣總理大臣 若 槻 禮 次 郎

第二節 工事の實施

一 着手及竣工

各排水區に於ける工事は大正十三年九月十日より着手することとし九月九日左記の通り告示しいづれも昭和三年三月三十一日竣工せり。

大阪市告示第四百四十六號

大正十三年五月廿九日内閣總理大臣公告ノ左記區域ニ於ケル大阪都市計畫第二期下水道改良工事ハ本年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年九月九日

大阪市長 關

記

一、四貫島春日出排水區

四貫島町 春日出町ノ一部 恩貴島南町ノ一部

二、善源寺東野田排水區

東野田町 自一丁目 澤上江町 自一丁目 中野町 自一丁目
至一丁目 至十丁目 至十丁目 至五丁目

善源寺町 自一丁目 野田町一部 網島町ノ一部
至十丁目

三、西野田排水區

西野田茶園町 西野田大開町一、二丁目

西野田大開町三、四丁目ノ一部 西野田新家町二丁目ノ一部

二 工事概要

竣工したる工事概要左の如し。

第三回下水道改良事業竣工概要書

第一 下水ノ排除ハ總テ合流法ニ依リ雨水及汚水ヲ同一ノ管渠ニ導キ一部自然放流ヲ爲スノ外特設ノ抽水所ニ集水シ電動唧筒機
械ヲ用ヒテ波揚シ之ヲ附近ノ河川ニ排出ス

第二 汚水量ハ千坪ノ人口極度ヲ二百人(一平方哩ニ付約十五萬五千人)ト假定シ一人一日ノ汚水量ヲ七立方尺トシ雨水量ハ一
時間ノ最大雨量ヲ六十耗(約二吋四)トス

第三 下水道ノ各排水區域内ニ於ケル幹枝線ノ配置及延長並抽水所設置及設備左ノ如シ

一、四貫島春日排水區

區 域 西區四貫島町、春日出町及恩貴島町ノ一部ニシテ正蓮寺川、六軒家川及安治川ニ依リ限ラレタル別紙圖面
ノ地域

面 積 三十六萬三千三百九十三坪二五

幹枝線ノ配置 別紙圖面ニ依ル

下水道ノ延長 一萬六千二百九十六間四五

下水管種類 土管、鐵筋混凝土管及鐵筋混凝土暗溝

下水管ノ内徑 一尺以上五尺七寸五分以下

排除方法 西區恩貴島町地内正蓮寺川ノ左岸恩貴島橋下流ニ抽水所ヲ建設シ電動唧筒機械四臺二百七十五馬力ヲ設備
シ正蓮寺川ニ排出ス其排水容量ハ每秒百四十立方尺トス

二、善源寺東野田排水區

區 域 北區善源寺町、澤上江町、中野町、野田町、東野田町、網島町ノ全部ニシテ榎並川、鯉江川、淀川ニ依リ
限ラレタル別紙圖面ノ地域

面 積 八十二萬四千四百五十五坪五〇

幹枝線ノ配置 別紙圖面ニ依ル

下水道ノ延長 二萬六千三百五十一間六二

下水管ノ種類 土管、鐵筋混凝土管及鐵筋混凝土暗溝

下水管ノ内徑 一尺以上八尺以下

排除方法

一小部分ハ淀川ニ自然放流ヲナシ其他ハ北區東野田町七丁目榎並川右岸ニ抽水所ヲ建設シ電動唧筒機械五
臺四百七十五馬力ヲ設備シ晴天時下水ハ波揚後主トシテ鳴野橋下流ニ於テ寢屋川ニ排出シ又降雨時下水ハ
榎並川ノ一部ヲ改修シテ鯉江川ニ排出ス其ノ設備唧筒ノ排水容量ハ每秒二百二十立方尺トス

三、西野田排水區

(イ)

區 域 北區西野田茶園町及大開町ニシテ聖天川阪神電氣鐵道線路及中津川ニ依リ限ラレタル内ノ別紙圖面ノ地域

面 積 十萬五千六百二十七坪七五

幹枝線ノ配置 別紙圖面ニ依ル
 下水道ノ延長 三千九百九十五間一六
 下水管ノ種類 土管、鐵筋混凝土管及鐵筋混凝土暗溝
 下水管ノ内徑 一尺以上四尺以下

排除方法 既設西野田抽水所ニ電動唧筒機械一臺六十馬力ヲ設備ス其ノ排水容量毎秒三十立方尺トス
 (ロ)

區域 北區西野田新家西ノ町ノ一部ニシテ別紙圖面ノ地域
 面積 一萬四千四十一坪二五

幹枝線ノ配置 別紙圖面ニ依ル

下水道ノ延長 二百二十一間七五

下水管ノ種類 鐵筋混凝土管及鐵筋混凝土暗溝

下水管ノ内徑 二尺及六尺

排除方法 下水管路二線ニ依リ木場川及六軒屋川ニ放流ス

各排水區に於ける工費精算を掲ぐれば左の如し。

四貫島春日出排水區幹枝線工事

種別	員數	單位金額	計金額
五尺七寸五分暗溝	九・六	一七七・一八三強	一、六五八・四三〇
五尺二寸五分同	一六・二五	一六五・六五強	二、七〇八・五三三

五尺	尺	同	六〇・六	一四一・〇〇九強	八、五三九・五三三
四尺七寸五分	同	同	六二・六〇	二四・九五六弱	七、八三三・三三九
四尺	五寸	同	一七・〇〇	一〇〇・九六六強	一、一八五・三六〇
四尺二寸五分	同	同	一一・二九	一〇七・八四六弱	一、三〇〇・六二〇
四尺	尺	同	六四・九六	八四・二四九強	五、四六八・〇三九
三尺七寸五分	同	同	三六・六	八二・〇七七強	三、一四一・九三三
四尺二寸五分平型暗溝	同	同	二・二六	五八・八七一強	一一七・一六三
五尺	尺	同	一・〇〇	一	一一五・五三六
三尺五寸混凝土管	同	同	二四八・三二	八九・八七一弱	三、三〇六・八〇〇
三尺二寸五分同	同	同	九・六〇	六八・四八強	六、七四九・〇〇三
三尺	尺	同	一六・七五	六七・三七七弱	一一、二五六・三三七
二尺七寸五分同	同	同	二七・四六	六三・八四四強	一七、六五〇・三八九
二尺五寸同	同	同	三〇・七八	五四・二四九弱	一一、九七七・〇一一
二尺二寸五分同	同	同	二〇・五六	四七・五六七強	九、五八七・六五四
二尺	尺	同	二七・三〇	四二・〇五九弱	一一、四一〇・四九九
一尺八寸同	同	同	八六・八八	三四・二八一強	二、九五四・二七三
一尺五寸土管	同	同	一、五七・三三	三三・〇一五弱	三、三六四・〇六一
一尺二寸同	同	同	二、五三・四三	一七・八四弱	四、四七三・八三三
一尺	尺	同	九、三七・六六	一一・九三弱	一一、九二四・七三〇

既設工作物移轉
雜備給其他
善源寺東野田排水區幹枝線工事

種別	員數	單位金額	計金額
八尺暗溝	四五・〇三	二五・七七弱	一一、〇六五・〇七五
六尺五寸同	二〇・〇六	三七・二四三強	四七、七八四・六七二
六尺同	一三・〇四	二〇・〇六弱	二八、〇三六・六五九
五尺七寸五分同	二四・二〇	一六九・六一弱	四一、一一・二三三
五尺五分同	七九・二六	一六七・四五弱	一三、三五五・七〇一
五尺二寸五分同	一三九・七三	一五四・〇六四弱	二、五七・三五三
五尺同	三三・三三	一三五・四九九弱	四、五一六・一七八
四尺七寸五分同	一六・八七	一三六・二九弱	二六、八三・三四九
四尺五寸同	三九・九六	一二三・一一〇強	二八、三二・九六六
四尺二寸五分同	三三・五四	一一八・〇〇一弱	二六、一四一・八八三
三尺七寸五分同	一八・七五	一〇〇・三九八強	一、九四四・三四五
三尺五寸混凝土管	六七・五九	八二・五四八弱	五、三五・〇一一
三尺二寸五分同	五三・九四	六五・七四七強	三、五〇・三九・三七八
三尺同	七五・三三	六二・四三弱	四七、三四・〇三四
二尺七寸五分同	七八・四九	五八・〇一四弱	四、六八二・一三七

二尺五寸同	八三九・五八	五二・三八八弱	四三、四四・二八五
二尺二寸五分同	一、〇八六・〇〇	四九・七六弱	四九、六五八・〇六八
同二尺同	五八・二八	三八・三五弱	二、五一〇・九六三
一尺八寸同	二、二六・九六	三三・〇七二弱	七五、九五・一五三
一尺五寸土管	三、五七・七〇	三三・五三強	八五、九三六・五二二
一尺二寸同	四、三九・七五	一八・五八六弱	八一、八三・一五一
一尺同	九、三三・五三	一五・三五四弱	一四三、三四・九三六
一尺二寸矩形暗溝	三〇・四〇	一七・八一五強	五、四一・五九一
人孔	一、二七	八五・二〇弱	九、〇六七・六七三
特種人孔	一九	四三・四七強	八六三・四九五
合流會所	一	一一・一六二弱	一、四八二・七七三
集水口	五、二八三	二〇・七三三強	五八、六七・五九八
特種集水口	一八九	五・七二弱	三、九三九・九〇〇
八寸土管各戸接續	一、九〇・〇六	三・六四弱	一〇、九六六・八四四
五寸土官同	六、九三・八九	七・八〇強	二五、七八・二四〇
管渠保護工事	—	〇・九三三弱	四、六七・七三三
理込土	六、七七・九	—	五三、〇八二・九八五
路面修築	六三、七〇・三三	—	六〇、六七・八九七

善源寺東野田排水區東野田抽水所工事

種別	數	單位金額	計金額
舊下水接續	三〇・七九	七・六五強	二、八四九・九二
既設工作物保護	—	—	七、一七五・八三九
同移轉	—	—	二、五〇四・〇七四
同修繕	—	—	四、三六・一〇五
雜備給其他	—	—	二、四八、四六三・三三
砂溜井	一ヶ所	—	八三、四三九・〇八二
吐口	一ヶ所	—	一三、三六八・一二三
避溢溝	一三・〇〇	三五六・三四九弱	四、六三二・五三三
水門	一ヶ所	—	七、一五一・五八一
泥溜	一ヶ所	—	一、三二〇・〇四三
九五馬力電動唧筒機械	一	一五、〇一六・二六八	七五、〇〇〇・八四〇
排氣唧筒	二	一、〇〇〇・〇〇〇	三、六〇〇・〇〇〇
唧筒機械据付	—	—	八、九六三・八三九
電氣設備	—	—	一〇、〇一九・二二〇
鐵管敷設	八三・〇	一五四・七三弱	一三、九五五・四八〇
鐵管敷設	—	—	三、三六六・四四四

種別	數	單位金額	計金額
鐵管橋	一ヶ所	—	一、五三三・〇六〇
下水吐溝	一	九二・九七強	六、〇六二・一〇一
水位計	三ヶ所	六八九・三四一強	二、〇六七・七三四
起重機	一	—	三、七六六・〇〇〇
唧筒室	一	一、〇九四・三三七弱	一、〇九四・三三七弱
水道鐵管	—	—	五〇一・四二〇
事務室及物置	—	—	二、四八五・四六四
地垣及門築	一六・二五	四二・六五七弱	六九三・一七〇
柵垣及門扉	二〇三・二五	一五・五四七弱	三、一五九・八五二
橋梁	一ヶ所	—	三、八四一・六〇〇
放流溝渠改修	—	—	三九、二八〇・七九四
汚泥運搬設備	—	—	一、八五〇・〇〇〇
植樹	—	—	六八八・六〇〇
既設工作物保護	—	—	三六・〇七〇
同移轉	—	—	四六六・五〇〇
同修繕	—	—	三七・二二五
雜備給其他	—	—	四八、三七七・九四六

種別	員數	單位金額	計金額
四尺暗溝	七〇・五	一七・五四六弱	一、二一〇・九二六
三尺七寸五分同	七二・三	一三・四八三強	九、五三三・八二九
六尺矩形暗溝	一三三・九	三五・三九五強	四、七〇一・八〇四六
二尺七寸五分圓形暗溝	四九・八〇	七〇・一四八弱	三、四九三・三五一
二尺二寸五分同	一〇五・五	五七・三〇四弱	六、〇五四・一三〇
二尺	二〇三・四〇	四八・五六弱	九、八八四・三四二
一尺八寸同	四三・八〇	四九・八〇八強	二、二二一・八〇〇
三尺二寸五分凝混土管	六二・九	七二・三七九強	四、五五六・二八五
二尺二寸五分同	五五・七五	四〇・一三三強	二、二二七・三四
二尺	六五・八〇	七三・四九四弱	四、八三五・八九六
一尺八寸同	一六・四	二五・〇七弱	三、七三三・七七一
一尺五寸土管	四六九・一〇	二一・〇四弱	九、八八九・八三三
一二尺寸同	七七・九〇	一五・八四三弱	一、一五三・七九五
一尺	一、九〇・三三	一三・一八九弱	二五、一四二・二二九
人孔	一八二	八六・三六六弱	一五、七七八・五三九

一四六

種別	員數	單位金額	計金額
集水口	九二	一二・七六弱	一、一〇七・二九八
特種集水口	二四	一九・八九三弱	四七七・四三三
一尺土管各戸接續	一・三〇	七・〇〇〇	八・七〇〇
八寸土管同	三〇九・五	五・三五五弱	一、六四五・七六九
五寸土管同	一、一三三・八一	三・四九九強	三、八七七・七八六
管渠保護工	—	—	—
路面修築	六、九一・四〇	〇・九四一強	六、七二二・一〇〇
舊下水接續	二・五	五・八八九弱	一七・四九五
既設工作物保護	—	—	—
同移轉	—	—	—
同修繕	—	—	—
雜備給其他	—	—	—
西野田排水區西野田抽水所唧筒增設工事	—	—	—
砂溜井擴張	一	—	—
吐口	一	—	—

一四七

六〇馬力動力唧筒機械	一	台			七、五七〇・〇〇〇
唧筒機械据付					一、七四六・四六一
電氣設備	六・九	噸			一、四七〇・五三九
鐵敷管					一、七三九・八三〇
同敷設					五九九・二六四
唧筒室	二・二	坪			三、九三二・六六六
事務室移轉					一、〇三六・七五〇
雜備給其他					六、五八八・二二五
三用地の取得					

用地の買収及び地上物件の移轉に就いては相當困難なる問題發生したるも、關係者の諒解に努めたる結果、圓滿に解決せり。其の買収面積、價格左表の如し。

第三回下水道改良事業用地買収調

種別	面積	買収價格	地上物件補償價格	合計
四貫島春日出排水區幹枝線用地	二六・五四坪	七、八四四・四八〇	一九、四八四・七〇〇	二七、三三〇・一八〇
同抽水所用地	二、七八・〇〇	一〇〇、一八八・〇〇〇		一〇〇、一八八・〇〇〇

善源寺東野田排水區幹枝線用地	一、七〇一・九二	八九、四〇六・二六〇	六七、一五〇・八〇〇	一五六、五五七・〇六〇
同抽水所用地	二、二七・四八	一四、七九・二五〇	三、七五九・五九〇	一六八、七三八・七四〇
西野田排水區幹枝線用地	二〇・七	一、八四一・〇〇〇	七、二二五・一〇〇	九、〇五六・一〇〇
雜費(收入印紙代)				三〇四・七〇〇
合計	六、二四三・三三	一〇四、五九八・九一〇	一七、一四〇・一四〇	一二一、七三九・〇七〇

本事業用地として寄附を受けたる面積は別表の如く十一町餘あり、其の大部分は善源寺東野田排水區域内に於ける用悪水路にして、此の水路に下水幹枝線を敷設し不用に屬する部分は之を賣却し本事業の財源に充つることとせり。

用地寄附取得調

種別	面積	見積價格	摘要	寄附者氏名
善源寺東野田排水區	二町 八畝二十一歩	ナシ	用悪水路	善源寺町一丁目外九ヶ町區有
同	四町二段五畝二十三歩	ク	ク	澤上江町一丁目外九ヶ町區有
同	一町二段二畝二十八歩	ク	ク	中野町一丁目外四ヶ町區有
同	二町二段六畝二十歩	ク	井溝及用悪水路	東野田町一丁目外八ヶ町區有
同	九畝二十五歩七合五勺	ク	用悪水路	澤上江町一丁目外十四ヶ町區有
同	五段四畝四歩	ク	ク	東野田町一丁目外十八ヶ町區有
同	六段六畝十七歩	ク	ク	善源寺町一丁目外三十三ヶ町區有

西野田排水區 五十八坪八合五勺
計 十一町一段六畝十七步六合

坪(七十五圓) 宅 地 大野治右衛門

偶々本排水区域内の一部に大阪都島土地區劃整理組合を組織し區劃整理を行ふこととなり、右寄附を受けたる用悪水路の一部を該整理地區に編入し同組合の築造したる道路に下水幹線を敷設することとしたため、同地區内に於ける部分を除き他の地域に於て不用に歸したるものと、幹線用地として買収したる東野田町七丁目用悪水路の不要部分とを賣却し本事業の財源に充當せり。其の詳細は左の如し。

寄附ヲ受ケタル用悪水路敷地不用處分調書

所在	地目	段別	賣却單價	合價	買受人
北區東野田町二丁目五二ノ二	宅地	坪 三〇・七六	八〇	三、三六〇・八〇	藤田徳治郎
同	同	坪 二五・四三	七五	一、九六六・五〇	岩崎吉次
同	同	坪 一・一七	七〇	八二・九〇	井上一子
同	同	坪 二五・七	八〇	二、〇三三・六〇	岩崎義一
同	同	坪 八・〇六	一一〇	八八六・六〇	野村藤一
同	同	坪 一三・五三	一一〇	一、四八八・三〇	川口ウメ
同	同	坪 三三・三三	一五〇	二、二六六・三〇	野村重雄
同	同	坪 一五・四六	一五〇	一、四六八・七〇	島津レノン

同	同	坪 二五・九	八〇	一、八七三・〇〇	川口捨吉
同	同	坪 二六・三六	八〇	二、三六二・四〇	岩崎宗逸
同	同	坪 二・二六	七〇	一五二・二〇	新堂庄太郎
同	同	坪 二・五〇	七〇	一七五・〇〇	同
同	同	坪 三・二七	七〇	三二二・〇〇	野村壽一
同	同	坪 二・五四	七〇	一七三・八〇	岩崎吉次
同	同	坪 三三・六四	一四〇	三、五九九・六〇	井上一子
同	同	坪 一八六・五八	一四〇	二六、二二〇	河崎徑吉
同	同	坪 一九・八四	一四〇	二、七七七・六〇	大野徳治
同	同	坪 一五・二二	一四〇	二、一六六・八〇	中島鶴松
同	同	坪 一七・三三	一五〇	二、五九九・五〇	熊田種次
同	同	坪 二・三三	八〇	一、六六八・〇〇	井上フミ
同	同	坪 三三・八三	七〇	二、三六八・二〇	上野嘉右衛門
同	同	坪 七・五	七〇	五五六・五〇	岩城新右衛門
同	同	坪 五・三〇	七〇	三六四・〇〇	岩崎吉次
同	同	坪 五・六九	七〇	三九八・三〇	増田乙次郎
同	同	坪 五・七	七〇	四一七・七〇	木田マツ
同	同	坪 一・九四	七〇	一五二・八〇	大日本紡績株式会社
同	同	坪 九〇ノ四	七五	七五二・〇〇	
同	同	坪 一〇四ノ二	七五	七五二・〇〇	

同	八丁目六七ノ三	同	三三・六一	一一〇	二、五七・〇	同	村上治兵衛
同	六七ノ四	同	三四・四九	一一〇	三、七五・〇	同	土橋卯之助
同	六七ノ六	同	一六八・二四	一一〇	二〇、七六・八〇	同	井上一子
北區善源寺町	二丁目八ノ一	同	二〇三・〇三	七一	一四、四八・三〇	同	大日本製糖株式會社
北區澤上江町	一丁目六六ノ二	同	五三・九五	七三	五、〇〇・七五	同	古山芳三郎
同	六六ノ三	同	八二・九六	七三	六、〇五・一〇	同	古山宇造
同	六六ノ五	同	三三・〇三	六〇	一、九二・二〇	同	上田コト
同	六六ノ六	同	二・〇三	六〇	一一・八〇	同	山野平一
同	六六ノ七	同	三三・三四	八〇	二、六七・三〇	同	同
同	四丁目三ノ一	同	四四・五五	一一〇	五、三四・〇〇	同	上田コト
同	三ノ四	同	三三・七七	九五	二、二五・六五	同	古山宇造
同	三ノ六	同	一五・〇四	九五	一、四二・八〇	同	同
同	三ノ八	同	一八・七八	九五	一、七八・一〇	同	同
同	一〇一ノ二	同	一二・八〇	一〇〇	一、五三・〇〇	同	同
同	一〇一ノ三	同	四・八一	一〇〇	四八・〇〇	同	同
同	十丁目六九ノ二	同	四七・七九	一〇〇	四七・九〇	同	山野旭
北區中野町	三丁目二〇ノ二	同	三三・四六	六〇	一、三三・六〇	同	井上宗一
同	二〇ノ三	同	六・六一	七〇	四六・七〇	同	岩崎吉次
同		同	八・三九	七〇	五七・三〇	同	井上周

同	二〇ノ四	同	二・七四	七〇	八九・八〇	同	筑紫三郎
同	二〇ノ五	同	〇・二六	七〇	一八・三〇	同	同
同	二〇ノ六	同	六・四七	七〇	四五・二〇	同	同
同	二〇ノ七	同	三・五六	七〇	二四・三〇	同	井上周
同	二〇ノ八	同	〇・四〇	七〇	二八・〇〇	同	同
同	二〇ノ九	同	二二・〇九	七〇	一、四七・三〇	同	同
同	二〇ノ一〇	同	八・三三	七〇	五七・四〇	同	櫻宮神社
同	六七ノ四	同	四〇・一〇	六五	二、六六・五〇	同	野々村亮吉
同	一四ノ九	同	四〇・一一	五〇	二、〇〇・五〇	同	同
同	一四ノ一一	同	二〇・二二	五〇	一、〇〇・〇〇	同	同
北區網島町	一ノ二先	同	五〇・九	一四〇	七二・六〇	同	澤宇三
計			二〇七八・九九		三〇一、三〇・六五		昭和二年度收入 (第三回下水道事業 費收入)

四 主要材料

セメント其他主要材料の購入數量價格は左の如し。

種	目	形質寸法	數量	價格	主ナル購入先	備考
セメント					淺野セメント・豊國セメント・東亞セメント・大分セメント・櫻セメント・中央セメント・大阪窯業各株式會社	

五 主要請負工事

幹枝線其他主要請負工事左の如し。

年度	種	目	員	數	價	格	請	負	人
大正一三	同	四貫島春日出幹枝線第一回築造工事			二、四八一・六四〇		同	同	恩貴島抽水所用
同	同	第二回築造工事			二、五二八・七六〇		同	同	東野田抽水所用
同	同	第一回築造工事			七三、四四六・〇〇〇		同	同	
同	同	追加工事			一四、九七八・一八〇		同	同	
昭和一元	同	第一回築造工事			二、三三三・六三〇		同	同	
同	同	第二回築造工事			二八、四五〇・八〇〇		同	同	
同	同	追加工事			一〇、〇七八・七三〇		同	同	
同	同	第三回築造工事			五、二二五・四八〇		同	同	
同	同	第一回築造工事			六、三三〇・五三〇		同	同	
同	同	第二回築造工事			四、〇三一・九〇〇		同	同	
同	同	路面修築工事			一、二四三・三〇〇		同	同	
大正一三	同	善源寺東野田幹枝線築造工事			三、六〇二・八九〇		同	同	

同	同	第一回築造工事			一〇、四二九・七六〇		同	同	
同	同	追加工事			五、七七八・〇五〇		同	同	
同	同	第二回追加工事			一五、五二六・六〇〇		同	同	
同	同	第二回築造工事			五四、八二五・七二〇		同	同	
同	同	追加工事			二、七五一・八四〇		同	同	
昭和一元	同	第一回築造工事			四七、四八七・四三〇		同	同	
同	同	追加工事			一三、一六六・七二〇		同	同	
同	同	第二回築造工事			五五、四三三・九一〇		同	同	
昭和二元	同	第一回築造工事			五二、三三九・〇六〇		同	同	
同	同	第二回			四、三二六・三二〇		同	同	
同	同	第三回			七、七〇〇・六五〇		同	同	
同	同	第四回			一三、五五〇・一九〇		同	同	
同	同	第五回			九、二二七・三三〇		同	同	
同	同	第六回			四〇、八二〇・二八〇		同	同	
昭和二元	同	理込工事			二、六六九・五二〇		同	同	
同	同				二、六四〇・七八〇		同	同	
同	同				四、七五五・〇六〇		同	同	
同	同				八、四九〇・七九〇		同	同	

同	北區網島町地先水路埋込工事	六、七五九・三五〇	同	一六〇
大正一三	恩貴島抽水所土工並一部基礎工事	五、三三三・四八〇	高木直次郎	
同 一四	築造工事	一三、五五六・四五〇	同	
同	築造追加工事	一八、一六〇・八〇〇	同	
同	唧筒室築造工事	四、三二六・〇〇〇	同	
同	唧筒室衛生設備工事	二、二二七・三七〇	城口權三	
昭和 一五	柵垣其他工事	九、五〇〇・〇〇〇	高木直次郎	
同	埋込工事	八、八二五・〇〇〇	同	
同	唧筒室床鋼桁其他取付工事	一、八七〇・〇〇〇	中井米太郎	
大正一四	東野田抽水所土工並基礎工事	一七、〇〇七・八九〇	株式會社橋本組	
同	混凝土基礎杭工事	四三、九〇〇・〇〇〇	田中猛	
昭和 一五	築造工事	七六、八五三・三三〇	株式會社橋本組	
同	築造追加工事	三三、五八七・四三〇	同	
同	唧筒室衛生設備工事	二、一九一・五〇〇	株式會社須賀商店	
同	唧筒室床鋼桁其他取付工事	一、四七〇・〇〇〇	中井米太郎	
同 二	柵垣其他工事	五、九四〇・〇〇〇	合資會社安田組	
同	鐵管敷設工事	一、〇八八・〇〇〇	藤田鑛業株式會社	

大正一五
昭和 元

西野田抽水所擴張工事

六、七五九・三五〇

合資會社 安田組

第三節 資金の調達

本事業の執行に要する費用は國庫補助金、下水道受益者負擔金、給水料、財産賣却代及其他雜收入を以て之に充て尙不足ある場合は公債に依ることとせり。

一 國庫補助金

大正十三年五月十四日市會は第三回下水道改良費國庫補助申請の件議決したるを以つて同五月廿日内務大臣宛之を稟請したるが、當時政府は緊縮政策を堅持し深甚なる考慮を重ねて急には指令なかりしが、本市理事者は克く當路に向つて其の理解を求むると共に屢々追申を爲したる結果、大正十五年三月廿七日官報號外にて大阪市下水道費補助に關する契約公示されたり。仍つて市は更に大正十五年六月廿四日同補助金の下附を申請し昭和二年三月三十一日左記の補助指令に接するを得たり。

内務省一五阪土第一四四號

大阪府 大阪市

大正十五年六月廿四日付水甲第一、一三七號申請下水道築造費國庫補助ノ件聽届ケ金百拾六萬圓ヲ別記年度割ノ通交付ス 但シ別記ノ通心得ヘシ

昭和二年三月卅一日

- 記
- 一、補助ハ其ノ市下水道築造費金四百參拾萬圓ノ内金參百四拾八萬貳千參百六拾圓ニ對シ補助スルモノトス
 - 二、工事落成シタルトキハ本大臣ニ届出テ完了認定ヲ申請スヘシ
 - 三、工費ニ剩餘アリタルトキハ第一項補助ノ割合ニ依リ之ヲ返還セシムコトアルヘシ
工費用材料ニ剩餘アリタルトキハ時價ニ換算シ之ヲ剩餘ト看做ス
 - 四、市ハ剩餘ヲ生シタル工費若ハ工費用材料ヲ處分セムトスルトキハ其ノ處分ノ方法ヲ定メ本大臣ニ稟伺ス
 - 五、工事豫定ノ通進行セサルトキハ期限ヲ過キ落成ノ見込ナキモノト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ中止シ又ハ補助ヲ取消シ既ニ交付シタル補助金ハ之ヲ返還セシムコトアルヘシ
 - 六、補助ヲ爲シタル下水道設備ノ廢止若ハ變更ニ因リテ生シタル不用土地、物件アリタルトキハ之ヲ時價ニ換算シ第一項補助ノ割合ニ依リ補助金ヲ返還セシムコトアルヘシ

金壹千圓	大正十五年 交付額
金五百圓	昭和元年 交付額
金五百圓	昭和二年 交付額
金八百圓	昭和三年 交付額
金五百圓	昭和四年 交付額
金壹千圓	昭和五年 交付額
金壹千五百圓	自昭和六年 交付額 至昭和九年 交付額

金貳千圓	昭和十年 交付額
金壹千五百圓	昭和十一年 交付額
金參萬五百圓	昭和十二年 交付額
金四萬圓	自昭和十三年 交付額 至昭和十六年 交付額
金五萬圓	自昭和十七年 交付額 至昭和十八年 交付額
金七萬圓	自昭和十九年 交付額 至昭和廿一年 交付額
金拾萬圓	自昭和廿二年 交付額 至昭和廿四年 交付額
金參拾四萬六千二百圓	昭和廿五年 交付額
計金百拾六萬圓	

二 受益者負擔金

下水道改良事業に關する受益者負擔制度に付いては既に大正十二年七月内務省令第廿四號及び同年十月同省令第四〇號あり。

故に本事業に付いても之等の法令に依據して特別負擔金を賦課することに決し、大正十三年九月九日大阪市公報を以つて大阪市計畫第二期下水道改良工事は大正十三年九月十日より施行する旨公示し、一面各關係者に左記印刷物を配付豫告せり。

大正十三年度より同十五年度に亘り第二期都市計畫事業として本市は左記方面の下水道改良工事を施行する事になりましたから其の費用一部に充つる爲め内務省令により不日受益者負擔金の徴收をせねばならぬこととなりますから豫め御承知を願ます
大正十三年八月

記

大 阪 市 役 所

- 一、善源寺東野田方面
 - 東野田町、澤上江町、中野町、善源寺町(以上全部)、野田町、網島町(以上一部)
 - 二、西野田方面
 - 茶園町、大開町一、二丁目(以上全部)、大開町二、三丁目、新家町二丁目(以上一部)
 - 三、四貫島春日出方面
 - 四貫島町(全部)、春日出町、恩貴島南之町(以上一部)
- 内務省令第二十四號
大阪都市計畫事業下水道受益者負擔ニ關スル件左ノ通定ム
大正十二年七月三十一日

内 務 大 臣 水 野 鍊 太 郎

第一條 大阪市ハ都市計畫事業トシテ市長ノ執行スヘキ下水道事業ニ要スル費用ニ充ツル爲本令ノ定ムル所ニ依リ受益者ヲシテ費用負擔セシムヘシ

第二條 本令ニ於テ受益者ト稱スルハ左記各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ第一號ノ期間ニ付テハ事業着手ノ時ヨリ起算ス

一、排水區域内又ハ第六條ニ規定スル地域内ニ在ル有租地ノ所有者但シ質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者十年ヨリ長キ期間ノ定アル地上權、永小作權及賃借權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者、永小作人及賃借人

二、前號ノ區域内又ハ地域内ニ在ル無租地ニシテ公用又ハ公供ノ用ニ供セラレサルモノニ付テハ地上權者、永小作人及賃借人

第三條 排水區域内ニ於ケル受益者ノ總負擔金額ハ工事費ノ四分ノ一以内ニ於テ内務大臣之ヲ定ム(昭和三年三月内務省令第十)一號ヲ以テ四分ノ一二決定)

第四條 各受益者ノ負擔金額ハ前條ノ總負擔金額ニ付土地ノ面積ニ比例シテ之ヲ定ム

第五條 下水道事業ニ付數箇ノ排水區域アル場合ニ於テハ各排水區域内ノ工事費ニ付前二條ノ規定ヲ適用ス

二個以上ノ排水區域ニ共通ノ工事ニ在リテハ其ノ工事費ヲ各關係排水區域内ニ其ノ面積ニ比例シテ配分シ前項ノ工事費ニ算入ス

第六條 下水道ノ全部又ハ一部カ道路ト効用ヲ兼ヌルトキハ前三條ノ規定ニ依ルノ外其部分ノ兩側ニ於テ下水道ノ境界線ヨリ奥行二十間ノ地域内ニ於ケル受益者ヲシテ其部分ノ工事費ノ五分ノ一ニ付其ノ半額ハ當該下水道ニ面スル土地ノ間口ノ長ニ比例シ他ノ半額ハ地域内ノ土地ノ面積ニ比例シ工事費ヲ負擔セシム但シ既設道路ニ下水道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

奥行、地番界、河川、溝渠又ハ並行道路等土地ノ實況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ内務大臣ハ前項ノ規程ニ拘ラス別ニ地域及負擔金額ヲ定ムルコトヲ得

第七條 前條ノ費用ヲ重複シテ負擔スル關係ニ該當スル土地ニ付テハ負擔ノ一部ヲ免除スルコトヲ得

第八條 負擔金ハ工事着手ノ日ノ現在ニ依リ受益者ヨリ之ヲ納付セシム但シ工事着手後五年ヨリ長カラサル期間ニ於テ分納セシムルコトヲ得

第九條 下水道事業ニ要スル費用ヲ補充スル爲土地物件勞力又ハ金錢ヲ寄附シタル者ニ對シテハ其ノ寄附額ノ範圍内ニ於テ本令ニ依ル負擔ヲ減免スルコトヲ得市長カ適當ト認ムル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ之ヲ寄附シタル者ニ付亦同シ

第十條 本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

注 意

- 一、規定第二條第一號ニ該當ノ質權、地上權、永小作權、賃借權ニシテ登記未済ノモノハ土地所有者ニ於テ負擔セラル、コトニナリマスガ前記各権利者ニ於テ負擔スルヲ便利トセラル、向ハ双方連署ニテ御申出ニナレバ便宜ノ取扱ヲ致シマス(届書用紙ハ水道部庶務課デ交付シマス)
- 二、負擔金ハ御希望ニ依リ五ヶ年ヲ限度トシテ利子ヲ付シ相當擔保ノ提供ヲ受ケ分納ヲ許可スル方針デアリマスカラ指定ノ期限内ニ水道部庶務課ニ申出テ下サイ

次いで規定第八條により各排水區工事着手の日ノ現在に於ける受益者を調査し、左の如く總負擔金額及び一坪當り負擔金を決定せり。

- 一、規定(内務省令第二十四號)第二條第一號ノ有租地面積ハ土地台帳ニ依リ調査スルモノトス
- 二、各排水區ノ工事費ヲ左ノ通りトス
 - 1 四貫島春日排水區 百三十九萬八千三百五十九圓
 - 2 善源寺東野田排水區 二百五十七萬六千五百二十九圓
 - 3 西野田 排水區(1) 三十萬六千六百四十五圓
 - 4 西野田 排水區(2) 一萬八千四百六十七圓
- 計 四百三十萬圓

三、各排水區ニ於テ受益者ノ負擔スベキ基本金額(工事費ノ六分ノ一)有租地面積、及び一坪當り負擔金(負擔基本金額ヲ有租地面積ニテ除シタ商)左ノ如シ

排水區別	負擔基本金額 工事費ノ六分ノ一	全面積	無租地	有租地	一坪當り 負擔金
四貫島春日排水區	三三、〇三〇 ^圓	三六、四四三 ^坪 ・六八	三、一四九 ^坪 ・〇〇	二九、二九四 ^坪 ・六八	〇・七六七
善源寺東野田同	四九、四三三	七六、九三・六五	一六、三三六 ^坪 ・〇〇	五二、〇六五 ^坪 ・六五	〇・八二五
西野田(1)同	五、一〇八	七五、五二・一一	一一、三三〇 ^坪 ・〇〇	六四、一八二 ^坪 ・一一	〇・七九二
西野田(2)同	三、〇七八	九、六九三 ^坪 ・六一	三、三六〇 ^坪 ・〇〇	九、三三三 ^坪 ・六一	〇・三三九
計	九一、〇〇〇、〇〇〇	一、一三九、〇一〇 ^坪 ・四五	三三、六〇一 ^坪 ・〇〇	八九、九三九 ^坪 ・四五	平均 〇・七〇四

四、有租地中ノ認定道路敷ニ對シテハ負擔金ヲ徵收セザルモノトス

(イ)善源寺東野田排水區受益者負擔金一坪當り八十二錢五厘ヲ土地區劃整理區内ニ限り左ノ理由ニヨリ一坪當り七十錢二厘ニ減額スルモノトス

理 由

第三回下水道改良事業中善源寺東野田排水區受益者負擔金ハ大正十二年七月内務省令第二十四號ニヨリ工事着手ノ日乃チ本年九月十日現在ノ有租地所有者ヨリ徵收スルモ今回其ノ一部ニ土地區劃整理事業ヲ施行シ下水道幹枝線ヲ其計畫道路ニ敷設スルコトトナリタルタメ下水道用地ヲ買收スルノ必要ナキニ至リ一面有租地面積ハ換地處分ニヨリ幾分減少ヲ來スコトナトル而シテ此減少ハ計畫道路敷ニ充テラレタル爲ナルニヨリ此減少部分ニ對スル負擔金ハ省令第九條制定ノ趣旨ヨリ推定シ徵收セザルヲ穩當ト認メ左記私有地減少ノ割合ニヨリ同地區内一坪負擔金ヲ減額セムトスルモノナリ

記

計畫道路敷

内

五〇、七三七坪

水道測定坪數 三、五二二坪
水路敷合帳面坪數 一四、六三五坪

差引

增加潰地坪數 三二、五八〇坪

私有土地合帳面坪數 二一八、五五五坪

ニ割當ツレバ一割四分九厘〇七ノ減少トナル

今排水區下水道受益者負擔金一坪八十二錢五厘ヨリ前記一割四分九厘〇七ニ相當スル金額ヲ控除スレバ一坪七十錢二厘トナル

(ロ)改良工事施行地域内ニ在ル本市所有地ニ對シテハ一部ニ付免租地域ノ手續ヲ了シ勞々本土地ニ對スル負擔ヲ減免スルモ

何等他ノ受益者ニ對シ影響ヲ及ホサザルヲ以テ特ニ負擔金ヲ徵收セザルコトニス

五、省令第九條ノ減免額ハ寄附金及物件ノ全額トス

六、納付期日ハ大正十四年一月三十一日限リトス、但シ分納希望者ニ對シテハ擔保ヲ徵シ左ノ方法ニヨリ水道部長之ヲ專決ス

ルモノトス

1 分納ハ大正十三、十四、十五年ノ三ヶ年度ヲ限度トシ大正十四年四月以降年一割ノ利子ヲ付スモノトス

2 (イ)分納者ノ納付期日ヲ左ノ通りトス

第一納期 大正十四年一月三十一日(全額納付者ト同一トス)

第二納期 大正十四年九月三十日

第三納期 大正十五年九月三十日

(ロ)善源寺東野田排水區ノ負擔者ニ限リ納付期限ヲ左ノ如ク定ム

納付期限 大正十四年二月十四日

但シ許可スヘキ分納額納付期限ハ左ノ如シ

第一期分納額納付期限 大正十四年二月十四日

第二期分納期 大正十四年九月三十日

第三期分納期 大正十五年九月三十日

3 利子ハ二期ニ分チ分納額ト共ニ徵收スルモノトス 但第二期ニ徵收スヘキ利子ハ未納額(第二、第三分納額)ニ對シ六ヶ月分トシ第三納期ニ徵收スベキ利子ハ未納額(第三分納額)ニ對シ一ヶ年分トス

4 分納ニ對スル擔保ハ本市會計規程ニ依リ保證金ニ代用シ得ヘキ有價證券トシ其ノ充當價格ハ本市發行ノ公債證券ハ其ノ券面額其ノ他ハ提供當時ニ於ケル時價ノ十分ノ九以内トス

但シ本市内ニ居住シ直接國稅年額負擔金ノ百分ノ五ニ相當スル額以上ヲ納付スル保證人二人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

該負擔金は相當多額に亘るを以つて納額告知書發布に先ち豫め負擔率を通知する必要を認めれば、西野田・四貫島排水區負擔者に對しては大正十三年十二月二十五日、善源寺東野田排水區負擔者に對しては大正十四年一月二十日左記の豫告知書を夫々發送せり。

該負擔金は相當多額に亘るを以つて納額告知書發布に先ち豫め負擔率を通知する必要を認めれば、西野田・四貫島排水區負擔者に對しては大正十三年十二月二十五日、善源寺東野田排水區負擔者に對しては大正十四年一月二十日左記の豫告知書を夫々發送せり。

曩ニ御送付申上候本市都市計畫事業下水道工事費負擔ニ關スル規定ニ基キ負擔可相成排水區域内一般負擔金一坪當並ニ其面積ハ左記ノ通りニシテ近日納額告知書發送可致候間御了承相成度爲念御通知申上候也

土地所有地所宛者
退テ分納ノ場合ハ三ヶ年ヲ限度トシ年一割ノ利子ヲ付シ保證人若ハ相當擔保ヲ要スル次第二付御希望ノ方ハ本書到達ノ日ヨリ廿日以内ニ水道部庶務課へ申出相成度申添候

一坪當負擔金 錢 厘 匁
負擔地面積 坪 合 勺

曩ニ届出相成候本市都市計畫事業下水道工事費一般負擔金一坪ニ付 錢 厘ノ割ニシテ近日納額告知書發送可致候間御了承相成度爲念御通知申上候

借人宛
退テ分納ノ場合ハ三ヶ年ヲ限度トシ年一割ノ利子ヲ付シ保證人若クハ相當擔保ヲ要スル次第二付御希望ノ方ハ本書到達ノ日ヨリ廿日以内ニ水道部庶務課へ申出相成度申添候

次いで西野田・四貫島兩排水區に對しては大正十四年一月十六日、善源寺東野田排水區に對しては同一月三十一日納額告知書を配布、左の如き成績にて徴收を了したり。

賦課總額	六七一、四四〇・〇二〇
下水道用地寄附ニヨル	三、八七二・九八〇
賦課免除額	六六七、五六七・〇四〇
徴收額	六七一、四四〇・〇二〇

右徴收額と事業費收入決算額との關係を明瞭ならしむ爲め左に收入年度を掲ぐ

大正十三年度	下水道改良費收入	五四六、一六二・四七〇
大正十四年度	同	五八、三五九・五六〇
大正十五年度	同	五七、七一〇・〇六〇
昭和二年度	同	四四〇・一八〇
計		六六二、六七二・二七〇

備考 別ニ豫算科目雜收入トシテ四、八九四・七七〇收入セリ之ヲ計上セバ六六七、五六七・〇四〇ナリ

工事完成後其の精算額四百八萬八千七百八十四圓は豫算額四百三十萬圓に比し百分の五弱の減少を示し、着手當時豫算により徴收したる受益者負擔金と決算に依る負擔金との間に左表の如き較差を示したるも、大阪都市計畫下水道受益者負擔規定には追徴還付の規定なく解釋上疑義を生じたるも、最近内務省令として發布されたる受益者負擔規定

には追徴還付を原則とし大差なしと認むる時は此の限りにあらざる趣旨を明かに制定したるを以つて、本件の如きは之に該當するものと認め還付の手續を省略することとせり。

第三回下水道改良工事費豫算決算比較表

排水區名	有租地面積	豫算		決算		豫算決算		同坪當差
		工事費負擔總額	一坪當負擔金	工事費負擔總額	一坪當負擔金	負擔總額差	負擔總額	
四貫島春日出	二九六、九四・六六	一、三六、三五九	〇・七三七	一、一七、七三〇	一九九、六三三	〇・六七三	△三三、四三八	△〇・一二四
西野田(一)	六四、五八・一一	三〇六、六四五	〇・七九一	二五四、七六七	四二、四六三	〇・六七七	△八、六四六	△〇・三三四
同(二)	九、三七・六一	一八、四四七	〇・三三九	五八、四四四	九七、七三八	一・〇三元	六、六六〇	〇・七一〇
善源寺東野田	五二〇、五七・三三	二、五七、五三九	〇・八二五	二、五七、八六三	四九、六四四	〇・八二五	△三、二〇三	—
計	八九〇、八六・〇五	四、一〇〇、〇〇〇	—	四、〇八、七四四	六一、四六六	—	△三三、二〇三	—

三公債

本事業の財政計畫に於て財源の根幹を爲すものは又公債收入たらざるべからず。故に理事者は第三回改良工事計畫の案成るや大正十三年五月十日第四回下水道公債條例制定の件を市會に提出五月十四日其の議決を経、同十六日庶甲第四九六號を以つて主務大臣に許可を申請したるに、政府は本事業の緊急且重要性を認められ當時非募債主義を固持せしに拘らず左の如く同年九月三日許可指令ありたり、仍て同月十三日大阪市條

例第七號を以つて第四回下水道公債條例を制定せり。

その全文左記の如し。

内務省阪地第一三〇號

大阪府 大阪市

大正十三年五月十六日庶甲第四九六號稟請第四回下水道公債條例ノ件許可ス

大正十三年九月三日

内務大臣 若槻禮次郎
大藏大臣 濱口雄幸

地第一〇八〇號 大正十三年九月十六日 大阪府 内務部長

大阪市長殿

第四回下水道公債條例ノ件依命通牒

貴市稟請標記ノ件別紙ノ通許可相成候處左記事項措置相成度

記

- 一、條例第三條ニ依リ公債募集引受ヲ爲サシメタルトキハ契約書寫ヲ添ヘ内藏兩大臣ヘ報告スルコト
 - 二、同第八條ニ依リ短期債ヲ起ストキハ内藏兩大臣ノ承認ヲ請フコト
 - 三、同第十條ニ依リ定メタル事項ハ内藏兩大臣ヘ報告スルコト
 - 四、公債募集ノ時期ハ内藏兩大臣ノ承認ヲ請フコト
 - 五、公債募集ヲ爲シタルトキハ其ノ成績ヲ内藏兩大臣ヘ報告スルコト
- 議案第三百三十六號

大阪市第四回下水道公債條例制定ノ件

大阪市第四回下水道公債條例左ノ通相定ムルモノトス

大正十三年五月十日提出

五月十四日市會議決

大阪市長 關

大阪市條例第 號

大阪市第四回下水道公債條例

第一條 本公債ハ本市下水道改良ノ經費ニ充ツル爲大正十三年度ヨリ同十五年度迄ニ手取額金貳百八拾參萬五千圓以内ヲ一回若ハ數回ニ募集スルモノトス

前項公債ノ發行額ハ額面金額參百拾五萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條 本公債ノ利率ハ一ケ年ニ付證券額面金額ノ百分ノ六、五以内トス

第三條 本公債ノ募集ハ特ニ指定シタル銀行又ハ相當ノ資格アル者ヲシテ之ヲ引受ケシムルコトヲ得

第四條 本公債ノ元金及利子ハ給水料、國庫補助金及雜收入ヲ以テ之ヲ支拂フ但シ他ノ資金ヲ以テ支拂フコトヲ妨ケス

第五條 本公債ノ利子ハ毎年二回ニ分チ各其ノ前六ヶ月分ヲ支拂フ但シ六ヶ月ニ滿タサル期間ニ對シテハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

償還ノ期日ヲ定メテ公告シタル公債ノ元金ニハ該期日以後ノ利子ヲ付セス

第六條 本公債ノ元金ハ大正十六年度ヨリ同三十二年度迄ニ別表ノ通抽籤ノ方法ヲ以テ毎年度其ノ一部ヲ償還ス但シ買入銷却ヲ

爲スコトアルヘシ

財政上ノ都合ニ依リ三ヶ月以前ニ豫告シテ償還年限ヲ短縮シ又ハ本公債ノ全部若ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得

第七條 本公債證券ノ様式ハ無記名利札付トス

第八條 市場ノ狀況其ノ他ノ事由ニ因リ必要アルトキハ大正十八年度迄ニ償還スヘキ利率年九分以内ノ短期公債ヲ起シ一時本公債ノ募集ニ代フルコトアルヘシ

前項ニ依リ起債シタル短期公債ノ元金ハ本公債條例ニ依リ募集シタル募集金ヲ以テ之ヲ償還シ利子ハ給水料、國庫補助金及雜收入ヲ以テ支拂フモノトス但シ他ノ收入ヲ以テ之ニ代ヘ又ハ補充スルコトヲ妨ケス

第九條 前條短期公債償還ノ爲ニ本公債ヲ募集スル場合ニハ第一條ノ募集期間ヲ大正十八年度迄トス

第十條 本公債ノ發行價格元利支拂方法其ノ他必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

說明

本市第三回下水道改良ノ經費ニ充ツル爲公債募集ノ要アリ是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

市參事會ノ意見

原案ニ異議ナキモノトス

第四回下水道公債償還年次表

年次	年度	債額	收			支			差引
			給水料	國庫補助金	雜收入	元金	利子	計	
一	大正三	九八,000	五五,070	—	二四,600	—	五九,670	—	〇
二	—	一六六,000	一三〇,八六〇	—	四三,100	—	一六四,060	—	〇
三	—	(二,五三三,000)	一八七,490	—	二六,800	—	二一四,290	—	〇

備考

四	—	三,100,000	三,100,000	100,000	—	—	三,200,000	—	五〇
五	—	三,031,800	三,031,800	100,000	—	—	三,131,800	—	八
六	—	二,八八五,300	二,885,300	100,000	—	—	二,985,300	—	六
七	—	二,七九七,900	二,797,900	100,000	—	—	二,897,900	—	七
八	—	二,五八五,000	二,585,000	100,000	—	—	二,685,000	—	九
九	—	二,四三〇,000	二,430,000	100,000	—	—	二,530,000	—	〇
〇	—	二,三三三,500	二,333,500	100,000	—	—	二,433,500	—	一
一	—	二,二〇七,000	二,207,000	100,000	—	—	二,307,000	—	二
二	—	二,〇七〇,000	二,070,000	100,000	—	—	二,170,000	—	三
三	—	一,八五八,100	1,858,100	100,000	—	—	1,958,100	—	四
四	—	一,六四六,000	1,646,000	100,000	—	—	1,746,000	—	五
五	—	一,四三三,000	1,433,000	100,000	—	—	1,533,000	—	六
六	—	一,二二〇,000	1,220,000	100,000	—	—	1,320,000	—	七
七	—	一,〇〇七,000	1,007,000	100,000	—	—	1,107,000	—	八
八	—	七九四,000	794,000	100,000	—	—	894,000	—	九
九	—	五八〇,000	580,000	100,000	—	—	680,000	—	〇
〇	—	三六六,000	366,000	100,000	—	—	466,000	—	一
一	—	一五二,000	152,000	100,000	—	—	252,000	—	二
二	—	三六,000	36,000	100,000	—	—	136,000	—	三
三	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	四
四	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	五
五	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	六
六	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	七
七	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	八
八	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	九
九	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	〇
〇	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	一
一	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	二
二	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	三
三	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	四
四	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	五
五	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	六
六	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	七
七	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	八
八	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	九
九	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	〇
〇	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	一
一	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	二
二	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	三
三	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	四
四	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	五
五	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	六
六	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	七
七	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	八
八	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	九
九	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	〇
〇	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	一
一	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	二
二	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	三
三	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	四
四	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	五
五	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	六
六	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	七
七	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	八
八	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	九
九	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	〇
〇	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	一
一	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	二
二	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	三
三	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	四
四	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	五
五	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	六
六	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	七
七	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	八
八	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	九
九	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	〇
〇	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	一
一	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	二
二	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	三
三	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	四
四	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	五
五	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	六
六	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	七
七	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	八
八	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	九
九	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	〇
〇	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	一
一	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	二
二	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	三
三	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	四
四	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	五
五	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	六
六	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	七
七	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	八
八	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	九
九	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	〇
〇	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	一
一	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	二
二	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	三
三	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	四
四	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	五
五	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	六
六	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	七
七	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	八
八	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	九
九	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	〇
〇	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	一
一	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	二
二	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	三
三	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	四
四	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	五
五	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	六
六	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	七
七	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	八
八	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	九
九	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	〇
〇	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	一
一	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	二
二	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	三
三	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	四
四	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	五
五	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	六
六	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	七
七	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	八
八	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	九
九	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	〇
〇	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	一
一	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	二
二	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	三
三	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	四
四	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	五
五	—	—	—	100,000	—	—	100,000	—	六
六									

- 一、利率八年六分五厘トシテ計上セリ
- 二、發行價格ハ額面百圓ニ付九拾圓トシテ計算セリ
- 三、雜收入ハ起債ニ依ル收入金ヲ使用スルニ至ル迄預入ル、モノトシ其利子額ヲ計上セリ

(參照ノ一)

第四回下水道公債短期公債募集期間中償還年次表

次年度	起債額		収入		支出		差引額 △不足額	補充 支出額
	長期公債	短期公債	當該年度 雜收入	繰越金	計 元	短期公債 金		
大正	—	—	—	—	—	—	—	—
一三	—	—	—	—	—	—	—	—
二四	—	—	—	—	—	—	—	—
三三	—	—	—	—	—	—	—	—
四二	—	—	—	—	—	—	—	—
五一	—	—	—	—	—	—	—	—
六二	—	—	—	—	—	—	—	—
計	二,七九七,九〇〇	二,八三三,〇〇〇	三,八八七,九〇〇	三,三三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇

備考

- 一、長期公債募集ノ年ハ一ヶ月分ノ利子額ヲ計上セリ
- 二、短期公債ノ利率八年九分トシテ計算セリ
- 三、起債額短期公債欄括弧内ノ数字ハ前年度迄ノ起債額ヲ示シタルモノナリ
- 四、當該年度ノ收入欄ハ長期公債償還財源給水料及國庫補助金(大正十四年度、同十五年度ハ之ヲ除ク)ヲ計上シ割書左傍ニ記載セル金額ハ長期公債ノ募集金ヲ示ス
- 五、雜收入ハ起債ニ依ル收入金ヲ使用スルニ至ル迄預入ル、モノトシ其利子額ヲ計上セリ
- 六、補充支出ニハ市稅其他ノ收入ヲ充ツルモノトス

(參照ノ二)

下水道改良事業費收支調

年度	収入				支出	
	特別負擔金	募債金	給水料	國庫補助金	土地賣却代	雜收入
大正一三	四七,七七七	八六,二〇〇	一五,〇〇〇	—	—	一,〇三三
一四	一四,三三三	一四四,四〇〇	〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	—	一,二六八
一五	一六,五三三	五三,三〇〇	〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	九,二二〇	三,九四九
計	八七,六四三	二七三,九〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	九,二二〇	六,二五〇

(參照ノ三)

特別負擔金收入明細表

年度	即納金	分納金	分納金利息	收入計	備考
大正一三	壹八、三三三	一九、四四四	—	四七、七七七	半額即納ノ見込
一四	—	一九、四四四	三、八八八	一四、三三三	分納金 二三八、八八九圓
一五	壹、四三三	一九、四四四	二、九四四	一六、五五三	一ヶ年分利息 利率年一割
計	四三、四四五	五八、三三三	五、八三三	八七、六四〇	分納金 一、一九、四四五圓
					一ヶ年分利息 利率同

(参照ノ四)

特別負擔豫定表

排水區名	下水道工事費	特別負擔金 (工事費ノ六分ノ一)	負擔土地面積	一坪ニ對スル負擔額
四貫島春日出	一、三九六、五〇三	二二九、〇八三	二九、四五六	〇・七九四
善源寺東野田	二、五七六、三六六	四三九、三九六	五四四、八七四	〇・七八八
西野田(イ)	三〇七、九〇二	五一、三三七	六八、八八〇	〇・七四五
同(ロ)	一七、〇一一	二、八六八	七八、九三三	〇・三六三
計	四、二八〇、〇七二	七二六、六六六	九一五、一〇二	平均 〇・七八三

同上増加負擔豫定表

種別	工事費	間口負擔		奥行負擔	
		負擔金	延間數	負擔金	坪數
下水道ガ道路ト効用ヲ兼 ヌルモノ	三〇八、六六五	三〇、八六九	六、三三三	三〇、八六九	一六、八四〇
在來ノ溝渠ニ下水道ヲ築 造シ道路ト効用ヲ兼ヌル モノ	一一〇、七七	一一、七一一	五、六四〇	一一、七一一	一一、二〇〇
計	三、五七、七三六	三、五七、七三六	一一、九八二	三、五七、七三六	三、五七、七三六

(参照ノ五)

雜收入(預金利息)明細

年度	預金額	期間	利率	利息額
大正一三	八〇〇、〇〇〇	六ヶ月	年六分	二四、六〇〇
一四	一、〇〇〇、〇〇〇	同	同	四三、二〇〇
一五	五〇〇、〇〇〇	同	同	一六、八〇〇
計	一、三〇〇、〇〇〇	—	—	八四、六〇〇

右の如く起債の許可を得たるも金融界の狀勢は長期募債に有利ならざるを以て、大正十三年度事業資金は受益者負

擔金及給水料を以て之に充て、大正十四年度事業資金に充つべく大正十四年十二月山口銀行外七行より百四十萬圓の短期借入を爲し、一面政府に向つては低利資金の供給を申込み、昭和二年三月十八萬三千五百圓の貸付を得たるも、尙起債の必要あり同月山口銀行外七行より百廿五萬一千五百圓の短期借入を爲し、同年十一月後に述ぶる如く第五回下水道公債募債金を以て以上の短期債の償還を爲せり。事業年度内に於ける資金の收支を表示すれば左の通りなり。

種別	年 度			計
	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	
事業費	七四一、二九一・〇〇	一、一五八、七七〇・五	一、四四〇、四四九・三	四、〇八八、七八四・〇三
(資 金)				
特別賦課金	五四六、一六二・四七	五八、五九・六	五七、七一〇・六	四四〇・一八
財産賣却代	一三・〇	二、七八三・〇	二、八三三・二四	二二、五五一・四〇
雑収入	—	二五、〇七八・七四	三、〇六・〇	一、一〇〇・七
國庫補助金	—	—	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
低利資金	—	—	一八三、五〇〇・〇〇	一八三、五〇〇・〇〇
短期債	—	七三、五四八・六	一、〇五六、五〇〇・〇〇	五三〇、〇五三・三
水道費ヨリ組入	一五、〇〇〇・〇〇	一一〇、〇〇〇・〇〇	一五、〇〇〇・〇〇	四五〇、〇〇〇・〇〇

本公債償還財源に充當したる國庫補助金は、大正十六年度より廿八年度迄毎年十萬圓宛下附を受くるものと豫定し財政計畫を樹てたるも、政府に於て決定せられたる國庫補助年度確定額は前項に於て述べたる如く大正三十九年度迄と

なり、而かも現行條例年限中の大部分が毎年僅かに一千圓内外に過ぎずして當初豫定したる金額より著しく減少を來し、補充財源の捻出困難なりしを以て己むを得ず償還年限を延長する事とし、第四回下水道公債條例改正の件大正十五年六月七日市會の議決を経六月廿八日主務大臣に許可を稟請せり。

議案第二百二十一號

大阪市第四回下水道公債條例中改正ノ件

大正十三年九月大阪市條例第七號大阪市第四回下水道公債條例中左ノ通改正スルモノトス

大正十五年 月 日提出

大阪市長 關

大阪市條例第 號

第一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

簡易生保險積立金其ノ他ノ借入ヲ以テ第一項ノ公債募集ニ代フルコトヲ得

第六條中「同三十二年度迄」ヲ「同三十九年度迄」ニ改ム

第八條第一項中「九分」ヲ「八分」ニ改ム

同條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ大正十五年度ニ於テ起ス短期公債ニ付テハ第三項ノ規定ニ依ルコトヲ得

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ノ短期公債ノ償還ニ際シ市場ノ狀況其ノ他ノ事由ニ因リ長期公債ノ募集又ハ引受ヲ爲サシムルコト困難ナリト認ムルト

キハ更ニ大正二十一年度迄ニ償還スヘキ利率年八分以内ノ短期公債ヲ起スコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第九條中「大正十八年度迄」ヲ「大正二十一年度迄」ニ改ム

(別表) 第四回下水道公債償還年次表ヲ別表ノ通改ム

說明

本市第四回下水道公債條例ハ其ノ償還財源トシテ豫定シタル國庫補助年度制確定シタルニ依リ條例及償還年次表改正ノ要アリ是

レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

市參事會ノ意見

原案ニ異議ナキモノトス

(別表)

第四回下水道公債償還年次表

年次年度	債額	收		入		支		出		差引殘
		給水料	國庫補助金	雜收入	計	元金	利子	計		
一 大正一五	三,一五〇,〇〇〇 円	一五,〇六三 円	— 円	二六,五〇〇 円	一五,五五三 円	— 円	一五,五五三 円	三,五五三 円	— 円	— 円
二 一六	三,一五〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	五〇〇	—	三三,五〇〇	二八,七〇〇	二〇四,七五〇	三三,五〇〇	三三,五〇〇	五〇
三 一七	三,一三一,三〇〇	三三,〇〇〇	〇〇	—	三三,〇〇〇	三〇,九〇〇	二〇二,八八五	三三,〇〇〇	三三,七六五	一五
四 一八	三,〇九〇,四〇〇	三三,〇〇〇	五〇〇	—	三三,五〇〇	三,六〇〇	二〇〇,八七六	三三,〇〇〇	三三,四七六	二四
五 一九	三,〇七〇,八〇〇	三三,〇〇〇	一〇〇〇	—	三三,〇〇〇	三,二〇〇	一九八,七五七	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	四三
六 二〇	三,〇三二,六〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	三六,〇〇〇	一九六,四六九	三三,〇〇〇	三三,四六九	三

七 二一	二,九八四,六〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	四〇,五〇〇	一九三,九九九	三三,〇〇〇	三三,四九九	一
八 二二	二,九四四,一〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	四三,一〇〇	一九一,三六七	三三,〇〇〇	三三,四六七	三
九 二三	二,九一〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	四九,四〇〇	一八五,五八二	三三,〇〇〇	三三,四九二	五
一〇 二四	二,八五五,一〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	五二,一〇〇	一八二,三七一	三三,〇〇〇	三三,四七一	六
一一 二五	二,八五五,七〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	四九,四〇〇	一八五,五八二	三三,〇〇〇	三三,四九二	六
一二 二六	二,七五三,六〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	八四,五〇〇	一七八,九八四	三三,〇〇〇	三三,四八四	八
一三 二七	二,六六九,一〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	九九,五〇〇	一七三,四九二	三三,〇〇〇	三三,四九二	八
一四 二八	二,五六九,六〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	一五,〇〇〇	一六七,〇二四	三三,〇〇〇	三三,二九四	七
一五 二九	二,四三三,七〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	一一,八〇〇	一六〇,一四一	三三,〇〇〇	三三,一四一	五
一六 三〇	二,三三〇,九〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	一一,〇〇〇	一五三,八〇九	三三,〇〇〇	三三,二〇九	九
一七 三一	二,二三〇,八〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	一七,九〇〇	一四九,〇三九	三三,〇〇〇	三三,二三九	六
一八 三二	二,〇九二,九〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	一四,六〇〇	一三六,四九〇	三三,〇〇〇	三三,一四〇	〇
一九 三三	一,九四六,〇〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	一七,九〇〇	一二六,四九〇	三三,〇〇〇	三三,一四〇	〇
二〇 三四	一,七六九,五〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	一八,七〇〇	一一五,一〇八	三三,〇〇〇	三三,一〇八	二
二一 三五	一,五八一,〇〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	一〇,一〇〇	一〇二,八〇四	三三,〇〇〇	三三,一〇四	二
二二 三六	一,三八一,五〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	一四,一〇〇	八九,七九六	三三,〇〇〇	三三,一〇九	二
二三 三七	一,一三八,〇〇〇	三三,〇〇〇	一,五〇〇	—	三三,五〇〇	二五,九〇〇	七三,九九〇	三三,〇〇〇	三三,一〇〇	〇
二四 三八	八七九,〇〇〇	三三,〇〇〇	一,〇〇〇	—	三三,〇〇〇	二七,八〇〇	五七,一五五	三三,〇〇〇	三三,一五五	五
二五 三九	六〇三,五〇〇	三三,〇〇〇	一,〇〇〇	—	三三,〇〇〇	六三,五〇〇	三九,三三六	三三,〇〇〇	三三,一三六	一

計 5,705,511,159,000 28,500 6,680,913,150,000 3,875,586 6,687,158 933

備考

- 一、大正十五年度ハ九ヶ月分ノ利子ヲ計上セリ
- 二、利率ハ年六分五厘トシテ計算セリ
- 三、發行價格ハ額面百圓ニ付九拾圓トシテ計算セリ
- 四、雜收入ハ募債金ヲ使用スルニ至ル迄預入ル、モノトシ其ノ利子額ヲ計上セリ

(参照ノ一)

第四回下水道公債短期公債募集期間中償還年次表

年度	起債額		収入		支出		計	差引額 △不 額	補充 支出 額
	長期公債	短期公債	當該年度 收入	雜收入 金	計	短期公債 元金			
大正	1,150,000	2,850,000	1,880,633	28,500	2,665,133	1,701,100	2,331,100	△166,567	166,567
一	150,000	1,100,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	—
二	160,000	1,100,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	—
三	170,000	1,100,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	—
四	180,000	1,100,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	—
五	190,000	1,100,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	—
六	200,000	1,100,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	—
七	210,000	1,100,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	—
計	1,940,000	2,850,000	1,880,633	28,500	2,665,133	1,701,100	2,331,100	△166,567	166,567

七 二二、九四四、100

二、三四、五〇〇

一一、二、八八四、101 二、七九三、八〇〇

二二、三、五〇四、三〇三、一五二 二、四九、〇五〇 一、四九、〇五〇

計 二、九四四、100

二、八五、〇〇〇 四、二四、一五五、三二六、五〇〇

一、五二、四、一〇七、101 二、八五、〇〇〇

一、五、九八八、一、五八四、六九二、四、四三五、六四〇

△一六、四四一、一六、五八七

備考

- 一、長期公債募集ノ年ハ一ヶ月分ノ利子額ヲ計上セリ
- 二、短期公債ノ利率ハ年八分トシテ大正十五年度ハ九ヶ月分ヲ計算セリ
- 三、起債額短期公債欄括弧内ノ數字ハ前年度ノ起債額ヲ示シ大正十五年度短期公債利子割書左傍ニ記載セル金額ハ百四十萬圓ニ對スル七ヶ月半分ノ利子ヲ示シタルモノナリ
- 四、當該年度ノ收入欄ハ長期公債償還財源給水料及國庫補助金(大正十五年度ハ之ヲ除ク)ヲ計上シ割書左傍ニ記載セル金額ハ長期公債ノ募集金ヲ示ス
- 五、雜收入ハ起債ニ依ル收入金ヲ使用スルニ至ル迄預入ル、モノトシ其ノ利子額ヲ計上セリ
- 六、補充支出ニハ給水料其他ノ收入ヲ充ツルモノトス

(参照ノ二)

大正十五年度公債ニ關スル收支計算表

種別	債額	利率	収入		支出		計	差引 殘額
			募債金	給水料 國庫補助金 雜收入	計	元金 利子		
長期公債	3,150,000 (九ヶ月)	六分五厘	1,150,000	28,500	1,538,563	1,538,563	—	
計			1,150,000	28,500	1,538,563	1,538,563	—	